

おおた 都市づくり ビジョン

～ 2030年代の都市の将来像を見据え～



おおた都市づくりビジョンの策定にあたって

大田区は、羽田空港の再拡張・国際化及び空港跡地利用など新たな課題、少子高齢化の進展や工場数の減少などの社会動向の変化に対応するため、「大田区都市計画マスタープラン」を平成23年3月に改定いたしました。

その後、東日本大震災の発災や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催決定、区内では蒲田、大森、空港跡地及び臨海部におけるまちづくりの進展や地域の拠点におけるまちづくり機運の醸成など、区の内外を取り巻く情勢は大きく変化いたしました。

このような状況のもと、明確なビジョンを持ってまちづくりを推進していくためには、まちづくり分野の各施策の方向性や都市の将来像をわかりやすく可視化し区民と共有することが求められています。

羽田空港・港湾に面し、重要な幹線道路が多数貫く大田区は、東京圏における重要な交通結節点であり、ヒト・モノ・情報が集積・交流するエリアです。また、日本のゲートウェイである羽田空港を中心としたまちづくりの進展は、大田区だけでなく首都圏へもその効果を及ぼすものです。

大田区の有する高いポテンシャルを将来像として描くことで「魅力ある大田区」を示し、多方面からまちづくりへのご意見を頂くとともに、参画を促進することも求められています。そこで、まちづくりに影響を与える社会情勢の変化等を加味した上で「大田区都市計画マスタープラン」の具体化に向け、この度、「おおた都市づくりビジョン」を策定いたしました。

今後は、「おおた都市づくりビジョン」で例示した将来像の実現に向け、魅力ある大田区の都市づくりを進めてまいります。区民の皆様、事業者の皆様のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

平成29年3月

大田区長

松原忠義



おおた都市づくりビジョン 目次

第1章 おおた都市づくりビジョン策定の目的と位置づけ

- 1-1 ビジョン策定の目的と位置づけ 1
- 1-2 目標年次 4

第2章 都市づくりに関わる動向

- 2-1 大田区を取り巻く周辺動向 5
- 2-2 大田区の都市づくりに関わる動向 10

第3章 都市の将来像

- 3-1 新たな都市づくりの視点 12
- 3-2 重点プロジェクトのテーマ 15
- 3-3 将来都市構造 16

第4章 重点プロジェクトの推進

- 重点プロジェクト及び重点地区の設定 17

<エリアが特定できるテーマ>

- 4-1 スクエアの連携 21
 - ①蒲田駅周辺 ②大森駅周辺 ③羽田空港周辺 ④臨海部
- 4-2 新空港線軸の形成 45
 - ⑤羽田地区 ⑥糀谷駅周辺 ⑦下丸子駅周辺 ⑧田園調布・多摩川
- 4-3 駅周辺の魅力ある生活環境の形成 55
 - ⑨池上駅周辺 ⑩大岡山駅周辺 ⑪雑色駅周辺

<区全体に関わるテーマ>

- 4-4 スポーツ健康都市づくり 63
- 4-5 観光エリアの形成・連携 65
- 4-6 防災まちづくり 72
- 4-7 みどりあふれる低炭素まちづくり 75
- 4-8 中央防波堤埋立地の将来的な利活用 78
- 4-9 公共施設の適正配置 80

第5章 ビジョンの実現に向けて

- 地域力の結集・発揮による都市づくり 83

○策定経緯 85

○用語集 87

第1章 おおた都市づくりビジョン策定の目的と位置づけ

1-1. ビジョン策定の目的と位置づけ

(1) 背景

「大田区都市計画マスタープラン」(以下「マスタープラン」という。)の改定(平成23年3月)以降、区を取りまく状況は、以下のように大きな変化が生じています。

- ①羽田空港の国際化、東日本大震災の発災、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催決定
- ②新空港線整備の実現性の高まり、各地域拠点におけるまちづくりの進展
- ③「大田区人口ビジョン」、「大田区公共施設適正配置方針」など新たな計画等の策定

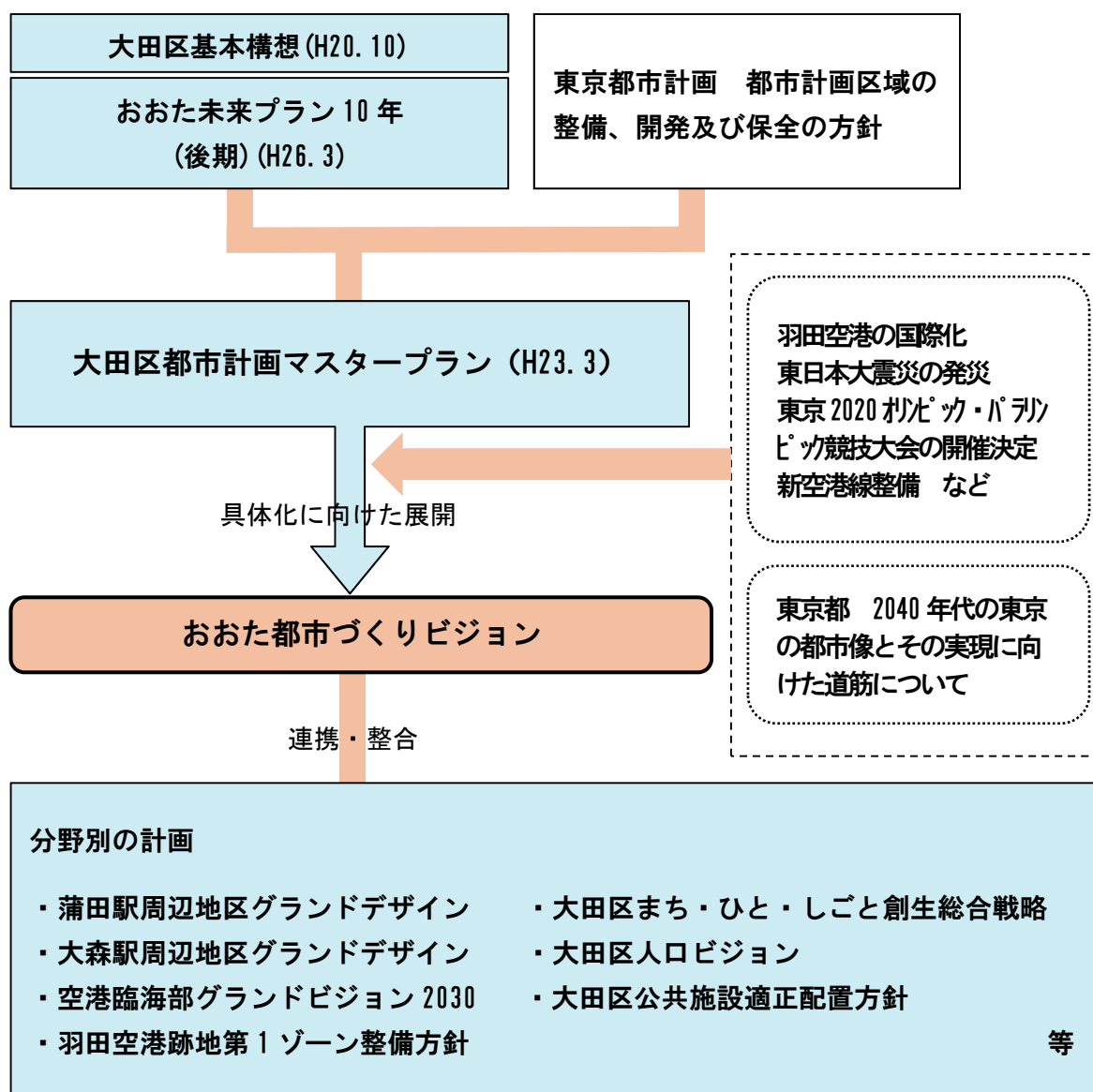
(2) 目的

社会情勢の変化等を踏まえつつ、明確なビジョンを持ってまちづくりを推進するために「おおた都市づくりビジョン」を策定します。

- ①マスタープランの具体化に向けた展開
- ②まちづくり分野の各施策の方向性や都市の将来像をわかりやすく可視化し区民と共有
- ③政策連携による総合的、一体的な都市づくりを推進

(3) おおた都市づくりビジョンの位置づけ

おおた都市づくりビジョンは、マスタープランの具体化に向けた展開を図り、区全体のまちづくりの方向性を示すとともに、都市の将来像をわかりやすく可視化します。



(4) おおた都市づくりビジョンの構成

おおた都市づくりビジョンの構成を以下に示します。

2030年代の大田区の都市将来像

まちづくりの「将来像」をビジュアルに提示

第1章 おおた都市づくりビジョン策定の目的と位置づけ

第2章 都市づくりに関わる動向

第3章 都市の将来像

マスタープラン策定後の動向を

踏まえ、新たな都市づくりの視点を設定

- ①東京圏の一翼を担う広域拠点性の向上
- ②新空港線整備を契機とした沿線のまちづくりと地域の活性化
- ③地域経済のイノベーションと持続的な成長を牽引する産業と創造のまちづくり
- ④羽田空港の国際化と東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会開催等の機会を捉えた世界とつながる観光都市づくり
- ⑤多様化するライフスタイルへの対応と生活を支える拠点の魅力向上
- ⑥巨大地震など未曾有の自然災害にも的確に対応する安全・安心なまちづくり
- ⑦低炭素社会の構築など快適で持続可能なみどりのまちづくり
- ⑧将来のまちづくりを見据えた効果的・効率的な公共施設マネジメント

第4章 重点プロジェクトの推進

<エリアが特定できるテーマ>

- ①スクエアの連携
- ②新空港線軸の形成
- ③駅周辺の魅力ある生活環境の形成

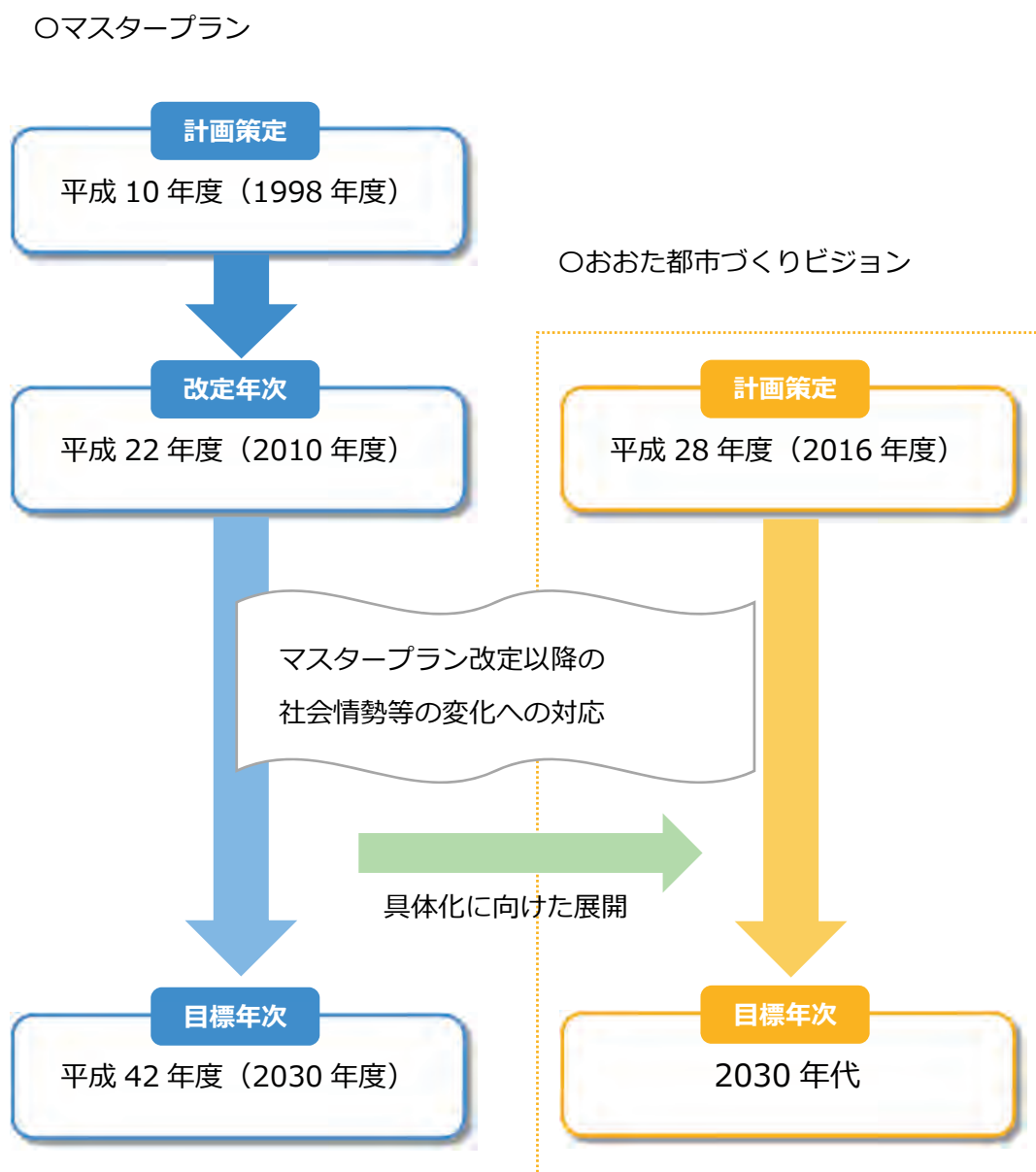
<区全体に関わるテーマ>

- ④スポーツ健康都市づくり
- ⑤観光エリアの形成・連携
- ⑥防災まちづくり
- ⑦みどりあふれる低炭素まちづくり
- ⑧中央防波堤埋立地の将来的な利活用
- ⑨公共施設の適正配置

第5章 ビジョンの実現に向けて

1-2. 目標年次

おおた都市づくりビジョンは、マスタープランの目標年次を踏まえつつ、概ね 2030 年代の目指すべき都市の姿を見据えます。



第2章 都市づくりに関わる動向

2-1. 大田区を取り巻く周辺動向

マスタープラン改定（平成23年3月）後の、大田区を取り巻く周辺動向として以下が挙げられます。

（1）社会動向

- ①東日本大震災（平成23年3月）、関東・東北豪雨（平成27年9月）、熊本地震（平成28年4月）
⇒首都直下地震対策、津波対策やエネルギー自立など防災意識の高まり
- ②東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催決定（平成25年9月）
⇒訪日観光需要の増加など経済効果、スポーツ振興の気運の高まり
- ③全国の人口は減少（平成27年国勢調査）
⇒国勢調査開始以来、初めての減少（全国的には都市縮小の時代が到来）
- ④訪日外客数が、2,400万人を超える（平成28年）
⇒対前年比21.8%増（東京都を訪れた外国人旅行者は1,189万人、平成27年）

（2）国や東京都の計画等

【国の計画等】

- ①国家戦略特区（大田区を含む東京圏、平成26年5月）
⇒産業の国際競争力の強化、国際的な経済活動の拠点形成
国際戦略総合特区（羽田空港跡地、平成23年12月）
⇒空港跡地を「成長戦略拠点」に
- ②交通政策審議会 東京圏における今後の都市鉄道のあり方に関する小委員会答申（平成28年4月）
⇒新空港線整備促進
- ③首都圏広域地方計画（平成28年3月）
⇒「多摩川国際臨空拠点群の創出プロジェクト」
- ④大都市戦略（平成27年8月）
⇒大都市におけるコンパクト+ネットワーク

【東京都の計画等】

- ⑤東京都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（平成26年12月）
- ⑥東京都 2040年代の東京の都市像とその実現に向けた道筋について 答申（平成28年9月） ⇒「交流・連携・挑戦」「個性ある多様な拠点」
- ⑦東京港第8次改訂港湾計画（平成26年12月）
⇒世界とつながる国際貿易拠点港、中央防波堤埋立地の機能強化
- ⑧東京における都市計画道路の整備方針（第四次事業化計画）（平成28年3月）

(3) 区周辺の開発動向

リニア中央新幹線や新空港線、国道 357 号多摩川トンネルなど、大田区を取り巻く鉄道網・道路網の整備が進展します。また、平成 26 年 3 月に羽田空港国際線ターミナルが拡張され、空港容量の更なる拡大と国際線の増枠などの機能強化が取組まれています。

以下に、東海道線・京浜東北線沿線、臨海部、多摩川沿いといった広域的視点から、周辺動向を整理します。

1. 東海道線・京浜東北線沿線

東京都「2040 年代の東京の都市像とその実現に向けた道筋について 答申」では、大田区は「中枢広域拠点（都心部）」から「横浜・川崎・木更津広域拠点」に至る広域的な軸の中間に位置しています。

① 国家戦略特区などによる都心部の開発

- ・ 国家戦略特区（平成 26 年 5 月）により規制緩和を得たプロジェクトなど、巨大開発による国際的なビジネスエリアの形成
- ・ 東京駅周辺、大手町・虎ノ門、赤坂、六本木・日本橋、京橋・銀座、日比谷など

② リニア中央新幹線の整備促進（品川駅の拠点性向上）

- ・ リニア中央新幹線 着工（平成 26 年 12 月）
品川駅-名古屋駅間開業予定（平成 39 年予定）
- ・ 品川駅・田町駅周辺では、今後再開発が本格化（平成 26 年 9 月、品川駅・田町駅周辺まちづくりガイドライン）

③ 川崎駅・横浜駅周辺における拠点性の向上

- ・ 川崎駅東口駅前広場整備（平成 23 年 3 月）
- ・ 横浜駅周辺では、駅西口や横浜市新市庁舎などの整備が予定（平成 32 年予定）

2.臨海部

千葉から神奈川に至る臨海部では、広域交通ネットワークの形成や、東京港第8次改訂港湾計画（平成26年12月）の推進などにより、ポテンシャルが向上しています。また、区は臨海部重点プロジェクト（羽田旭町周辺地区・流通センター駅周辺地区・大森ふるさとの浜辺公園周辺地区、平成26年3月）を推進しています。

①スポーツ施設の集積

- ・ベイエリアに五輪施設が立地予定（平成32年予定）

②物流施設の整備・高度化

- ・羽田クロノゲート（平成25年9月）をはじめ、大型の物流施設が臨海部に立地

③産業の広域連携（産業イノベーション）

- ・羽田空港跡地を「成長戦略拠点」として産業交流施設等を整備（平成32年概成予定）
- ・殿町国際戦略拠点・横浜サイエンスフロンティア
（平成23年12月、京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区指定）
- ・広域連携の推進
 - ・国道357号多摩川トンネル整備促進（平成28年2月事業着手）
 - ・羽田連絡道路（平成28年4月、内閣府地方創生推進事務局・羽田空港周辺・京浜臨海部連携強化推進委員会）
 - ・大田区と川崎市との産業連携に関する基本協定締結（平成25年4月）

④中央防波堤埋立地に期待される役割の高まり

- ・物流、観光、環境、スポーツ等の機能強化推進（東京港第8次改訂港湾計画）

3.多摩川沿い

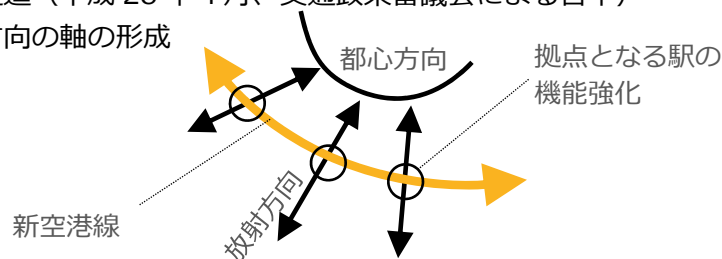
「首都圏広域地方計画（平成28年）」では、多摩川下流域において、「多摩川国際臨空拠点群の創出プロジェクト」が位置づけられています。

①二子玉川や武蔵小杉におけるまちづくりの進展

- ・二子玉川における企業立地（平成27年3月、二子玉川ライズ完成）
- ・武蔵小杉駅南口地区の再開発（平成28年1月）
（大手不動産会社7社による住んでみたい街アンケート（平成28年9月）では、首都圏で二子玉川が第5位、武蔵小杉が第9位に上昇した）

②新空港線の整備促進

- ・新空港線整備促進（平成28年4月、交通政策審議会による答申）
⇒新たな環状方向の軸の形成



③水とみどりのネットワーク形成

- ・豊かな水環境や樹林等の自然環境と調和した拠点形成（首都圏広域地方計画）

前ページで示した、大田区を取り巻く周辺動向（広域的視点）を図示します。





- 1. 東海道線・京浜東北線沿線
 - ① 国家戦略特区などによる都心部の開発
 - ② リニア中央新幹線の整備促進（品川駅の拠点性向上）
 - ③ 川崎駅・横浜駅周辺における拠点性の向上
- 2. 臨海部
 - ① スポーツ施設の集積
 - ② 物流施設の整備・高度化
 - ③ 産業の広域連携（産業イノベーション）
 - ④ 中央防波堤埋立地に期待される役割の高まり
- 3. 多摩川沿い
 - ① 二子玉川や武蔵小杉におけるまちづくりの進展
 - ② 新空港線の整備促進
 - ③ 水とみどりのネットワーク形成

2-2. 大田区の都市づくりに関わる動向

マスタープラン改定（平成 23 年 3 月）後の、大田区のまちづくりに関わる動向として以下が挙げられます。

（1）区の計画等

○上位計画

①「おおた未来プラン 10 年 後期」（平成 26 年 3 月）

○平成 27 年度に策定された新たな計画

②「大田区人口ビジョン」（平成 28 年 3 月）

⇒今後の人口増加や就業人口維持等、少子化・高齢化の確実な進行

③「大田区まち・ひと・しごと創生総合戦略」（平成 28 年 3 月）

⇒創造のまち、国際都市としての発展、未来を担う若い世代の活力あふれるまち

④「大田区公共施設適正配置方針」（平成 28 年 3 月）

⇒効果的・効率的な施設マネジメントによる区民サービスの維持、向上の実現

○関連計画

⑤「大田区住宅マスタープラン」（平成 23 年 3 月）

⑥「大田区緑の基本計画 グリーンプランおおた」（平成 23 年 3 月）

⑦「大森駅周辺地区ランドデザイン」（平成 23 年 3 月）

⑧「大田区環境基本計画」（平成 24 年 3 月）

⑨大田区みどりの条例（平成 25 年 4 月）

⑩「大田区景観計画」（平成 25 年 10 月）

⑪「蒲田駅周辺再編プロジェクト」（平成 25 年 12 月）

（「蒲田駅周辺地区ランドデザイン」、平成 22 年 3 月）

⑫「大田区観光振興プラン推進のための重点計画」（後期、平成 26 年 3 月）

⑬「羽田空港跡地第 1 ゾーン整備方針」（平成 27 年 7 月）

⑭「大田区オリンピック・パラリンピック アクションプログラム」（平成 27 年 10 月）

（スポーツ健康都市宣言、平成 24 年 6 月）

⑮「大田区環境基本計画」（後期、平成 29 年 3 月）

等

（2）公共施設等の整備動向

①大田区総合体育館整備（平成 24 年 3 月）

②京浜急行線連続立体交差事業の事業区間全線高架化（平成 24 年 10 月）

③蒲田立体（南蒲田交差点）の供用開始（平成 24 年 12 月）

④障がい者総合サポートセンター（さぽーとぴあ）整備

⑤多摩川台公園の整備拡充、田園調布せせらぎ公園の整備拡充

⑥洗足池公園の整備拡充、（仮称）勝海舟記念館（旧清明文庫）の整備

⑦大田区画街路第 4・5・6・7 号線の整備推進、補助第 28 号線の整備促進

等

(3) 地域におけるまちづくりの動向

①蒲田駅周辺	<ul style="list-style-type: none"> ・外客受入戦略拠点に選定（平成 23 年 4 月、観光庁） ・京浜急行線連続立体交差事業の事業区間全線高架化（平成 24 年 10 月） ・蒲田駅周辺再編プロジェクト（平成 25 年 12 月）の進捗 ・国家戦略道路占用事業の認定「さかさ川通り」（平成 27 年） ・京急蒲田西口駅前地区第一種市街地再開発事業（平成 27 年 12 月） ・京急蒲田西口地区まちづくり研究会 ・大田区画街路第 7 号線、大田第 9 号蒲田駅東口地下自転車駐車場の事業着手（平成 28 年 4 月） ・新空港線整備の促進（実現性の高まり） ・公共施設適正配置の検討
②大森駅周辺	<ul style="list-style-type: none"> ・大森八景坂地区まちづくり協議会による計画案の提案（平成 27 年 3 月） ・大森駅周辺地区ランドデザイン・アクションプランの進捗 ・補助第 28 号線（池上通り）の整備促進（第四次事業化計画 優先整備路線として選定） ・駅周辺街区における再開発の動き ・公共施設適正配置の検討
③羽田空港周辺	<ul style="list-style-type: none"> ・羽田空港跡地の開発の進展 ・国道 357 号多摩川トンネルの整備促進 ・羽田連絡道路の位置づけ ・大田区画街路第 4・5・6 号線の事業着手（平成 28 年 10 月） ・羽田の防災まちづくりの整備計画の策定（平成 26 年 3 月） ・不燃化特区の指定（羽田二・三・六丁目地区）（平成 27 年 4 月） ・公共施設適正配置（（仮称）羽田一丁目・四丁目複合施設）（平成 30 年度竣工予定）
④臨海部	<ul style="list-style-type: none"> ・空港臨海部の重点プロジェクト（羽田旭町周辺地区、流通センター駅周辺地区、大森ふるさとの浜辺公園周辺地区）の位置づけ（平成 26 年 3 月） ・大田区臨海部 3 島全体連絡協議会（平成 26 年 3 月） ・大田臨海部まちづくり協議会（平成 26 年 5 月） ・平和島ユースセンターの整備（平成 31 年度竣工予定）
⑤下丸子駅周辺	<ul style="list-style-type: none"> ・新空港線の整備に合わせて、駅周辺基盤整備の必要性の高まり（駅舎の改良、道路・駅前広場の整備、線路の立体化、駅周辺のまちづくり） ・補助第 28 号線（池上通り）の整備促進（第四次事業化計画 優先整備路線として選定）
⑥田園調布 ・多摩川	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩川台公園の整備拡充 ・田園調布せせらぎ公園の整備拡充 ・公共施設適正配置（田園調布特別出張所等）（平成 32 年度以降）
⑦糀谷駅周辺	<ul style="list-style-type: none"> ・防災街区整備地区計画の策定（平成 23 年 10 月） ・都市防災不燃化促進事業の導入（平成 24 年 4 月） ・京浜急行線連続立体交差事業の事業区間全線高架化（平成 24 年 10 月） ・不燃化特区の指定（大森中地区（西糀谷・東蒲田・大森中））（平成 25 年 4 月） ・糀谷駅前地区第一種市街地再開発事業（平成 29 年 3 月完了予定）
⑧池上駅周辺	<ul style="list-style-type: none"> ・池上駅駅舎改築計画 ・駅周辺基盤整備の検討 ・池上地区まちづくり協議会（平成 26 年 3 月） ・まいせん（馬込・池上・洗足池）の連携による観光振興
⑨洗足池 ・大岡山	<ul style="list-style-type: none"> ・大岡山地区まちづくり協議会（平成 23 年 3 月） ・まいせん（馬込・池上・洗足池）の連携による観光振興 ・洗足池公園の整備拡充、（仮称）勝海舟記念館（旧清明文庫）の整備（平成 29 年度工事着手） ・公共施設適正配置の検討
⑩平和島駅周辺	<ul style="list-style-type: none"> ・平和島駅周辺地区まちづくり協議会（平成 22 年 4 月） ・駅前歩行者環境改善の検討
⑪雑色駅周辺	<ul style="list-style-type: none"> ・京浜急行線連続立体交差事業の事業区間全線高架化（平成 24 年 10 月） ・駅前広場整備等の検討 ・雑色駅周辺まちづくり研究会 ・公共施設適正配置（六郷地域力推進センター）（平成 26 年 2 月）
⑫西馬込駅周辺	<ul style="list-style-type: none"> ・まいせん（馬込・池上・洗足池）の連携による観光振興 ・公共施設適正配置の検討

第3章 都市の将来像

3-1. 新たな都市づくりの視点

マスタープランは平成23年3月に改定されましたが、その後の社会動向の変化を踏まえ、新たに追加・強化すべき視点を本ビジョンでは設定します。

マスタープラン改定後の社会動向の変化と次ページで示す新たに追加・強化すべき視点との関係（主なもの）を示します。

1. マスタープラン改定後の社会動向の変化

<大田区を取り巻く周辺動向（P5～9 参照）>

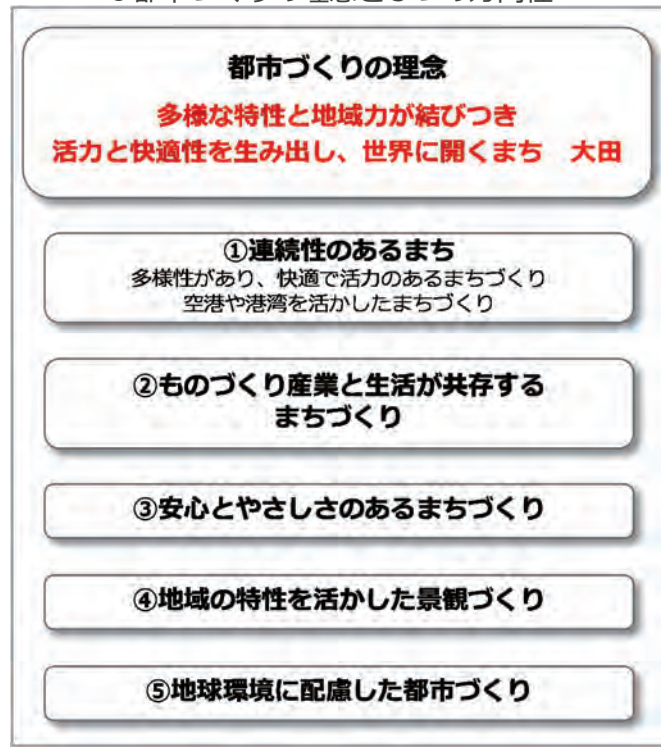
- ①特区制度（国家戦略特区：大田区を含む東京圏、国際戦略総合特区：空港跡地）、交通ネットワークの整備、隣接区市との産業連携により、広域的な交流を生み出すポテンシャルが向上 ➡ 視点(1)～(4)
- ②新空港線の実現性の高まりや二子玉川、武蔵小杉におけるまちづくりの進展による、新たな多摩川沿いの軸の形成 ➡ 視点(2)(5)
- ③羽田空港の機能強化、品川駅などの拠点性向上による観光需要の高まり ➡ 視点(4)
- ④東日本大震災などによる、防災意識の高まりと課題の明確化 ➡ 視点(6)
- ⑤臨海部における、中央防波堤埋立地の機能強化 ➡ 視点(3)(7)

<大田区の都市づくりに関わる動向（P10～11 参照）>

- ①少子高齢化の一層の進行（「大田区人口ビジョン」） ➡ 視点(5)
- ②持続可能な都市の実現に向けた取組や、臨海部をはじめとしたみどりづくり（「大田区環境基本計画（後期）」、「大田区緑の基本計画 グリーンプランおた」） ➡ 視点(7)
- ③公共施設の老朽化や区民ニーズの多様化・高度化への対応（「大田区公共施設適正配置方針」） ➡ 視点(8)
- ④蒲田駅周辺、大森駅周辺、羽田空港周辺、臨海部、下丸子駅周辺、池上駅周辺などにおけるまちづくりの動き ➡ 視点(1)～(5)(8)
- ⑤スポーツ健康都市宣言 ➡ 視点(5)

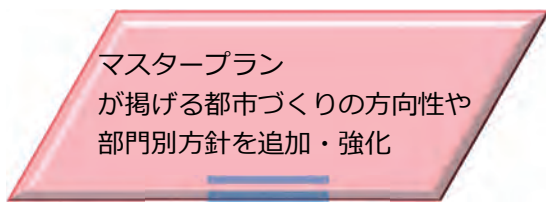
2. マスタープラン（H23 年度改定）の都市づくりの方向性と部門別方針

◎都市づくりの理念と5つの方向性



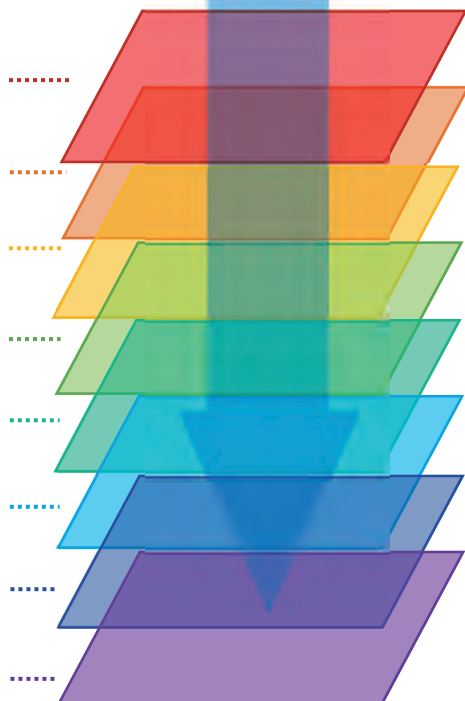
◎9つの部門別方針

- ①土地利用方針
- ②交通ネットワークの整備方針
- ③水と緑の整備方針
- ④安全・安心のまちづくり方針
- ⑤ユニバーサルデザインのまちづくり方針
- ⑥住宅・住環境整備の方針
- ⑦産業のまちづくり方針
- ⑧景観のまちづくり方針
- ⑨環境のまちづくり方針



3. 新たに追加・強化すべき視点

- (1) 東京圏の一翼を担う広域拠点性の向上
- (2) 新空港線整備を契機とした沿線のまちづくりと地域の活性化
- (3) 地域経済のイノベーションと持続的な成長を牽引する産業と創造のまちづくり
- (4) 羽田空港の国際化と東京 2020 札幌・パリ競技大会開催等の機会を捉えた世界とつながる観光都市づくり
- (5) 多様化するライフスタイルへの対応と生活を支える拠点の魅力向上
- (6) 巨大地震など未曾有の自然災害にも的確に対応する安全・安心なまちづくり
- (7) 低炭素社会の構築など快適で持続可能なみどりのまちづくり
- (8) 将来のまちづくりを見据えた効果的・効率的な公共施設マネジメント



社会動向の変化に対応した新たな都市づくりの視点

○新たに追加・強化すべき視点

マスタープラン改定後の社会動向の変化を踏まえて、新たに追加・強化すべき視点を設定します。

(1) 東京圏の一翼を担う広域拠点性の向上

広域的視点では、大田区は都心部と横浜・川崎の広域拠点間に位置しています。その中で、独自の個性を持った機能集積や価値を発揮していくことが重要です。

そのためには、マスタープランに位置づけられた中心拠点（蒲田、大森、羽田空港周辺）や、区内臨海部（中央防波堤埋立地を含む[※]）といった拠点相互のつながりを強化し、産業面・交流面での「連携」を形づくる必要があります。

※中央防波堤埋立地の帰属は決定していません。

(2) 新空港線整備を契機とした沿線のまちづくりと地域の活性化

新空港線の整備により、沿線のポテンシャル向上や、区内の移動利便性の向上及び副都心方面への鉄道ネットワークの広がりが期待されます。

沿線の拠点となる駅周辺の機能強化による新たな環状方向の都市軸を形成することや、区内東西の一体性向上が望まれます。

(3) 地域経済のイノベーションと持続的な成長を牽引する産業と創造のまちづくり

生産年齢人口比率の低下が予想される中、地域経済の活力を高め、区民の豊かさを向上させるためには、高付加価値を生むイノベーションの創出が求められます。

また、様々な産業・ビジネスを支える技術とその担い手の集積や多分野間のつながりにより、産業のまちとしての蓄積の上に、「新たなチャレンジ」が次々と生まれる創造的な環境形成が必要です。

(4) 羽田空港の国際化と東京 2020 リレック・パラリック競技大会開催等の機会を捉えた世界とつながる観光都市づくり

羽田空港を擁する地の利を活かし、日本の玄関口にふさわしい国際交流拠点としての魅力向上が望まれます。

また、広範囲に広がる区内の観光資源を活用した魅力の発信、水辺の舟運や憩いとにぎわいの国際交流の促進など、観光都市づくりを進める必要があります。

(5) 多様化するライフスタイルへの対応と生活を支える拠点の魅力向上

今後の都市間競争と少子高齢化の進行に対応した「個性ある多様な地域、拠点づくり」が必要です。そのためには、大都市にふさわしいコンパクトシティ[※]として、官民一体での鉄道沿線まちづくりや、少子高齢化対応・スポーツ健康都市づくりなど「多様なライフスタイルを選択できるまち」であることが重要です。

※大都市におけるコンパクトシティ：「大都市戦略（平成27年）」では、鉄道沿線への都市機能の集積を意識しながら、医療・福祉、子育て支援、商業・業務といった機能を、次の時代を見据えて誘導・集積するとしています。

(6) 巨大地震など未曾有の自然災害にも的確に対応する安全・安心なまちづくり

木造住宅密集地域の安全性向上や、超高齢化社会における地域防災力の維持強化等、東日本大震災を契機に明らかになった課題も踏まえ、安全・安心な都市づくりを目指す必要があります。

(7) 低炭素社会の構築など快適で持続可能なみどりのまちづくり

大田区においても地球温暖化の影響が顕在化しており、省エネルギーや再生可能エネルギーの普及など、再なる取組が求められています。

また、環境保全や景観形成、まちの魅力向上などの観点から、持続可能なみどりのまちづくりがより一層求められています。

(8) 将来のまちづくりを見据えた効果的・効率的な公共施設マネジメント

人口構成の変化や区民ニーズの多様化・高度化、財政状況を取り巻く環境が変化する中であっても、区は将来のまちづくりを見据えた効果的・効率的な公共施設マネジメントを行い、区民サービスの維持・向上を実現していく必要があります。

3-2. 重点プロジェクトのテーマ

マスタープランの部門別方針に新たに追加・強化すべき視点を重ね合わせることで、2030年代の都市の将来像実現に向けて、整備の優先性が高い重点プロジェクトのテーマを設定します。これらのテーマは、具体的なアクション・エリアが特定できるテーマと、区全体でのアクションに関わるテーマに大別されます。

<エリアが特定できるテーマ>

(1) スクエアの連携

- 蒲田駅周辺
- 大森駅周辺
- 羽田空港周辺
- 臨海部



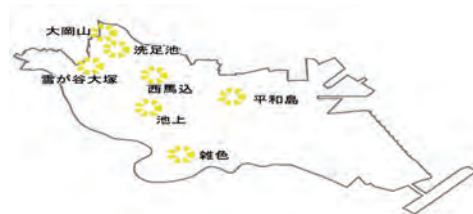
(2) 新空港線軸の形成

- 蒲田駅周辺 (再掲)
- <本ビジョンで追加する拠点>
 - 羽田地区 (京浜急行空港線)
 - 下丸子駅周辺 (東急多摩川線)
 - 田園調布・多摩川 (東急東横線・東急多摩川線)
- <地域のまちづくり拠点 (マスタープラン)>
 - 糀谷駅周辺 (京浜急行空港線)



(3) 駅周辺の魅力ある生活環境の形成

- <本ビジョンで追加する拠点>
 - 洗足池駅周辺
 - 西馬込駅周辺
- <地域のまちづくり拠点 (マスタープラン)>
 - 池上駅周辺
 - 大岡山駅周辺
 - 雑色駅周辺
 - 平和島駅周辺
 - 雪が谷大塚駅周辺



<区全体に関わるテーマ>

(4) スポーツ健康都市づくり

- 区全体

(5) 観光エリアの形成・連携

- 区全体
- 馬込 (西馬込)・池上・洗足池
- 蒲田駅周辺 (再掲)
- 大森駅周辺 (再掲)
- 臨海部 (再掲) など

(6) 防災まちづくり

- 区全体

(7) みどりあふれる低炭素まちづくり

- 区全体

(8) 中央防波堤埋立地の将来的な利活用

- 中央防波堤埋立地

(9) 公共施設の適正配置

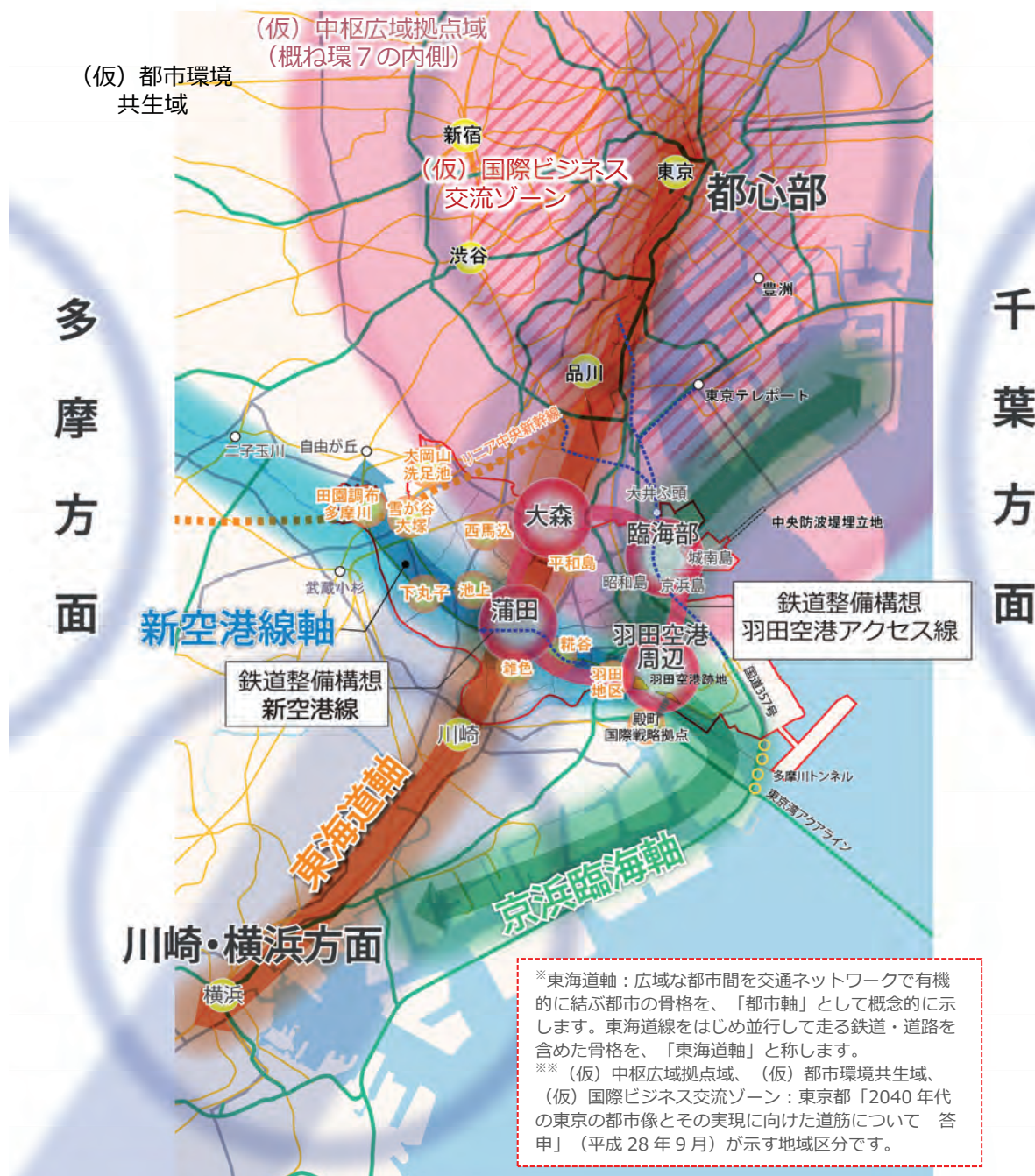
- 区全体

3-3. 将来都市構造

新たな都市づくりの視点を踏まえ、東京圏における区の役割を明確化し、まちづくりの効果を波及させるため、広域的な将来都市構造を以下の通り設定します。

東海道軸、京浜臨海軸、新空港線軸を設定し、それらが交差する蒲田、大森、羽田空港周辺、臨海部の4地域を、「スクエア」として位置づけます。

また、新空港線軸では、交流人口の増加と沿線の拠点性向上を図ります。加えて、近年のまちづくりの動向や観光資源の存在を踏まえ、駅周辺の魅力ある生活環境の形成やスポーツ健康・観光都市づくりを目指します。



第4章 重点プロジェクトの推進

○重点プロジェクト及び重点地区の設定

整備の優先性の高いテーマを踏まえ、重点プロジェクト及び重点地区を以下の通り設定します。重点地区は、「エリアが特定できるテーマ」のうち、まちづくりの動向や重点的に実施する具体的取組を踏まえ、本ビジョンで将来像を描く地区として選定します。

<エリアが特定できるテーマ>

プロジェクト① スクエアの連携

マスタープランに位置づけられた中心拠点（蒲田、大森、羽田空港周辺）は、広域的な都市構造の観点（周辺の機能開発や交通計画等）から、重要な拠点と考えられます。



これらに加え、中央防波堤埋立地を含め、広域交流、物流、産業イノベーションなど広域的に機能が連なる「臨海部」をあわせて、「スクエア」とします。

「スクエア」は、東海道軸、京浜臨海軸、新空港線軸が交差する要に位置し、拠点同士が連携して、交通ネットワークの向上を図ることにより、経済・産業・文化の面で、大きな価値をもたらすことが期待されます。

蒲田は、大森とともに中心的な商業業務地として発展してきました。また、世界の最先端技術を有するものづくりのまちとしての役割も担っています。今後は、羽田空港の機能強化や、新空港線整備とあわせた地区の再整備により、さらなる発展が期待されます。

大森は、JR線の東西で個性のある発展をしてきました。起伏のある地形的特徴や、固有の歴史・文化などの特色を活かすとともに、臨海部とつなぐ交通機能の強化により、まちの発展が期待されます。

羽田空港周辺は、羽田空港跡地第1ゾーン・羽田空港跡地第2ゾーンの空港跡地開発により、区内・国内外の産業交流・観光の活性化が期待されます。

臨海部においては、広域的な交通や、観光・製造業・物流・文化・レクリエーションなどの多様な都市活動が集積しています。産業・観光振興、交通ネットワークや水と緑のネットワーク形成などにより、周辺地域のさらなる発展が期待されます。

重点プロジェクト「スクエアの連携」では、これらの個性ある拠点同士が、陸・海・空の交通結節機能の強化などにより、有機的な連携を高め相乗効果を発揮し、より大きな拠点性を発揮することを目指します。

<重点地区※> ※重点地区は、まちづくりの動向などを踏まえ、将来像を描く地区として選定

①蒲田駅周辺（「蒲田駅周辺地区グランドデザイン」の対象エリア）

にぎわいあふれる多文化共生の拠点

②大森駅周辺（「大森駅周辺地区グランドデザイン」の対象エリア）

歴史・文化や浜風かおる生活と産業の拠点

③羽田空港周辺（羽田空港及び川崎市殿町）

国内外の産業や文化が集い交流する拠点

④臨海部（「空港臨海部グランドビジョン2030」の対象エリアから羽田空港を除いたエリア）

世界を魅了する産業・スポーツ・憩いの拠点

- 空港跡地、羽田旭町周辺
- 羽田旭町周辺（再掲）
- 流通センター駅周辺
- 大森ふるさとの浜辺公園周辺
- 臨海部3島
- 中央防波堤埋立地

プロジェクト② 新空港線軸の形成

多摩川沿いでは産業集積が進んでおり、豊かな自然環境と、にぎわい、居住環境との調和により、新しいビジネスとライフスタイルの創出が期待されます。

また、平成28年4月20日に国土交通省の交通政策審議会で出された答申では、新空港線について「矢口渡から京急蒲田までの事業計画の検討は進んでおり、事業化に向けて関係地方公共団体・鉄道事業者等において、費用負担のあり方等について合意形成を進めるべき」と記載され、高い評価を受けました。

新空港線の整備により、多摩川線は羽田空港から東京圏北西部をつなぐ広域的な交通網の一部を担うことなど以下の効果が期待されています。



新空港線の効果

- ・区内の移動利便性向上 = 鉄道を利用した東西交通が便利に!
- ・おたのまちづくりを推進 = 鉄道整備とあわせて沿線のまちづくりを推進!
- ・地域の活性化に寄与 = 大田区における経済波及効果は約1,400億円! ※

※関西大学宮本勝浩名誉教授による算出。建設投資と消費支出の各経済波及効果を足した初年度の額。

駅機能の更新・強化が必要な「下丸子」は、新空港線の整備とあわせた駅改築と交通結節機能の整備をはじめとするまちづくりにより、新空港線軸沿線地域の拠点として重点地区に位置づけます。

また、国際都市おたの玄関口にふさわしい「羽田地区」や、マスタープランにおける地域のまちづくり拠点である「糀谷」、良好な生活環境を誇る「田園調布・多摩川」についても、新空港線軸の拠点となる重点地区として位置づけます。

- <重点地区>
- ⑤羽田地区（京浜急行空港線）
 - ⑥糀谷駅周辺（京浜急行空港線）
 - ⑦下丸子駅周辺（東急多摩川線）
 - ⑧田園調布・多摩川（東急東横線・東急多摩川線）

プロジェクト③ 駅周辺の魅力ある生活環境の形成

区内に形成された様々な住宅地において、生活の質を高めるためには、主要な駅周辺に都市機能を再編・集約し、後背地からのアクセスを確保することが重要です。

地域の個性を活かした生活環境の形成を進めるため、池上、大岡山、雑色、平和島、雪が谷大塚（マスタープランにおける地域のまちづくり拠点）を駅周辺の魅力ある生活環境の形成のモデルとして位置づけ、防災・環境・景観面も含めた生活環境の向上を図ります。

また、洗足池は、新たな歴史・文化施設の建設や公園整備等の施策があることから、同様のモデルとして位置づけます。更に西馬込は、良好な生活環境や都心へのアクセス、観光資源等を活かし、馬込と一体のモデルとして位置づけます。

なお、池上駅周辺及び池上本門寺等については、観光拠点としての機能強化や駅周辺の基盤整備を図ります。



- <重点地区>
- ⑨池上駅周辺（東急池上線）
 - ⑩大岡山駅周辺（東急大井町線）
 - ⑪雑色駅周辺（京浜急行本線）
- 洗足池駅周辺・西馬込駅周辺はプロジェクト⑤で描いています。
平和島駅周辺はプロジェクト①大森駅周辺で描いています。

<区全体に関わるテーマ>

プロジェクト④ スポーツ健康都市づくり

大田区は、スポーツを通じて区民が豊かで健康的な生活を営み、まちがにぎわいと活力を増していくことを願い、平成 24 年に「スポーツ健康都市宣言」を行いました。区民が日常的にスポーツに親しむことで健康の維持・増進を図れるように、地域力を活かして、区民が地域で自主的にスポーツを楽しみ、健康につながる仕組みを構築し、広げることが重要です。そのために、区民が身近な地域で気軽に継続してスポーツに参加できる環境を整備するとともに、スポーツ活動の機会や場所の確保・充実に積極的に取り組みます。

「新スポーツ健康ゾーン」を構成する、総合体育館をはじめとする特色あるスポーツ施設を有機的に連携させることで、ゾーン全体を活性化するための施策を展開していきます。

また、体育館や武道場などの整備について検討していきます。

こうした取組によって、スポーツ健康都市宣言にふさわしい、スポーツを通じて健康で豊かに暮らせるまちをつくります。

プロジェクト⑤ 観光エリアの形成・連携

「知る人ぞ知る魅力」を大切にできる世界とつながる生活（イキイキ）観光都市として、これまでの観光まちづくり活動を継承しつつ独自の産業と都市文化を創造し、大田区の観光を世界に発信します。

羽田空港の国際化とさらなる拡張、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会開催などの機会を捉え、国際都市として来訪者誘致を促進します。

また、蒲田や大森などの中心拠点を中心に、臨海部や馬込（西馬込）・池上・洗足池など観光資源間の回遊性を高め、区の魅力を磨きます。

プロジェクト⑥ 防災まちづくり

巨大地震や自然災害の脅威などに対し、地域特性に応じた安全・安心なまちづくりを進めます。

ソフト・ハード両面の防災まちづくり手法を総合的に駆使し、区民が住み続けながら、災害から生命と財産を守るまちを実現します。

プロジェクト⑦ みどりあふれる低炭素まちづくり

大田区が目指す環境像「環境と生活・産業の好循環を礎とした持続可能で快適な都市」を目指します。

大田区の多様なみどりにより、生活にゆとりや潤いを与えると同時に、景観に配慮したまちづくり、低炭素まちづくりなどを推進します。

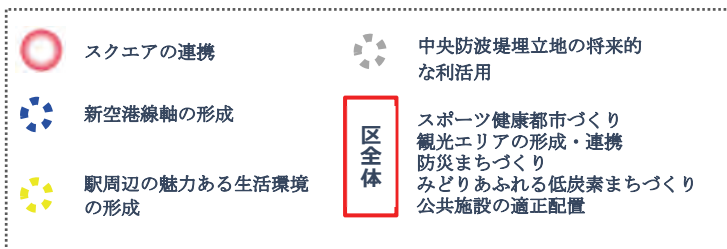
プロジェクト⑧ 中央防波堤埋立地の将来的な利活用

世界に冠たる羽田空港の至近に位置し、東京港の機能強化に向けたコンテナふ頭の整備や人々の憩いの場となる水辺空間等の整備が進められている中央防波堤埋立地は、首都圏の更なる発展に向け、重要な役割を担っています。区は、中央防波堤埋立地のポテンシャルを最大限に活かすため、羽田空港と中央防波堤埋立地を含む大田区の臨海部の機能が一体的に活用されるまちづくりを、関係機関と連携しながら進めます。

プロジェクト⑨ 公共施設の適正配置

人口構成の変化や区民ニーズの多様化・高度化に対応し、効果的・効率的な施設マネジメントによる、区民サービスの維持・向上や、地域ごとの将来のまちづくりを見据えた施設配置を目指します。

<重点プロジェクトの設定>



4-1. スクエアの連携

① 蒲田駅周辺

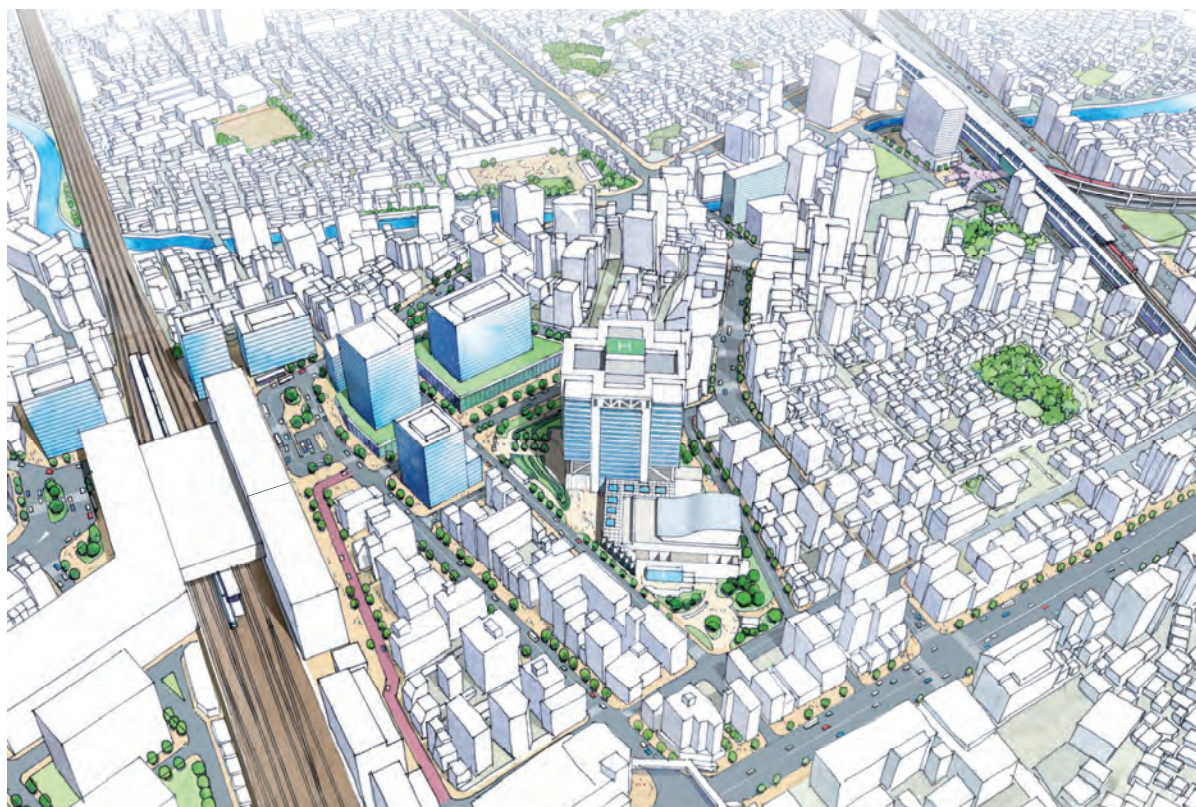
スクエアの連携

蒲田駅周辺・大森駅周辺・羽田空港周辺・臨海部において個性ある拠点形成するとともに、拠点同士をつなぐネットワークの強化により有機的な連携を高めて相乗効果を発揮し、より大きな拠点性を発揮することを目指します。



蒲田駅周辺の将来像：にぎわいあふれる多文化共生の拠点

蒲田は大森とともに中心的な商業業務地として発展してきました。また、ものづくりのまち大田の中心的役割も担っています。今後は、羽田空港の機能強化や、新空港線整備とあわせた地区の再整備により、さらなる発展を目指します。



① 蒲田駅周辺 – 現状と課題 –

項目	内容
資源	<ul style="list-style-type: none"> ・羽田空港に近接する立地 ・駅を中心とした多くの商店街の形成 ・東急多摩川線・東急池上線や広域にわたるバス路線網の起点 ・芸術を楽しめる施設、公共施設の集積
対応すべき課題 (マスタープランに おける重点課題を含 む)	<ul style="list-style-type: none"> ・「新空港線」整備による羽田空港アクセス強化 ・放置自転車対策、暫定自転車駐車場解消後の活用 ・JR線東西のアクセス改善による市街地分断の解消 ・駅と一体となった商業業務機能の強化 ・公共用地のまちづくりへの活用 ・外客受入れ戦略拠点としてのまちづくり ・駅周辺の回遊性の向上、にぎわいの創出 ・呑川水質浄化対策 ・呑川緑道の整備による潤いのある水と緑のネットワークの形成
関連計画・動向	<ul style="list-style-type: none"> ・「蒲田駅周辺地区グランドデザイン」(平成22年) ・外客受入戦略拠点に選定(平成23年、観光庁) ・京浜急行線連続立体交差事業の事業区間全線高架化(平成24年完成) ・蒲田駅周辺再編プロジェクトの推進(平成25年) ・蒲田駅東口駅前広場と地下自転車駐車場の都市計画決定(平成27年) ・京急蒲田西口駅前地区第一種市街地再開発事業(平成27年) ・国家戦略道路占用事業の認定「さかさ川通り」(平成27年) ・大田区画街路第7号線、蒲田駅東口地下自転車駐車場の事業着手(平成28年) ・特定緊急輸送道路沿道建築物耐震化助成事業(他地区も同様) ・蒲田5丁目地区地区計画 ・京急蒲田駅西口地区地区計画
区の施策等	<p>【継続中の施策等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎国家戦略道路占用事業による「さかさ川通り」におけるにぎわいの創出 ◎蒲田駅東口、西口広場において「蒲田駅周辺再編プロジェクト」に基づく、初動期整備の進捗・快適な駅前空間の創出 ◎新空港線整備の促進
「蒲田駅周辺地区 グランドデザイン」 取組の進捗	<ul style="list-style-type: none"> ・京浜急行線の連続立体交差事業 ⇒高架化完成(平成24年) ・京急蒲田駅西口駅前地区第一種市街地再開発事業 ⇒事業完了(平成27年) ・蒲田駅東口駅前広場及び地下自転車駐車場 ⇒都市計画決定、事業認可(平成28年) ・蒲田駅西口駅前広場整備(初動期整備) ⇒第一期工事(交通島再整備)(平成28年) ⇒第二期工事(広場内段差解消) ・新空港線整備促進 ・蒲田駅東西自由通路の検討 ・蒲田駅周辺街区の建物更新の検討 ・駅ビル建替に合わせた駅とまちの一体的な整備の検討

国家戦略道路占用事業

平成 27 年認定



さかさ川通りにおけるにぎわい創出

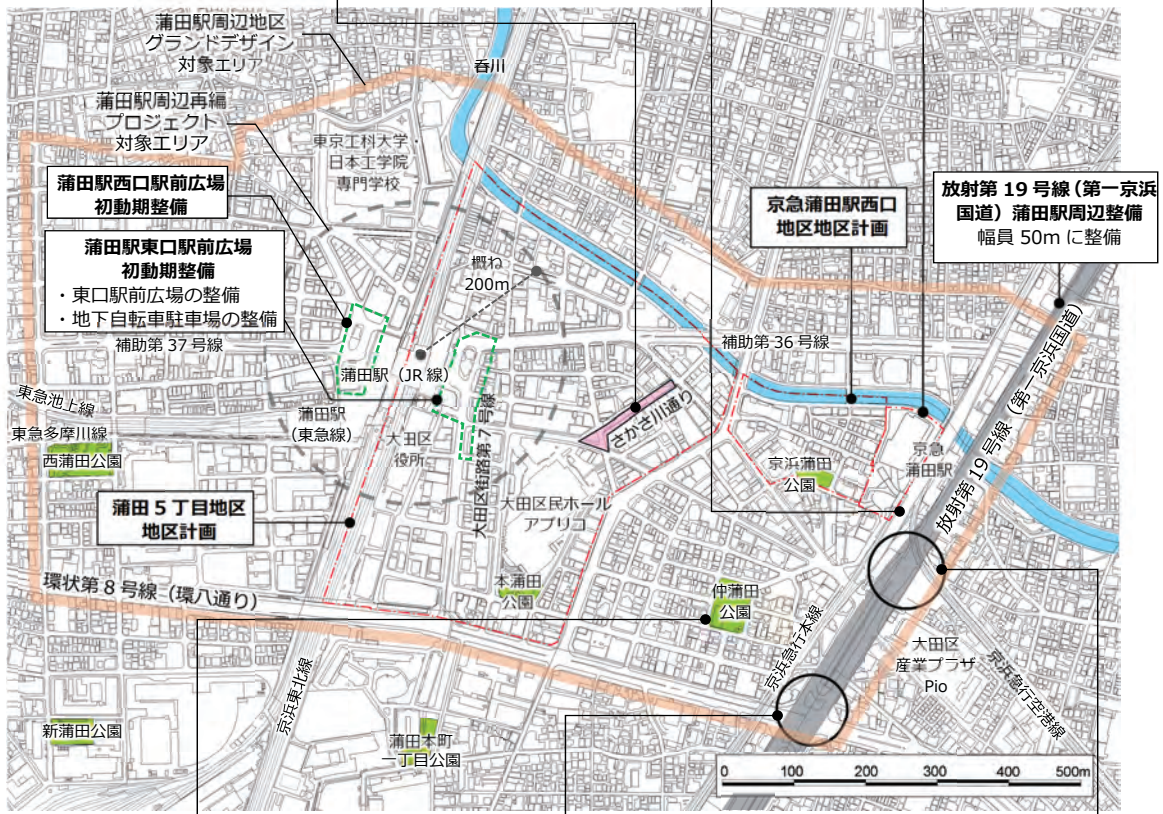
**京浜急行本線、京浜急行空港線
連続立体交差事業の高架化**

平成 24 年完成



**京急蒲田西口駅前地区第一種
市街地再開発事業**

平成 27 年完成



**仲蒲田公園 平成 28 年改修
回遊性向上のための公園改修**



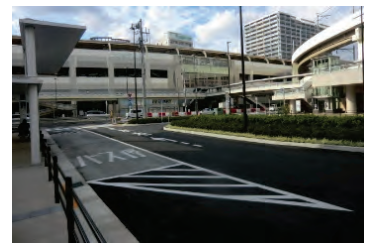
南蒲田交差点の立体化

平成 24 年完成



京急蒲田駅東口駅前広場の整備

平成 28 年 3 月完成



① 蒲田駅周辺 –まちの将来像–

まちの将来像

にぎわいあふれる多文化共生の拠点

まちづくりの方向性（例示）

- 新空港線の整備などにより、羽田空港へのアクセス性を強化し、外客受入戦略拠点としての基盤を構築。
- 羽田空港等を利用する国内外のワーカーや観光客などを受入れる機能（ホテル・インターナショナルスクールなど）の強化。
- 駅前広場の整備などにより、公共交通の利便性を向上し交通結節機能を強化。
- 東西自由通路の整備、駅舎や駅ビルの機能更新、駅とまちの一体的な整備（線路の地下化、駅前の歩行者空間の拡充、駅と周辺街区が一体となった都市開発など）により、市街地の分断を解消し駅周辺エリアの回遊性・にぎわいを向上。
- 駅とまちの一体的な整備や市街地の機能更新にあわせ、国際的な産業・ビジネス機能や外客受入機能（世界的企業の東京支店・会議室・ホテルなど）を強化。
- 『駅まちマネジメント』により、地方自治体や鉄道事業者などが課題を共有化。課題解決の方策として、駅や駅前広場などにおける歩行者空間の拡充や、サインや観光情報センター等の案内や情報発信の改善などを実施。
- 地域特性やまちの歴史を活かし、飲食、物販、観光や業務などが集積し、多様な表情を持つ利便性の高いまちを構築。
- コミュニティサイクルの拠点整備による回遊性の向上・にぎわいの創出。
- 市街地の機能更新などに合わせた、生活支援機能（図書館、保育所、病院、健康施設等）の強化。
- 駅前広場や道路等を活用したイベントなどにより、にぎわいや交流の機会を創出。
- 駅周辺の公共施設を「公共施設適正配置方針」にもとづき再編・活用。
- 呑川の水質改善と呑川緑道の整備。
- 開発や線路の地下化に合わせた緑化の推進。

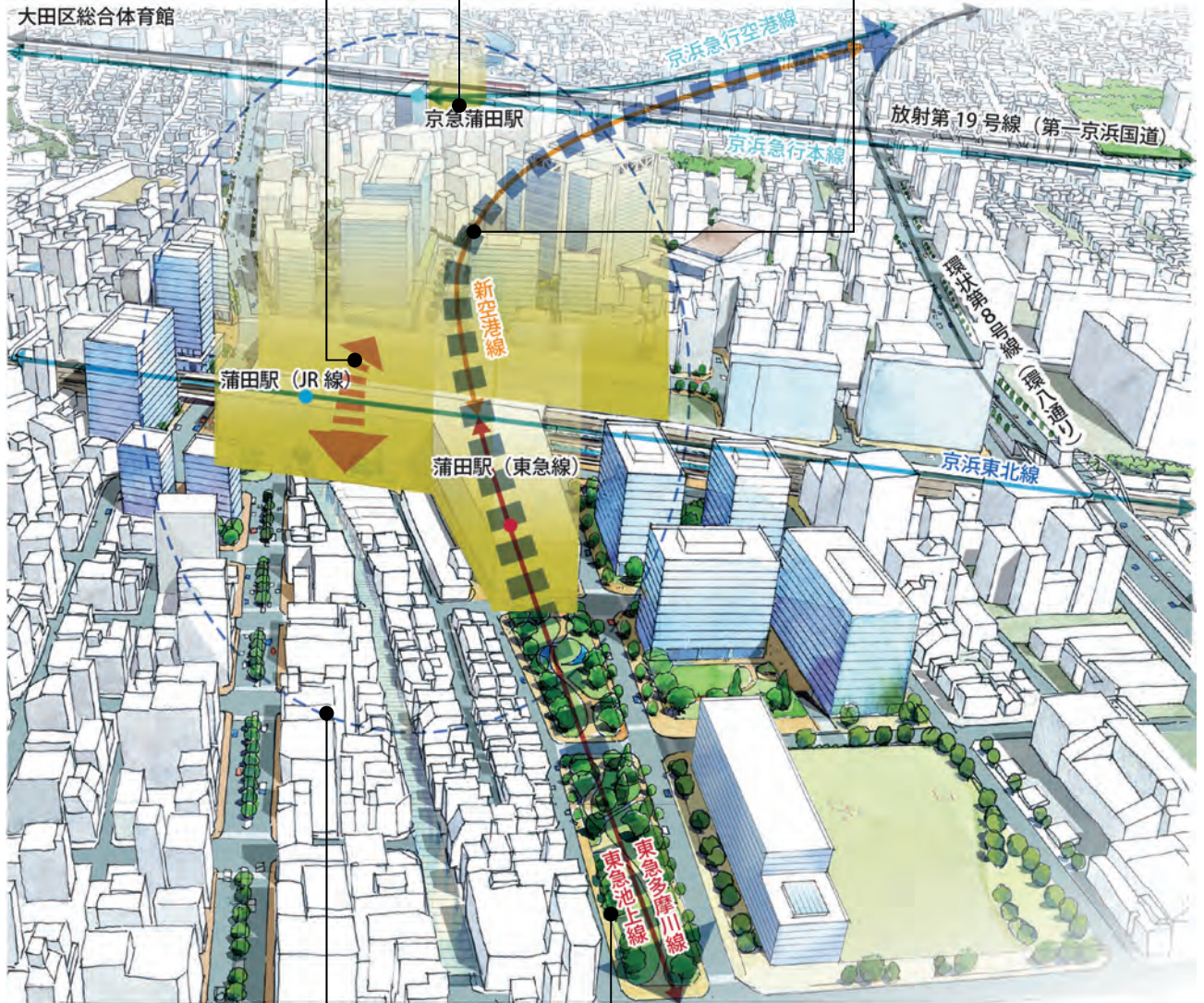
（ 駅周辺の基盤施設整備や老朽化した市街地の機能更新に向けて、
特区等様々な手法による航空法緩和や容積割増などを検討・協議 ）

まちの将来イメージ（JR線・東急線方面から京急線方面を望む）

市街地の分断を解消する
東西自由通路

共同化により機能更新が進む
京急蒲田駅の西口エリア

羽田空港へのアクセス性を
強化する新空港線



駅舎や駅ビルの機能更新、駅とまちの一体的な整備、公共施設の適正配置などが進む、駅周辺の市街地の機能更新も期待される、にぎわいや回遊性が向上した蒲田駅の周辺エリア

線路の地下化や開発に合わせて生み出された緑豊かな憩いの空間

※本ページに記載の内容は、将来のイメージを示すものであり、今後変更の可能性がります。

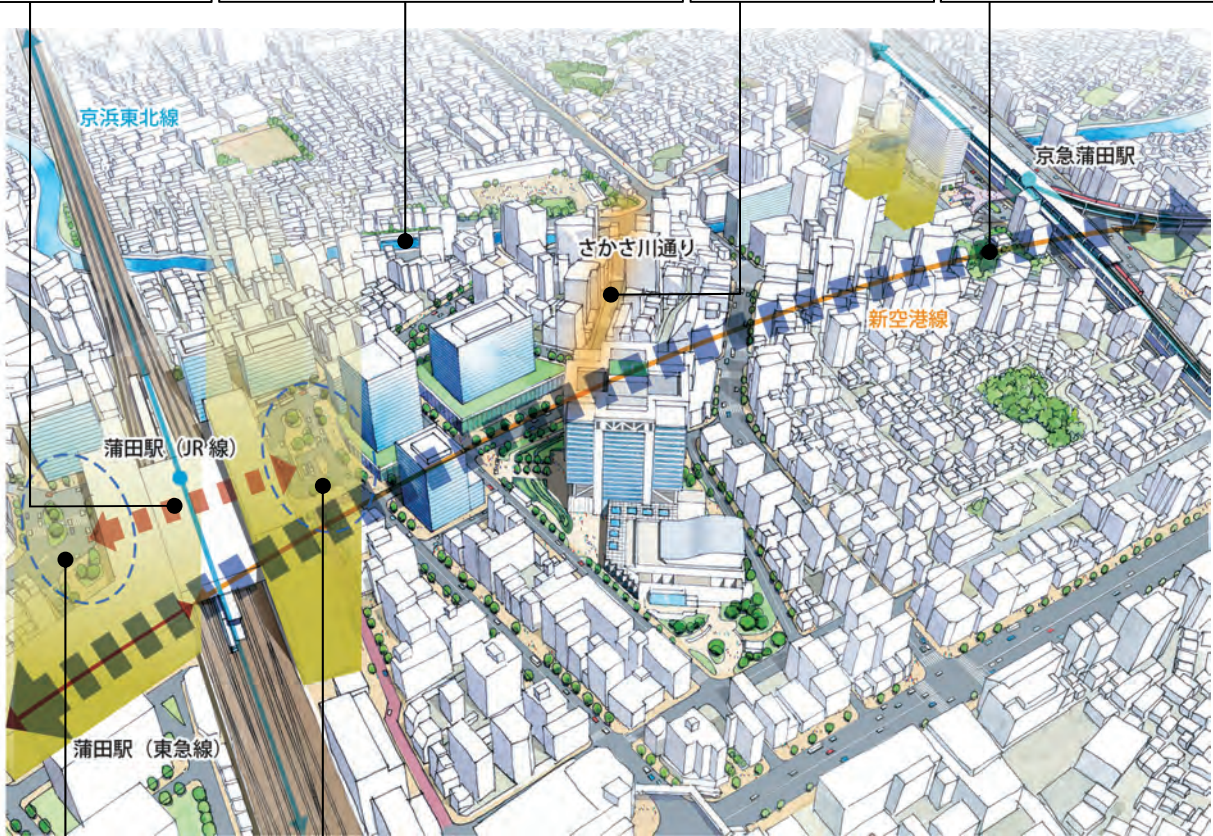
まちの将来イメージ（JR線・東急線と京急線間のエリア周辺）

市街地の分断を解消する東西自由通路

水質の改善や緑道の整備などにより、人々の憩いの場となる呑川周辺

にぎわいあふれる公共空間

羽田空港へのアクセス性を強化する新空港線



公共交通や歩行者のための施設・空間が充実した駅前広場

区有地等を有効に活用した官民連携のまちづくり

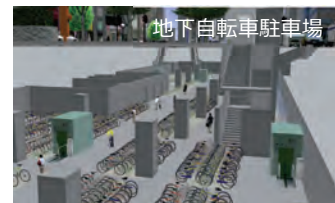
蒲田駅西口駅前広場 初動期整備計画

平成 30 年完成予定



蒲田駅東口駅前広場 初動期整備計画

平成 39 年完成予定



※本ページに記載の内容は、将来のイメージを示すものであり、今後変更の可能性があります。

② 大森駅周辺

スクエアの連携

蒲田駅周辺・大森駅周辺・羽田空港周辺・臨海部において個性ある拠点を形成するとともに、拠点同士をつなぐネットワークの強化により有機的な連携を高めて相乗効果を発揮し、より大きな拠点性を発揮することを目指します。（再掲）



大森駅周辺の将来像：歴史・文化や浜風かおる生活と産業の拠点

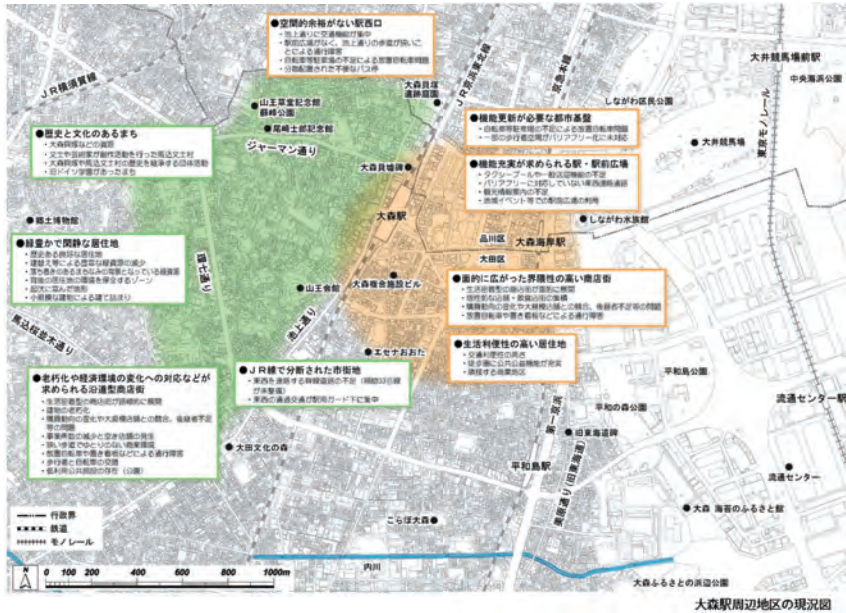
大森はＪＲ線の東西で、地形的な要因や歴史的な背景などから個性のある発展をしてきました。地形・歴史・文化などの特色を活かしたまちづくりや、中心的な商業業務地の形成に向けた市街地の機能更新、臨海部とつなぐ交通機能の強化などにより、さらなる発展を目指します。

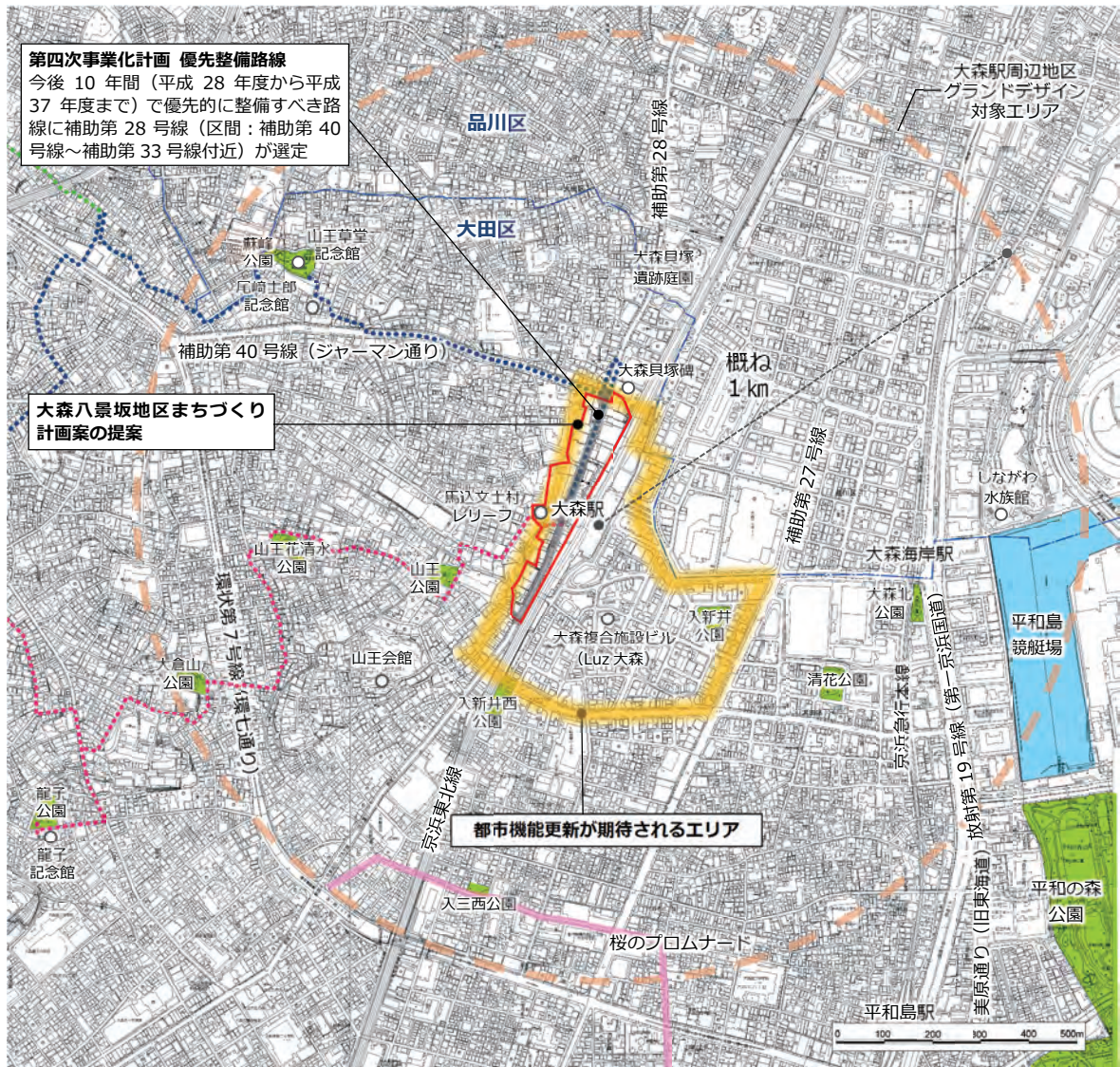


② 大森駅周辺 – 現状と課題 –

項目	内容
資源	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個性的な商店街・商店・飲食店の集積 ・ 臨海部への玄関口としての機能 ・ 山王の歴史・文化資源の存在（馬込文士村・大森貝塚など） ・ 緑豊かで閑静な居住地（山王地区など） ・ 生活利便性の高い居住地 ・ 地形が生み出す特徴的な景観 ・ 広域にわたるバス路線網の起点
対応すべき課題 （マスタープランにおける重点課題を含む）	<p>（駅直近） 交通結節機能の強化 JR線東西のアクセス改善による市街地分断の解消 駅周辺の一体性をもった歩行空間の形成</p> <p>（西口側） 駅前空間の整備促進、駅改札口へのバリアフリー動線確保 馬込文士村との連携強化</p> <p>（東口側） 老朽建物の建替え更新、臨海部・羽田空港への公共交通アクセス強化、臨海部への集客機能強化</p>
関連計画・動向	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「大森駅周辺地区グランドデザイン」（平成 23 年） ・ 駅周辺街区における再開発の動き ・ 東京都「2040 年代の東京の都市像とその実現に向けた道筋について 答申」（平成 28 年）における（仮）中枢広域拠点域の位置づけ
区の施策等	<p>【継続中の施策等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎都市型居住環境の向上・促進（老朽マンション建替え・共同化 等） ◎馬込文士村への誘導・PR の強化 ◎交通結節機能の再整備検討 ◎公共交通システムの検討
「大森駅周辺地区グランドデザイン」取組の進捗	<ul style="list-style-type: none"> ・ 補助第 28 号線（池上通り）の整備促進に向けた取組 ⇒第四次事業化計画 優先整備路線に選定（平成 28 年） ⇒道路拡幅整備に向けた関係機関協議（東京都・JR 等） ⇒まちづくり事業用地の取得 ・ 大森八景坂地区まちづくり協議会によるまちづくり計画案の提案（平成 27 年） ・ 自転車利用環境の整備（自転車ナビマーク設置、コミュニティサイクル実証実験） ・ 大森駅東口側バリアフリー動線等（エレベーター、エスカレーター等）の更新、活用 ・ 大森駅東口駅前広場の再整備検討

＜大森駅周辺地区の現況図（大森駅周辺地区グランドデザイン）＞





- 凡例**
- 馬込文士村おすすめ散策路 北コース
 - 馬込文士村おすすめ散策路 南コース
 - 馬込文士村おすすめ散策路 白秋の小径

出典：大森八景坂地区まちづくり計画案

② 大森駅周辺 –まちの将来像–

まちの将来像

歴史・文化や浜風かおる生活と産業の拠点

まちづくりの方向性（例示）

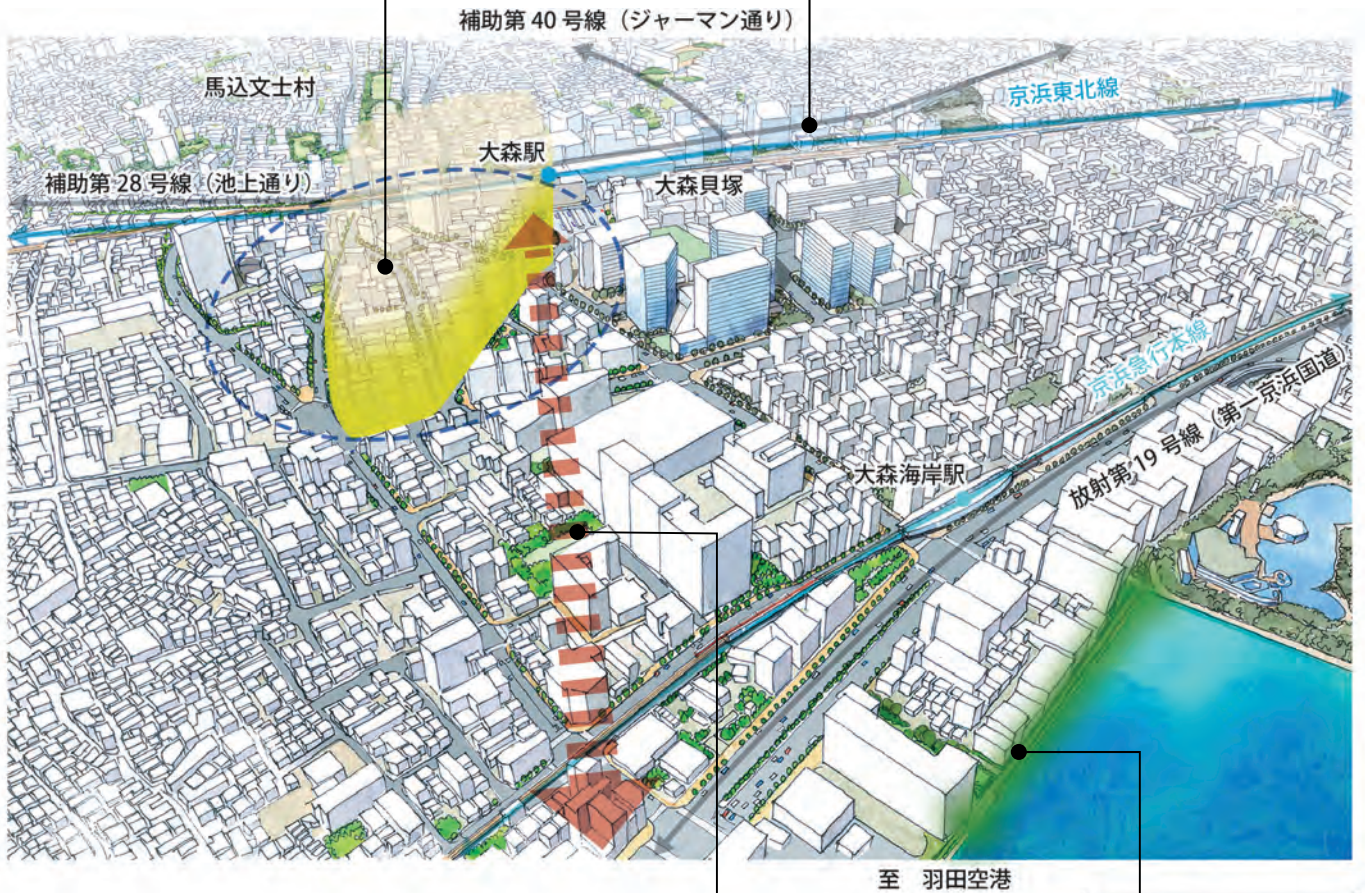
- 補助第28号線（池上通り）の拡幅整備に合わせた、大森駅西口の公共交通や歩行者空間の拡充及び交通結節機能の強化。
- 大森駅東口から臨海部や羽田空港へのアクセスを強化する新たな公共交通導入の検討。
- 大森駅東口の駅前広場や道路空間整備の検討。
- 大森駅の東西自由通路整備の検討。
- コミュニティサイクルの拠点整備による回遊性の向上・にぎわいの創出。
- 駅周辺の再開発などに合わせた、産業・ビジネス機能（会議室・ホテル・居住地に近いオフィスなど）の強化。
- 教育・文化を中心とした公共施設の複合化。
- 駅周辺の再開発などに合わせた、質の高い生活を支える居住機能や生活支援機能（図書館、保育所、病院、健康施設等）の強化。
- 馬込文士村・大森貝塚・寺社などの歴史文化資源を継承するとともに、坂・階段など変化のある地形を活かしたまちづくりの推進（歩行者空間の拡充・案内表示・愛称など）。
- 平和島駅周辺における、歩行者横断環境や自転車利用環境の改善。
- 平和島駅の交通結節機能の強化（バス・タクシー乗降場の再編など）。
- 平和島駅・ミハラ通り（旧東海道）～大森ふるさとの浜辺公園の、歩行者空間の改善や景観整備。
- 開発に合わせた緑化の推進。
- 海辺の散策路の整備。

（ 駅周辺の基盤施設整備や老朽化した市街地の機能更新に向けて、
特区等様々な手法による航空法緩和や容積割増などを検討・協議 ）

まちの将来イメージ（大森駅周辺・大森海岸駅周辺）

市街地の機能更新などが進み、
にぎわいや快適性が向上した
大森駅の周辺エリア

拡幅整備された補助第28号線（池上通り）



教育・文化を中心とした
公共施設の複合化

大森駅から羽田空港や臨海部へのアクセス
を強化する新たな公共交通

緊急時の避難路兼
海辺の散策路

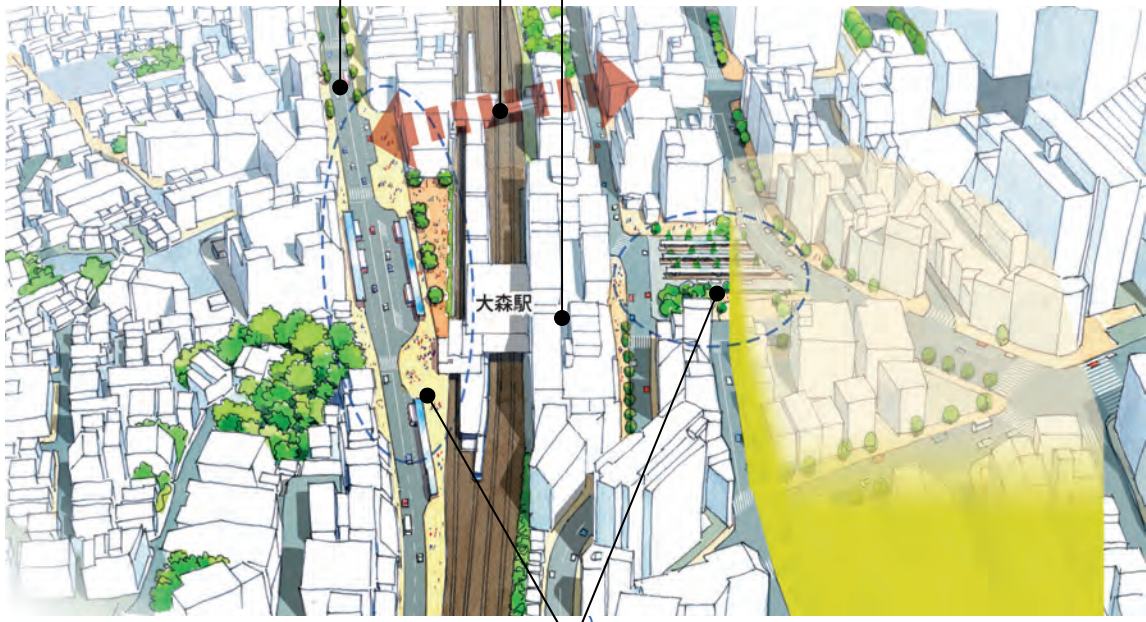
区有地等を有効に活用した
官民連携のまちづくり

※本ページに記載の内容は、将来のイメージを示すものであり、今後変更の可能性があります。

まちの将来イメージ（大森駅周辺）

拡幅整備された補助第 28 号線

市街地の分断を解消する東西自由通路



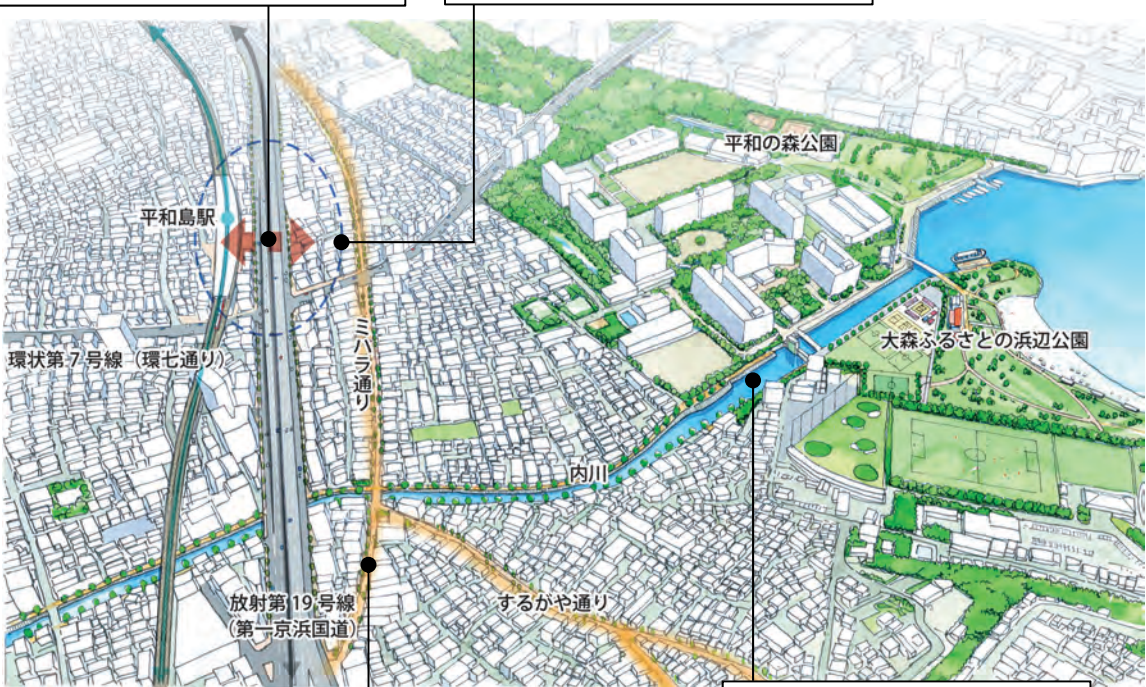
歴史文化・緑・地形を活かした
良好な生活環境

公共交通や歩行者のための施設や空間が充実し、
にぎわいあふれる駅前空間

まちの将来イメージ（平和島駅周辺）

歩行者横断環境が改善した
放射第 19 号線（第一京浜国道）

公共交通や歩行者のための施設
や空間が充実した駅前空間



にぎわいや風情が感じられるミハラ通り（旧東海道）

人々の憩いの場となる内川
や公園の周辺

※本ページに記載の内容は、将来のイメージを示すものであり、今後変更の可能性があります。

③ 羽田空港周辺

スクエアの連携

蒲田駅周辺・大森駅周辺・羽田空港周辺・臨海部において個性ある拠点を形成するとともに、拠点同士をつなぐネットワークの強化により有機的な連携を高めて相乗効果を発揮し、より大きな拠点性を発揮することを目指します。（再掲）



羽田空港周辺：国内外の産業や文化が集い交流する拠点

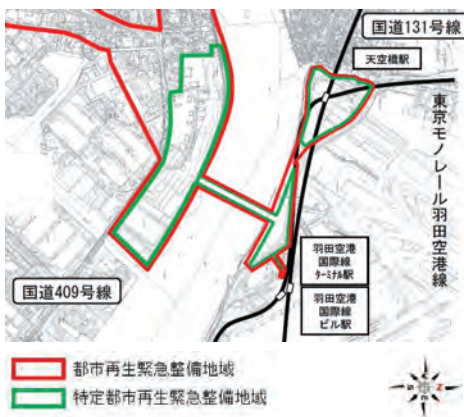
羽田空港周辺は、羽田空港跡地第1ゾーン・羽田空港跡地第2ゾーンの開発などにより、国内外の産業や文化が集い交流する拠点を形成し、その波及効果により、大田区の産業や観光はさらなる発展を目指します。



③ 羽田空港周辺 – 現状と課題 –

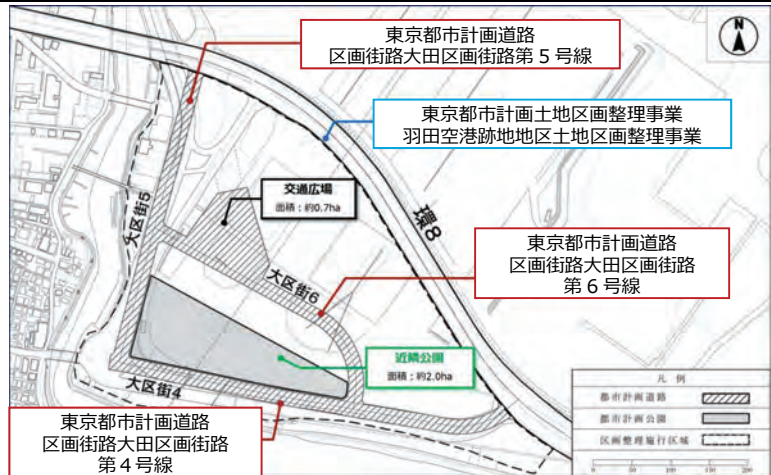
項目	内容
資源	<ul style="list-style-type: none"> 公園緑地、河川、東京湾など水と緑を活かした施設 世界に向けた東京の空の玄関口である羽田空港
対応すべき課題 (マスタープランにおける重点課題を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 国道 357 号の早期完成 羽田空港跡地を活用し、国際化による経済などの波及を区の発展につなげる 日本の玄関口としての魅力的なまちなみ形成
関連計画・動向	<ul style="list-style-type: none"> 「空港臨海部グランドビジョン 2030」(平成 22 年) 「羽田空港跡地まちづくり推進計画」(平成 22 年) 「羽田空港跡地第 1 ゾーン整備方針」(平成 27 年) 羽田空港跡地第 2 ゾーンの開発決定に係る民間事業者の選定(平成 28 年) 羽田空港南地域が特定都市再生緊急整備地域に指定(平成 28 年) 羽田連絡道路(補助第 333 号線) ⇒都市計画決定(平成 28 年) ⇒事業認可(平成 29 年) 第 94 号多摩川親水緑地 ⇒都市計画決定(平成 29 年) 「羽田空港跡地かわまちづくり」(平成 29 年)
区の施策等	<p>【継続中の施策等】</p> <p>◎羽田空港跡地第 1 ゾーン整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 土地区画整理事業 大田区画街路第 4・5・6 号線の事業着手(平成 28 年) 羽田空港公園の整備 開発に係る整備・運営事業者の公募 (第一期事業：平成 29 年 5 月下旬決定予定) <p>◎国道 357 号多摩川トンネルの整備促進</p>

都市再生緊急整備地域及び特定都市再生緊急整備地域
平成 28 年 11 月 24 日指定



羽田空港周辺地域と京浜臨海部の連携を強化し、東京圏のビジネス機能を支え、国際競争力の強化を図る成長戦略拠点の形成を促進するため、「羽田空港南・川崎殿町・大師河原地域」として指定された。

出典：内閣府地方創生推進事務局 HP
都市再生緊急整備地域及び特定都市再生緊急整備地域の一覧 (H28.11.24 時点)



名称：国家戦略都市計画建築物等整備事業 平成 28 年 2 月 5 日認定
内容：都市計画の決定又は変更に係る都市計画法の特例
(国家戦略特別区域法第 21 条に規定する国家戦略都市計画建築物等整備事業)

大田区及び独立行政法人都市再生機構が、羽田空港跡地地区において、羽田空港の航空ネットワークを通じた多様な来訪者の交流、医療等先端産業と中小企業とのビジネスマッチング、クールジャパン情報発信等の施設に係る都市基盤を整備するため、以下に掲げる都市計画を決定又は変更する。

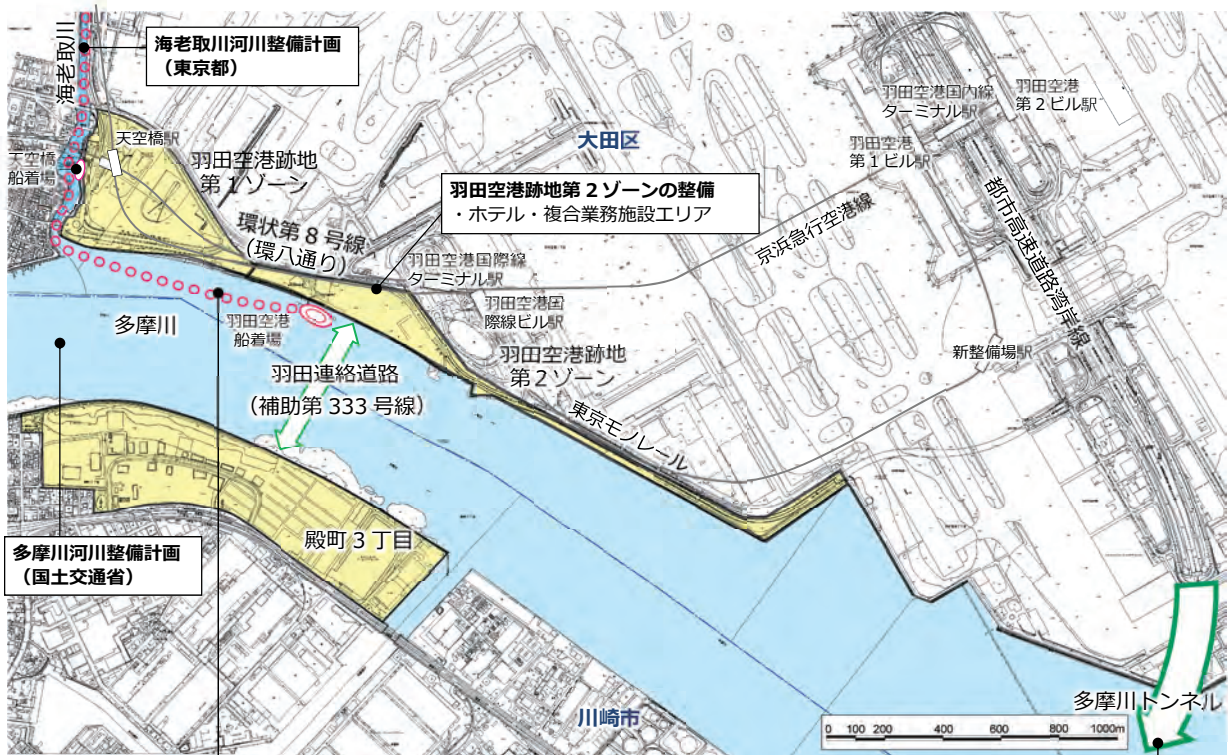
- ・東京都市計画土地区画整理事業羽田空港跡地地区土地区画整理事業
- ・東京都市計画道路区画街路大田区画街路第 4・5・6 号線
- ・東京都市計画公園第 3・3・1 2 4 号羽田空港公園

羽田空港跡地第1ゾーンの整備

- ・アジアヘッドクォーター特区（国際戦略総合特区）
- ・先端産業/文化産業/憩いとにぎわいのゲートウェイ
- ・産業交流施設、クールジャパン発信拠点の整備



出典：羽田空港跡地第1ゾーン整備方針 大田区 平成27年7月



舟運社会実験（国土交通省）

羽田空港から東京都心部への舟運の可能性を検証するため、羽田空港船着場～秋葉原（万世橋）の運航を試行的に行う社会実験 平成27年9月より実施

羽田連絡道路

内閣府は、羽田空港周辺・京浜臨海部連携強化推進委員会を開催し、羽田空港と川崎市殿町地区とをつなぐ連絡橋・道路の整備に向けた取組を推進することを決めた。

平成28年12月5日 都市計画決定
平成29年1月24日 事業認可



出典：内閣府地方創生推進事務局 HP 第3回 羽田空港周辺・京浜臨海部連携強化推進委員会 配布資料

国道357号 多摩川トンネル

平成28年事業着手

羽田空港周辺地域及び京浜臨海部へのアクセス性が向上し、拠点間の連携の強化が図られ、産業・物流等の効率化などが向上し、国際競争力の強化が期待される。



出典：国土交通省関東地方整備局 HP 平成28年4月24日記者発表資料

③ 羽田空港周辺 – まちの将来像 –

まちの将来像

国内外の産業や文化が集い交流する拠点

まちづくりの方向性（例示）

- 良好な市街地の形成と天空橋駅前の交通結節機能向上を図る交通広場の整備。
- 国道 357 号多摩川トンネル以南の整備による、首都圏や川崎・横浜方面との広域道路ネットワークの強化。
- 羽田連絡道路の整備による、羽田空港跡地地区と川崎市殿町地区との拠点間連携の強化。
- 舟運ルートを中心とした護岸や船着場整備の促進。
- コミュニティサイクルの拠点整備による移動利便性の向上。

<羽田空港跡地第 1 ゾーン>

- 先端産業分野の企業を誘致・集積し、多様な企業・人材同士の協創によりイノベーションを創出。
- 訪日外国人を中心に、コンテンツ、食・産品、伝統文化・アート、観光など日本の魅力を発信する「クールジャパン」発信拠点を整備。
- 川崎市殿町地区との医工連携事業の推進。

<羽田空港跡地第 1 ゾーンの多目的広場>

- 憩いやにぎわいの拠点を形成するとともに、災害時の避難場所として活用。

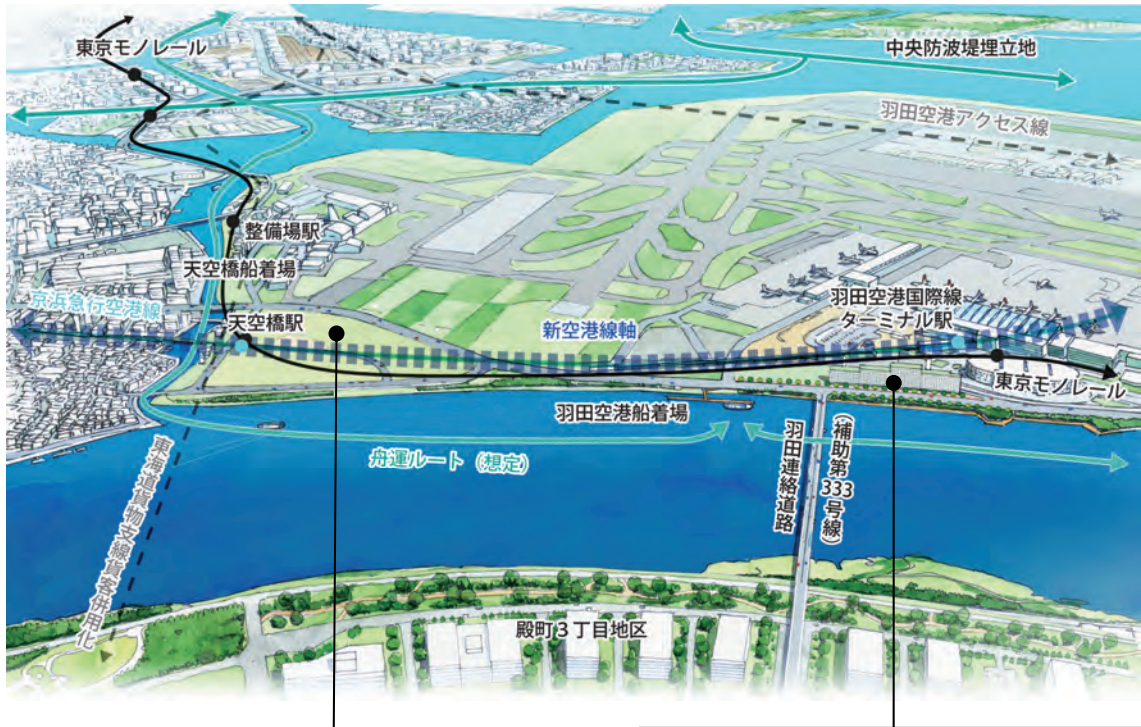
<羽田空港跡地第 2 ゾーン>

- 宿泊機能や複合業務機能の導入により、外客受入れ機能を強化。

<羽田空港跡地第 2 ゾーンの緑地>

- 多摩川沿いの長い水際線を活用した良好な環境の創出と快適で魅力あふれる親水ネットワークの形成。

まちの将来イメージ（羽田空港跡地周辺）



＜羽田空港跡地第1ゾーン＞
 空港や市街地との近接性を活かした
 創造と交流ゾーン

＜羽田空港跡地第2ゾーン＞
 国際線地区に隣接することを活かした
 交流ゾーン

まちの将来イメージ（蒲田駅方面から羽田空港方面を望む）

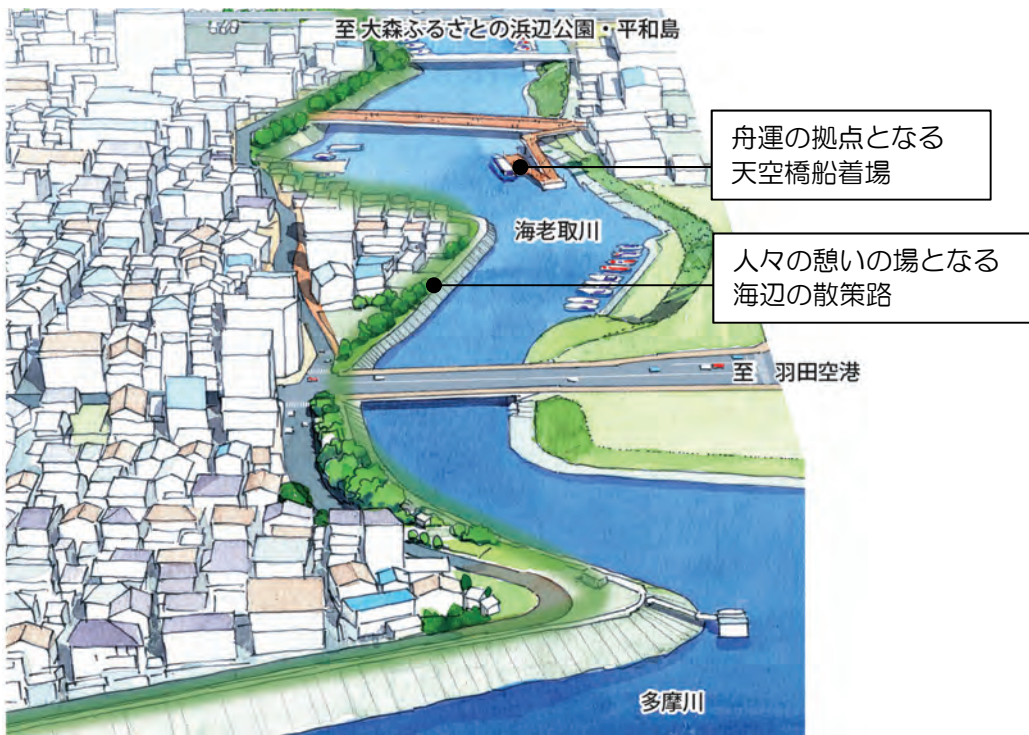


国道357号多摩川トンネル
 により広域道路ネットワーク
 が強化

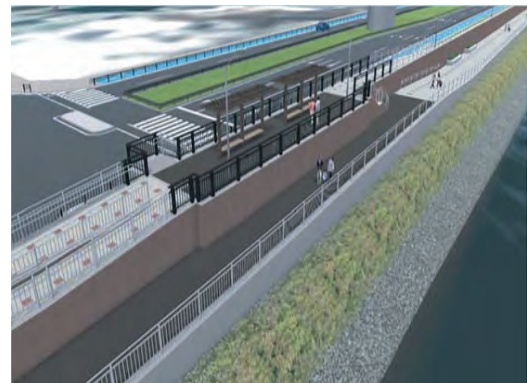
羽田連絡道路により連携強化
 された、羽田空港跡地地区と
 川崎市殿町地区

※本ページに記載の内容は、将来のイメージを示すものであり、今後変更の可能性があります。

まちの将来イメージ（海老取川周辺）



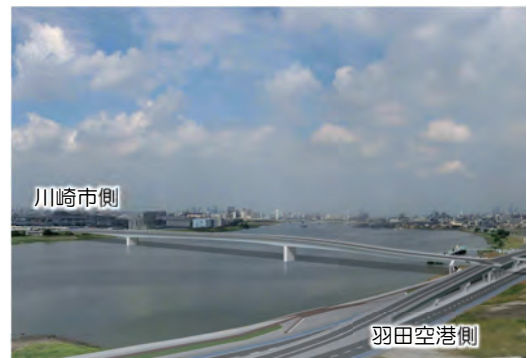
交通広場のイメージ
(羽田空港跡地第1ゾーン)



親水緑地のイメージ
(羽田空港跡地第2ゾーン)



宿泊機能のイメージ(羽田空港跡地第2ゾーン)
※2016年3月提案時点のイメージ



羽田連絡道路のイメージ
出典：「羽田空港周辺・京浜臨海部
連携強化推進委員会 資料」

※本ページに記載の内容は、将来のイメージを示すものであり、今後変更の可能性があります。

④ 臨海部（中央防波堤埋立地・島部を含む）

スクエアの連携

蒲田駅周辺・大森駅周辺・羽田空港周辺・臨海部において個性ある拠点を形成するとともに、拠点同士をつなぐネットワークの強化により有機的な連携を高めて相乗効果を発揮し、より大きな拠点性を発揮することを目指します。（再掲）



臨海部：世界を魅了する産業・スポーツ・憩いの拠点

臨海部は広域的な交通や、製造業・物流・文化・レクリエーションなどの多様な都市活動が集積しています。産業・観光振興・交通ネットワークの強化・水と緑のネットワークの形成などにより、多くの人々を呼び込み、さらなる発展を目指します。



④ 臨海部 – 現状と課題 –

項目	内容
資源	<ul style="list-style-type: none"> ・海に面した公園やレジャー施設 ・大田市場 ・空港関連産業との連携 ・中央防波堤埋立地 ・3島（昭和島・京浜島・城南島）を始めとする工業集積
対応すべき課題 （マスタープランに おける重点課題を含 む）	<ul style="list-style-type: none"> ・空港臨海部のポテンシャルを活かす交通ネットワーク整備（鉄道、道路、水上交通など） ・既存のものづくり工場と新たな立地が見込まれる空港・港湾機能との調和 ・空港臨海部で働く事業者の操業環境改善、施設の機能更新、企業誘致 ・空や水辺とふれあえる魅力ある空港臨海部の創出、観光拠点の形成
関連計画・動向	<ul style="list-style-type: none"> ・「空港臨海部グランドビジョン 2030」（平成 22 年） ・平和島駅周辺地区まちづくり協議会（平成 22 年） ・大田臨海部まちづくり協議会（平成 26 年） ・流通センター駅周辺における民間開発、交通ネットワーク形成 ・大森ふるさとの浜辺公園などにおける「新スポーツ健康ゾーン」の整備、アクセスの改善、舟運拠点の整備
区の施策等	<p>【完了した施策等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎海上公園の移管 東京都→大田区（昭和島北緑道公園、昭和島南緑道公園、大森緑道公園） <p>【継続中の施策等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けた取組 ◎舟運実現に向けた取組 ◎海辺の散策路整備 ◎海上公園の移管 東京都→大田区（京浜島ふ頭公園） ◎ブルートライアングルプロジェクトの推進
「空港臨海部グランド ビジョン 2030」 取組の進捗	<ul style="list-style-type: none"> ・空港臨海部の重点プロジェクト 平成 25 年に重点プロジェクト地区として 3 地区（流通センター駅周辺地区、羽田旭町周辺地区、大森ふるさとの浜辺公園周辺地区）を選定。各地区の特色を活かしたまちづくりの考え方を策定し、整備を進めている。 ・3 島連絡協議会 平成 25 年に発足した 3 島連絡協議会に併せて、各島との連絡協議会を適宜開催し、島の操業環境改善やまちづくりに努めている。 平成 27 年度から京浜島内企業の連携を促進するため、検討会を立ち上げ、島の将来像（案）を策定し、平成 28 年度には京浜島オープンファクトリーを開催。 ・にぎわい創出に向けたまちづくり計画 平成 27 年度から臨海部の魅力向上と地域の活性化を図るため、舟運の実施に向けた検討を進め、平成 31 年度から事業者による本格実施を目指して平成 28 年度から舟運社会実験を実施。 ・交通ネットワークの充実・改善 内陸部と臨海部を繋ぐ道路ネットワークの充実・改善に向けた取組を進めており、国や都と協議・調整を行い、交差点改良案等を提案している。 <ul style="list-style-type: none"> ・国道 357 東京港トンネル西行き完成・供用開始（平成 27 年度末） ・国道 357 多摩川トンネル事業着手（平成 27 年度末） ・国道 357 東京港トンネル東行き（平成 30 年度末 完成予定）

大田スタジアム施設改修

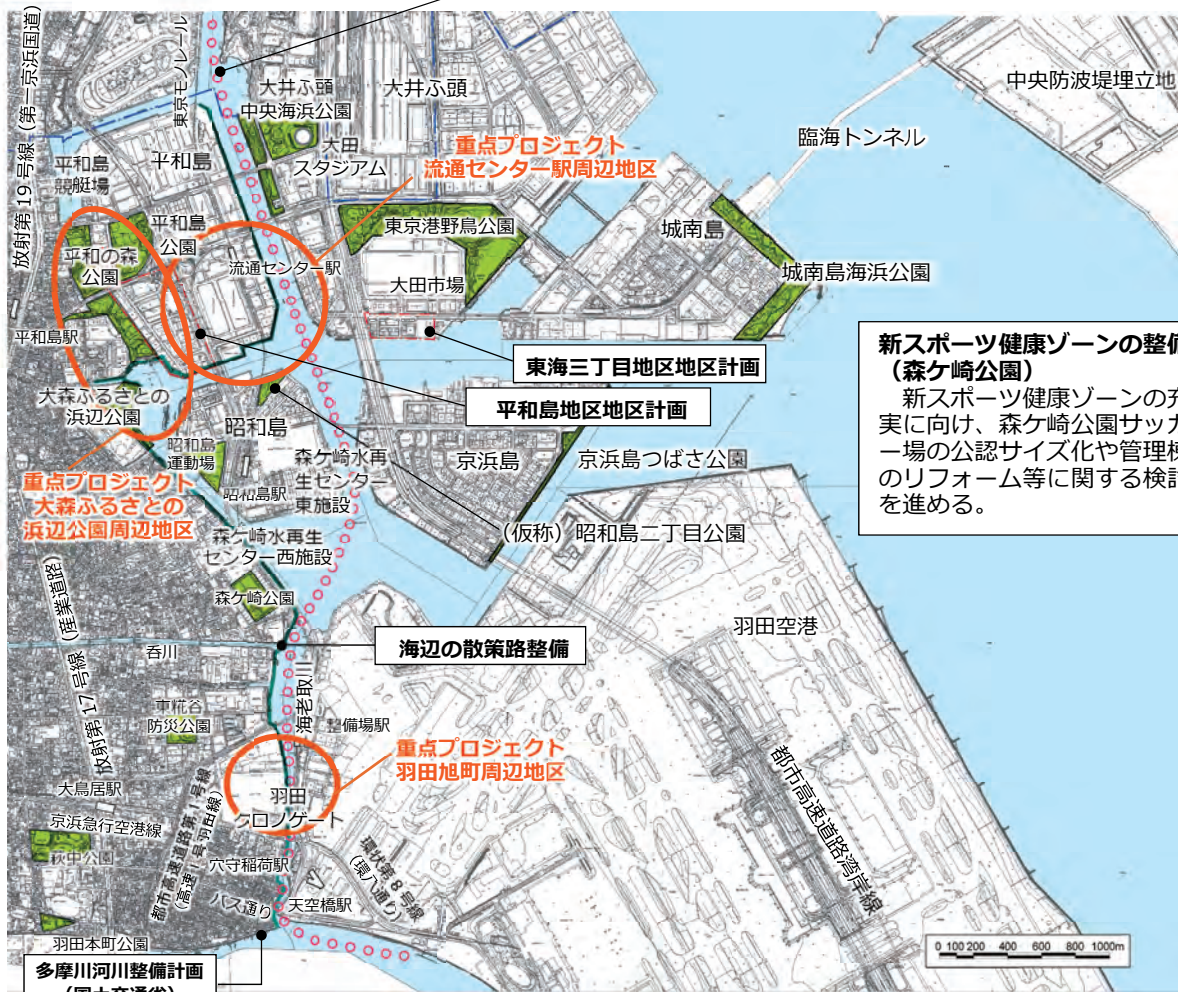
東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会開催を契機に老朽化対策に加えて、ユニバーサルデザインや施設活用等を視野に入れた改修検討を進める。

舟運社会実験

羽田空港から東京都心部への舟運の可能性を検証するため、羽田～浅草・秋葉原の運航を試行的に行う社会実験
平成 27 年 9 月から実施

新スポーツ健康ゾーンの整備

(大森ふるさとの浜辺公園周辺)
大田区の特徴である水辺空間を活用し、誰でもスポーツを楽しむ水辺のレクリエーション拠点として整備し、2020 年東京大会に関連したスポーツ資源の創出を目指す。



新スポーツ健康ゾーンの整備 (森ヶ崎公園)
新スポーツ健康ゾーンの充実に向け、森ヶ崎公園サッカー場の公認サイズ化や管理棟のリフォーム等に関する検討を進める。

海上公園の移管・海辺の散策路整備について



舟運社会実験航路 (東京都)



出典：東京都 HP 平成 28 年 8 月 31 日報道発表資料

④ 臨海部 –まちの将来像–


まちの将来像

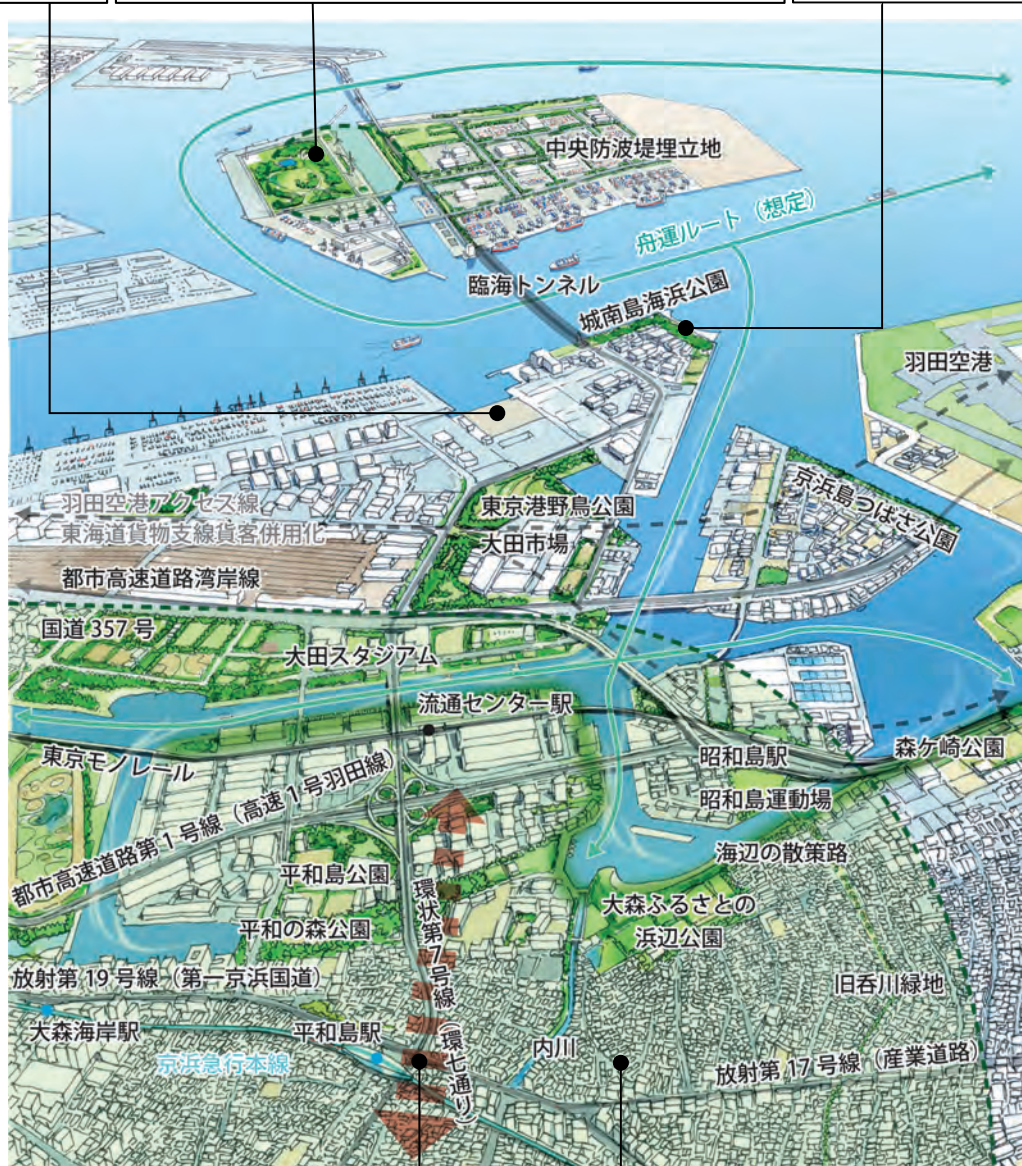
世界を魅了する産業・スポーツ・憩いの拠点

まちづくりの方向性（例示）

- 内陸部と臨海部を繋ぐ新たな公共交通導入の検討。
- 流通センター駅前広場の整備。
- 平和島駅周辺の歩行者環境の改善及び拠点化。
- コミュニティサイクルの拠点整備による回遊性の向上・にぎわいの創出。
- 臨海部に即した自転車レーンの整備（歩道にナビライン・ナビマークを設置）。
- 観光拠点となりうる場所（公園・運河・海辺など）とその周辺における、にぎわいやアメニティの機能や施設の強化。
- マルシェの開催や商店街と連携した常設施設の設置などによる公園内のにぎわいの多様化。
- 大井ふ頭・城南島間埋立地の活用による物流機能の強化。
- 臨海部の特色や魅力を活かしたにぎわいある文化施設の誘致を検討。
- 産業の広域連携や、羽田空港への近接性を活かした創造的産業の育成。
- 昭和島・京浜島・城南島の操業環境改善も含め、将来に向けた方向性を検討・共有し、具体のまちづくりへと展開。
- 平和島ユースセンターの整備・活用。
- 運河や河川等、水辺に沿った散策路の整備。
- 平和島・ミハラ通り商店街・内川遊歩道・大森ふるさとの浜辺公園などを繋ぐ歩行者空間の環境改善。
- 臨海部の自転車走行空間ネットワークの整備。
- 舟運の導入や、船着場の整備等により、水に親しめる空間や拠点を整備。
- 大森ふるさとの浜辺公園周辺等におけるスポーツ施設やサービス施設の整備。
- 平和の森公園、大田スタジアム、昭和島・京浜島・城南島における公共空間の整備。
- スポーツコミッション等を活用した、『新スポーツ健康ゾーン』におけるスポーツ関連施設や宿泊施設等の再整備及び管理・運営の検討。

まちの将来イメージ（臨海部）

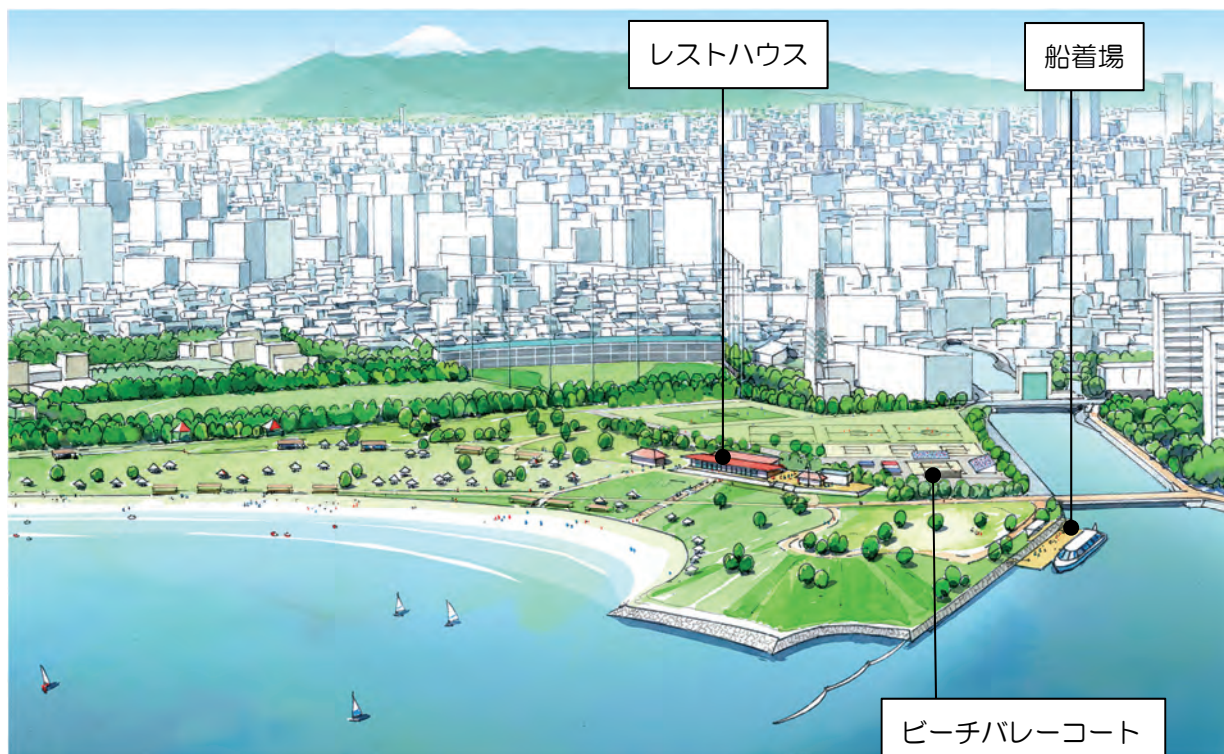
<p>環境に配慮した潤いのある水辺や豊かな自然が感じられる風の道の形成</p>	<p>機能強化された大規模物流施設</p>	<p>にぎわいやアメニティの機能が充実し観光拠点となる公園・運河・海辺及びその周辺エリア</p>	<p>城南島海浜公園の積極的な活用(イメージ)</p>  <p>出典：WILD MAGIC</p>
<p>埋立地活用による物流機能の強化</p>	<p>東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会会場(海の森クロスカントリーコース・海の森水上競技場)</p>		



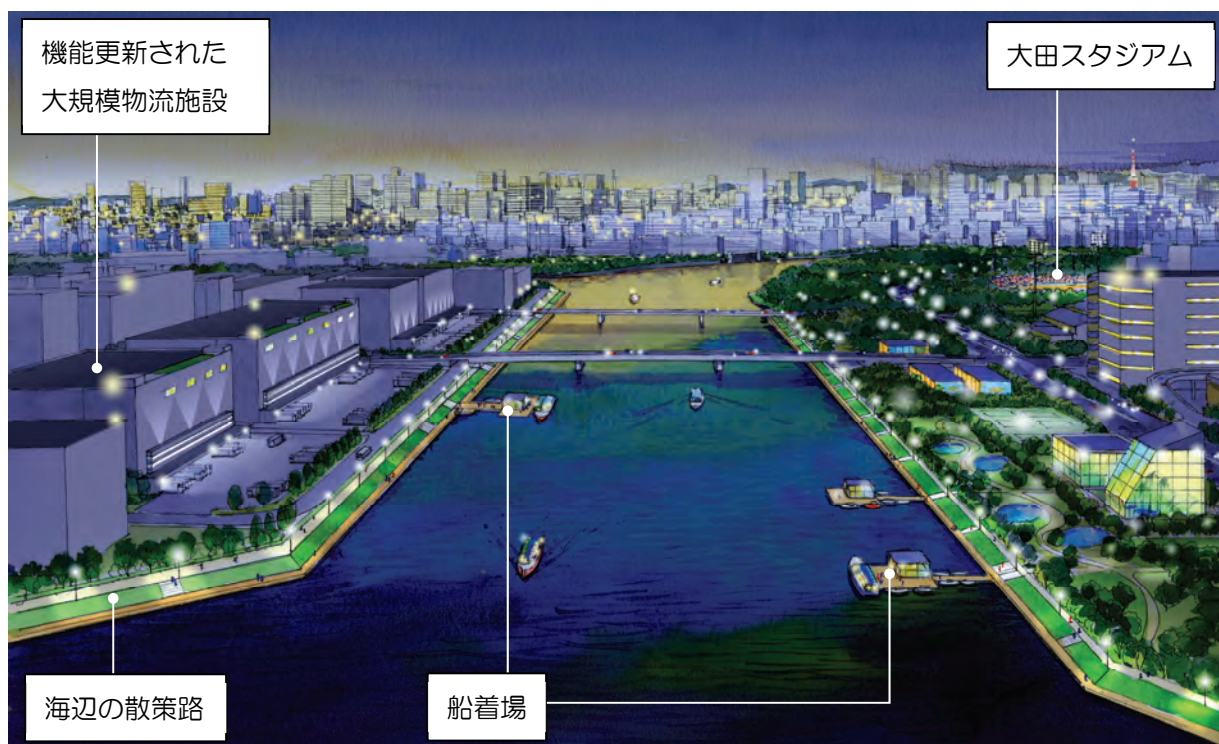
<p>内陸部と臨海部を繋ぐ新たな公共交通</p>	<p>『新スポーツ健康ゾーン』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大森ふるさとの浜辺公園 ・平和の森公園 ・平和島ユースセンター ・大田スタジアム ・大田区総合体育館 ・大森スポーツセンター 	
<p>運河や河川などに沿って張り巡らされた、散策路・自転車走行空間・舟運のネットワーク</p>		

※本ページに記載の内容は、将来のイメージを示すものであり、今後変更の可能性がります。

まちの将来イメージ（大森ふるさとの浜辺公園周辺）



まちの将来イメージ（京浜運河沿い）



※本ページに記載の内容は、将来のイメージを示すものであり、今後変更の可能性があります。

4-2. 新空港線軸の形成

新空港線軸の形成

多摩川沿いでは産業集積が進んでおり、豊かな自然環境と、にぎわい、居住環境との調和により、新しいビジネスとライフスタイルの創出が期待されます。

また、平成 28 年 4 月 20 日に国土交通省の交通政策審議会が出された答申では、新空港線について「矢口渡から京急蒲田までの事業計画の検討は進んでおり、事業化に向けて関係地方公共団体・鉄道事業者等において、費用負担のあり方等について合意形成を進めるべき」と記載され、高い評価を受けました。

新空港線の整備により、多摩川線は羽田空港から東京圏北西部をつなぐ広域的な交通網の一部を担うことなど以下の効果が期待されています。



新空港線の効果

・区内の移動利便性向上	＝ 鉄道を利用した東西交通が便利に!
・おおたのまちづくりを推進	＝ 鉄道整備とあわせて沿線のまちづくりを推進!
・地域の活性化に寄与	＝ 大田区における経済波及効果は約1,400億円! ※

※ 関西大学宮本勝浩名誉教授による算出。建設投資と消費支出の各経済波及効果を足した初年度の額。

駅機能の更新・強化が必要な「下丸子」は、新空港線の整備とあわせて駅改築と交通結節機能の整備をはじめとするまちづくりにより、新空港線軸沿線地域の拠点として重点地区に位置づけます。

また、国際都市おおたの玄関口にふさわしい「羽田地区」や、マスタープランにおける地域のまちづくり拠点である「糀谷」、良好な生活環境を誇る「田園調布・多摩川」についても、新空港線軸の拠点となる重点地区として位置づけます。

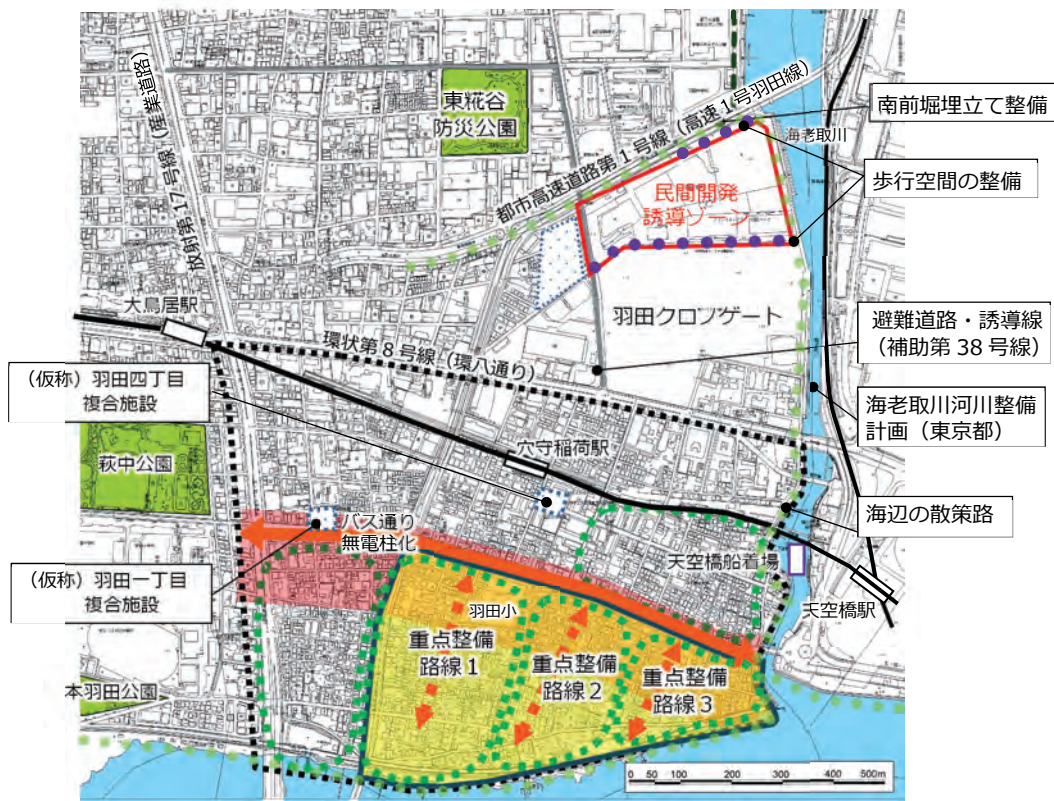
<重点地区>







- ⑤羽田地区（京浜急行空港線）
- ⑥糀谷駅周辺（京浜急行空港線）
- ⑦下丸子駅周辺（東急多摩川線）
- ⑧田園調布・多摩川（東急東横線・東急多摩川線）

⑤ 羽田地区 – 現状と課題 –

項目	内容
資源	<ul style="list-style-type: none"> ・羽田空港と蒲田駅をつなぐ『バス通り』（羽田空港への玄関口） ・穴守稲荷神社・羽田神社、多摩川、海老取川の豊かな水辺と散策路 ・羽田神社夏季例大祭 ・弁天橋等の多彩な橋
対応すべき課題	<ul style="list-style-type: none"> ・木造住宅が密集し、大地震が発生した際に、延焼火災の恐れがある ・羽田三・六丁目内には、円滑な消防活動や避難に必要な道路の幅員が確保されておらず、一時避難場所として活用できる公園の箇所数や広さも不十分 ・避難路となる『バス通り』の、沿道建物の不燃化が進んでいない
関連計画・動向	<ul style="list-style-type: none"> ・「東京都防災都市づくり推進計画」 ・「羽田の防災まちづくりの整備計画」 ・「羽田旭町周辺地域まちづくりの基本的考え方」
区の施策等	<p>【継続中の施策等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎重点整備路線3路線の拡幅整備、公園の整備拡充 ◎不燃化特区助成及び規制による都市防災機能の向上 ◎防災街区整備地区計画（導入を検討中）

＜整備計画図＞



-  **事業区域**：事業を導入するエリア
-  **重点整備地区**：重点的に整備を実施するエリア
-  **主要防災道路**：地区内避難路の基幹路線で延焼遮断帯としても整備する路線
-  **重点整備路線**：避難や消防活動を円滑にするため、拡幅整備を実施する路線
-  **優先公園整備エリア**：既存公園の拡張や用地確保により広場や公園の整備を図るエリア
-  **建替え促進エリア**：道路沿道で建替えを促進し、延焼遮断帯の形成を図るエリア

⑤ 羽田地区 – まちの将来像 –

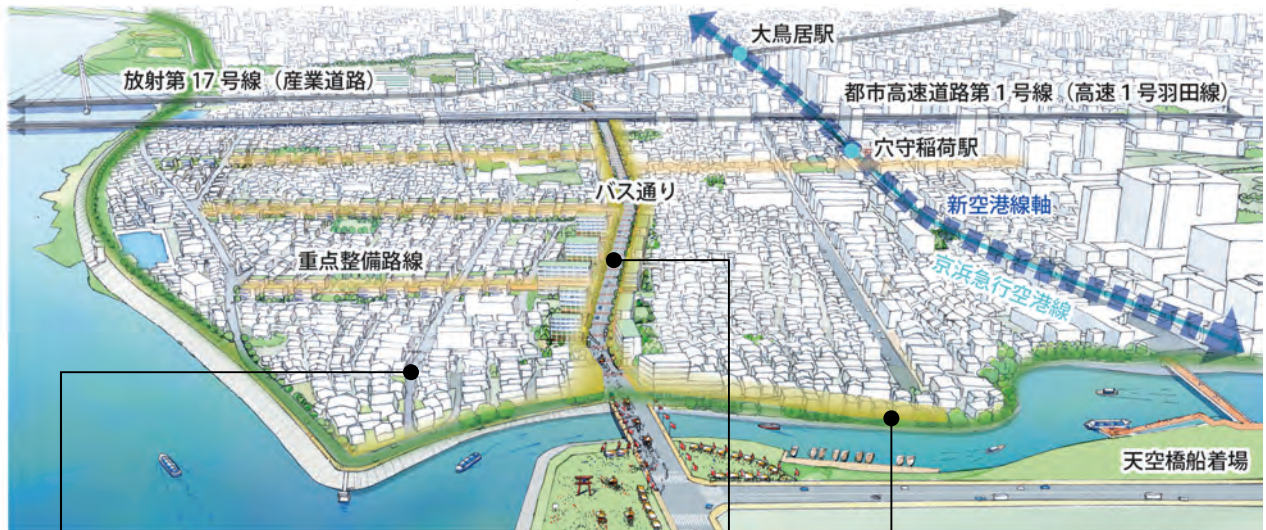
まちの将来像

国際都市おおたの玄関口にふさわしい、
活力にあふれた安全・安心なまち

まちづくりの方向性（例示）

- 補助第 38 号線や大鳥居交差点の立体交差化などによる、交通渋滞の解消や駅へのアクセス利便性の強化。
- 鉄道駅の機能強化や駅周辺の動線改善などにより、駅利用者の増加に対応。
- 羽田空港に隣接する立地条件を活かし、ものづくり産業・人材育成・中小企業活性化などに寄与する機能を強化。
- 外客を受入れるための機能や取組（祭り・舟運・商店街・宿泊など）を強化。
- 重点整備路線は、消防活動や安全な避難に必要な幅員へと拡幅整備。
- 『バス通り』は、倒壊のおそれのある電線類を地中化して、通行の安全を確保。
- 重点整備路線や『バス通り』の沿道をはじめ建替えの際に共同化し不燃化を促進。
- まち中に緑を確保し、災害時には一時避難場所として活用できる広場や公園を配置。
- 地域活動や子育て支援の拠点となる公共施設の整備。
- 多摩川・海老取川沿いの海辺の散策路を整備。
- 工業集積の維持・強化に向けた土地利用及び地域の特性に見合った工業の配置、住環境との調和。

まちの将来イメージ



建替えにあわせた共同化などにより防災性が向上したまち

道路整備や市街地の機能更新が進み、安全で快適なまち

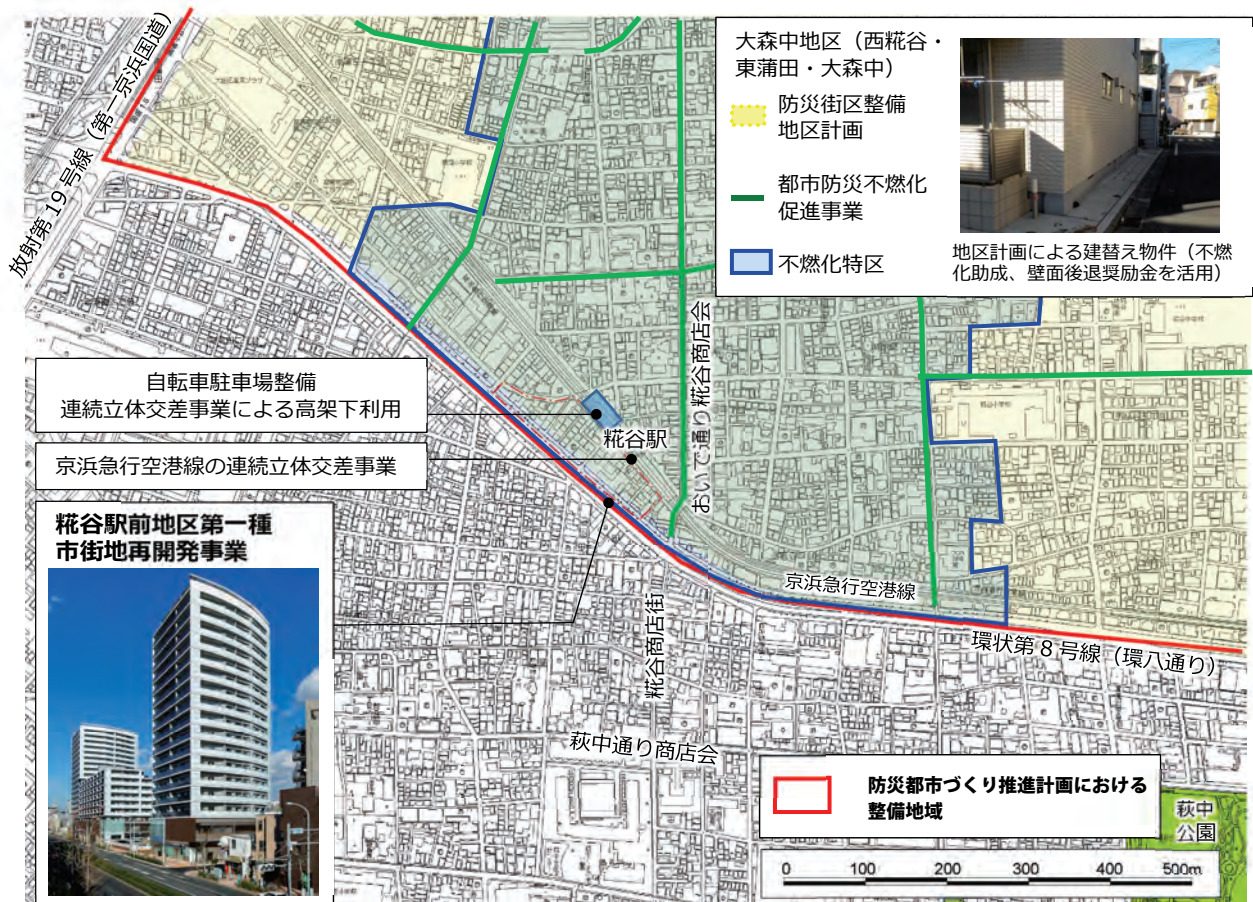
電線類が地中化され、安全性が向上したバス通り
趣があり観光客でにぎわう商店街

海辺の散策路の整備とともに周辺の機能更新も進み魅力が向上した水際

※本ページに記載の内容は、将来のイメージを示すものであり、今後変更の可能性があります。

⑥ 糀谷駅周辺 – 現状と課題 –

項目	内容
資源	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅周辺の活気ある商店街 ・ 糀谷駅前地区第一種市街地再開発事業の完成（交通結節点整備、再開発ビル） ・ 駅前公益施設整備（高齢者支援施設、認可保育園、自転車駐車場）
対応すべき課題 （マスタープランにおける重点課題を含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅周辺の段階的なまちづくり ・ 災害時に被害の拡大が考えられる木造住宅密集地域の改善（大森中地区（西糀谷・東蒲田・大森中）） ・ 耐震・耐火住宅への更新による不燃化の促進
動向	<ul style="list-style-type: none"> ・ 京浜急行線連続立体交差事業の事業区間全線高架化（平成 24 年） ・ 「防災街区整備地区計画」の策定（平成 23 年） ・ 都市防災不燃化促進事業の導入（平成 24 年） ・ 不燃化特区の指定（大森中地区（西糀谷・東蒲田・大森中））（平成 25 年）
区の施策等	<p>【完了した施策等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎踏切解消による交通渋滞の緩和 ◎連続立体交差事業によるまちの分断の解消 ◎高架下利用による自転車駐車場の整備 <p>【継続中の施策等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎連続立体交差事業を契機とした駅前広場整備及び建物の共同化による土地の高度利用 ◎不燃化助成及び規制による都市防災機能の向上（大森中地区（西糀谷・東蒲田・大森中））



⑥ 糀谷駅周辺 - まちの将来像 -

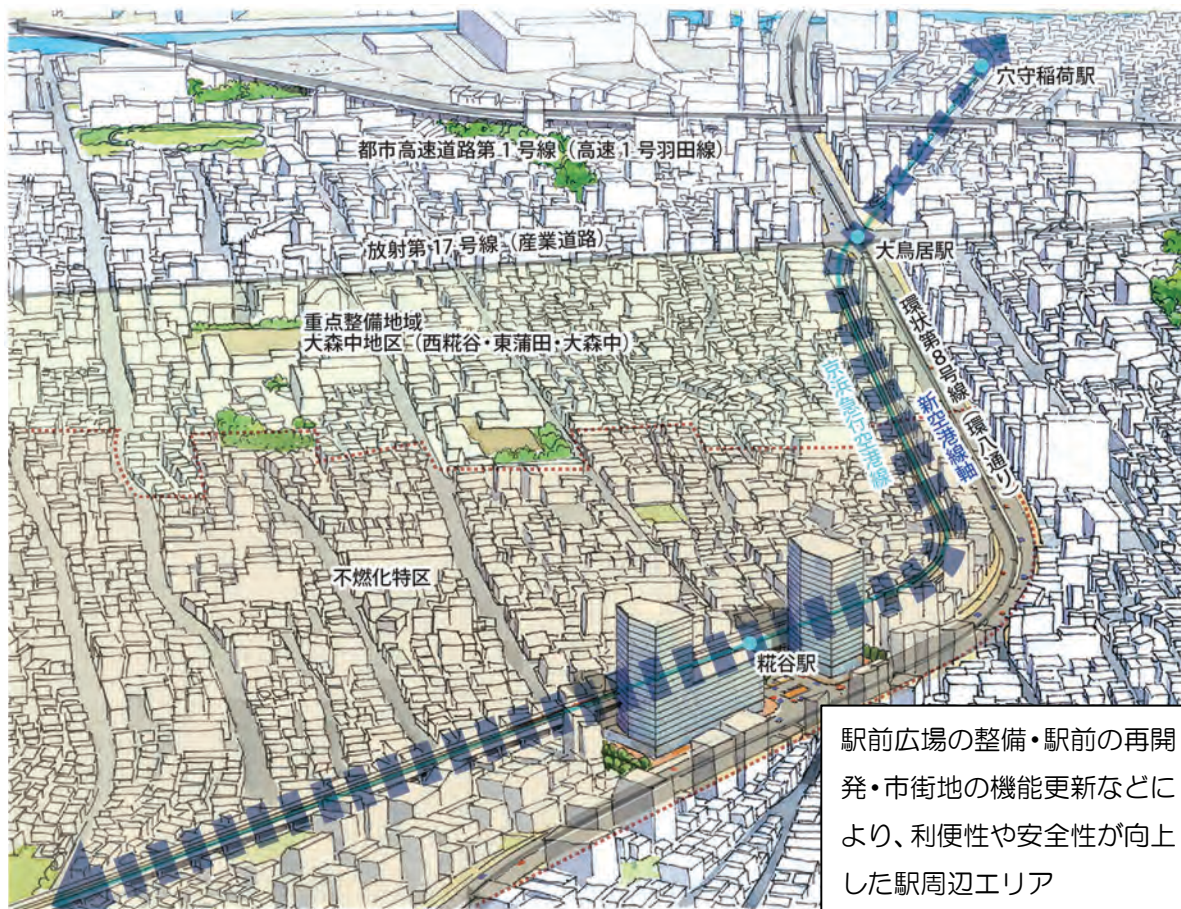
まちの将来像

空港につながり、便利で安全・安心なまち

まちづくりの方向性（例示）

- 京浜急行線の連続立体交差事業や踏切解消による、交通渋滞の緩和とにぎわいの連続性や回遊性の向上。
- 駅前広場整備による交通結節機能の強化。
- 自転車駐車場の整備による放置自転車の解消。
- コミュニティサイクルの拠点整備による回遊性の向上・にぎわいの創出。
- 駅周辺市街地の機能更新。
- 都市型住宅の供給による、新たな住民の獲得。
- 商業施設、子育て支援機能、高齢者支援機能等の生活支援機能や交流機能を糀谷駅周辺に集積。
- 木造住宅を耐火性の高い建物へと建替えることにより不燃化を促進。

まちの将来イメージ



不燃化特区 重点整備地域 大森中地区（西糀谷・東蒲田・大森中）

※本ページに記載の内容は、将来のイメージを示すものであり、今後変更の可能性があります。

⑦ 下丸子駅周辺 – 現状と課題 –

項目	内容
資源	<ul style="list-style-type: none"> 多摩川沿いは大規模施設などが転出した跡地を利用した、高層マンションや商業施設、産業が立地 多摩川の水辺や河川敷、運動場 多摩川線内では蒲田駅に次ぐ乗降客数 広域幹線道路（環状第8号線（環八通り））と地域幹線道路（補助第28号線）の交差点に隣接する、交通結節点としてのポテンシャル
対応すべき課題 （マスタープランにおける重点課題を含む）	<ul style="list-style-type: none"> 多摩川-蒲田間の停車駅の必要性 （新空港線整備に伴う相互直通運転による利便性向上を沿線に還元） 交通結節機能の強化 駅周辺の道路ネットワークの整備 ボトルネックとなっている駅周辺の踏切（下丸子1号、下丸子2号）の改善 環状第8号線（環八通り）と補助第28号線の立体交差都市計画道路が未整備 環状第8号線（環八通り）から駅前に至る道路が未整備 魅力ある拠点としての駅及び周辺のまちづくり
動向	<ul style="list-style-type: none"> 新空港線の整備に合わせて、駅周辺基盤整備の必要性が高まる （駅舎の改良、道路・駅前広場の整備、踏切の解消、駅周辺のまちづくり） 補助第28号線の整備促進（第四次事業化計画 優先整備路線として選定）
区の施策等	<p>【継続中の施策等】</p> <p>◎新空港線整備の促進</p>



⑦ 下丸子駅周辺 – まちの将来像 –

まちの将来像

空港につながり、職・住・憩い・にぎわいが集まるまち

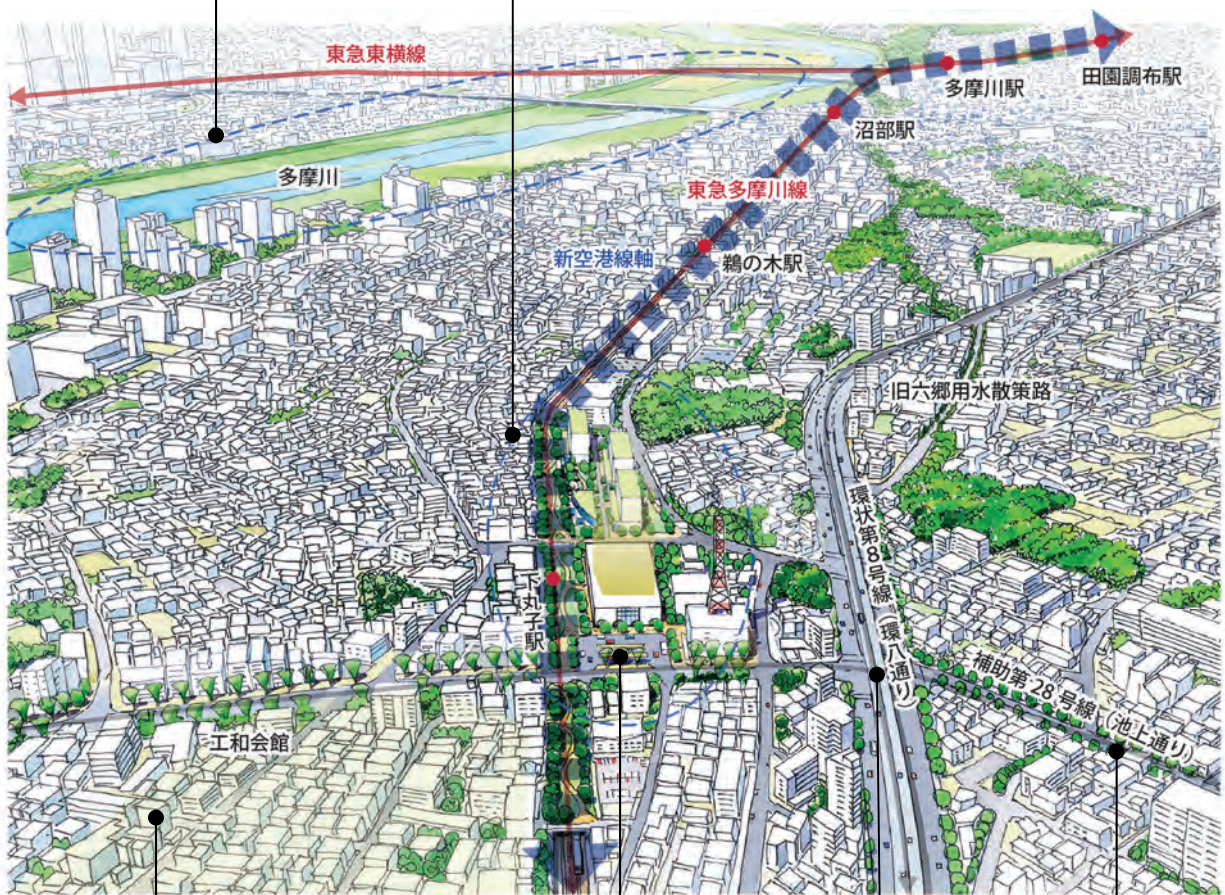
まちづくりの方向性（例示）

- 鉄道駅の機能強化（駅施設の改修など）により、駅利用者の増加や新空港線の車両導入に対応。
- 駅前広場の整備やバス網の再編などにより、公共交通の利便性が向上し交通結節機能を強化。
- 東急多摩川線の立体化（高架化又は地下化）や環状第8号線（環八通り）の立体交差化、補助第28号線の拡幅整備などによる、交通渋滞の解消及び駅へのアクセス利便性の強化を検討。
- ボトルネックとなっている駅周辺の踏切（下丸子1号、下丸子2号）の解消。
- 自転車駐車場の整備などにより、居住者も就業者も安全快適に往来する、にぎわいのある都市空間を形成。
- 区民プラザの建替えや駅周辺の基盤整備などに合わせた、産業・ビジネス機能（オフィス・インキュベーション・会議室等）や生活支援機能（図書館、保育所、病院、健康施設等）の強化。
- リノベーションやオープンファクトリーなどを契機とした、産業の活性化と交流の促進（工和会館、くりらぼ多摩川など）。
- 工業集積の維持・強化に向けた土地利用及び地域の特性に見合った工業の配置、住環境との調和。
- 多摩川の河川敷や旧六郷用水散策路等の崖線沿いにある豊かな緑を活かし、まちづくりに合わせた緑の拡充・ネットワーク化及び潤いある都市空間の形成。
- 河川敷や公園などの公共空間を活用し、人々が交流・健康・スポーツを楽しめる機会を創出。

まちの将来イメージ

交流・健康・スポーツなどへの活用と魅力の発信が進む多摩川の水辺空間

道路と鉄道の立体交差化・鉄道駅の機能強化・区民プラザの建替えなどを契機として、駅前広場の整備や都市機能の集積が進み、交通結節機能や利便性が向上した駅周辺エリア



リノベーションやオープンファクトリーなどにより、地域の産業や交流が活性化

公共交通や歩行者のための施設や空間が充実した駅前広場

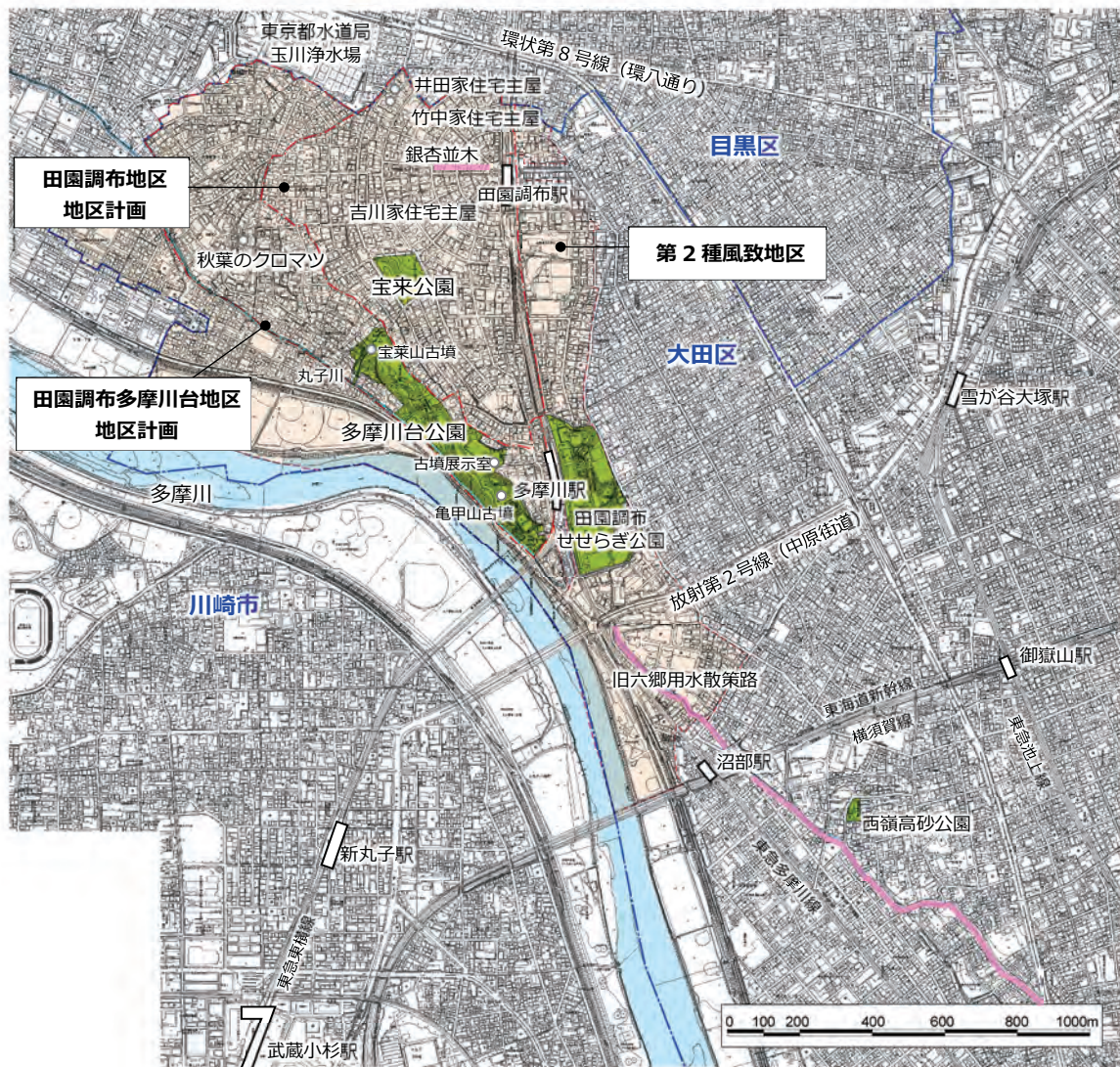
立体交差化された環状第8号線（環八通り）

拡幅整備された補助第28号線（池上通り）

※本ページに記載の内容は、将来のイメージを示すものであり、今後変更の可能性があります。

⑧ 田園調布・多摩川 – 現状と課題 –

項目	内容
資源	<ul style="list-style-type: none"> ・良好な環境をもつ住宅街 ・親水空間としての多摩川や河川敷 ・田園調布せせらぎ公園、多摩川台公園、宝来公園などの緑豊かな大規模公園 ・田園調布せせらぎ公園にある湧水や貴重な自然が存在するなど、観光資源が多く存在 ・亀甲山古墳及び古墳展示室等の歴史資源 ・多摩川八景に選定された多摩川台公園からの景観
対応すべき課題 (マスタープラン における重点課題 を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺の良い景観に配慮した、低層住宅を主体とする市街地の保全 ・新空港線沿線の拠点整備 ・公園施設の魅力発掘や利活用の推進 ・多摩川の利活用に関する広域的な連携
動向・区の施策等	<ul style="list-style-type: none"> ・田園調布せせらぎ公園の整備拡充 【継続中の施策等】 ◎多摩川台公園の整備拡充 ◎公共施設適正配置の検討



⑧ 田園調布・多摩川 –まちの将来像–

まちの将来像

文化の香り漂う緑豊かなゆとりと潤いのあるまち

まちづくりの方向性（例示）

- 周辺の良い景観に配慮した、低層住宅を主体とする市街地の保全。
- （仮称）田園調布せせらぎ公園文化施設の整備及び公園の整備拡充。
- 田園調布せせらぎ公園周辺の公共施設の適正配置。
- 旧六郷用水散策路の再整備。
- 公園・多摩川の水辺・歴史文化施設などをつなぐ歩行者空間や緑のネットワークの拡充。
- 多摩川を地域資源ととらえた、水辺と一体的な散策路による回遊性の向上。

まちの将来イメージ



※本ページに記載の内容は、将来のイメージを示すものであり、今後変更の可能性があります。

4-3. 駅周辺の魅力ある生活環境の形成

駅周辺の魅力ある生活環境の形成

区内に形成された様々な住宅地において、生活の質を高めるためには、主要な駅周辺に都市機能を再編・集約し、後背地からのアクセスを確保することが重要です。

地域の個性を活かした生活環境の形成を進めるため、池上、大岡山、雑色、平和島、雪が谷大塚（マスタープランにおける地域のまちづくり拠点）を駅周辺の魅力ある生活環境の形成のモデルとして位置づけ、防災・環境・景観面も含めた生活環境の向上を図ります。

また、洗足池は、新たな歴史・文化施設の建設や公園整備等の施策があることから、同様のモデルとして位置づけます。更に西馬込は、良好な生活環境や都心へのアクセス、観光資源等を活かし、馬込と一体のモデルとして位置づけます。

なお、池上駅周辺及び池上本門寺等については、観光拠点としての機能強化や駅周辺の基盤整備を図ります。



<重点地区>

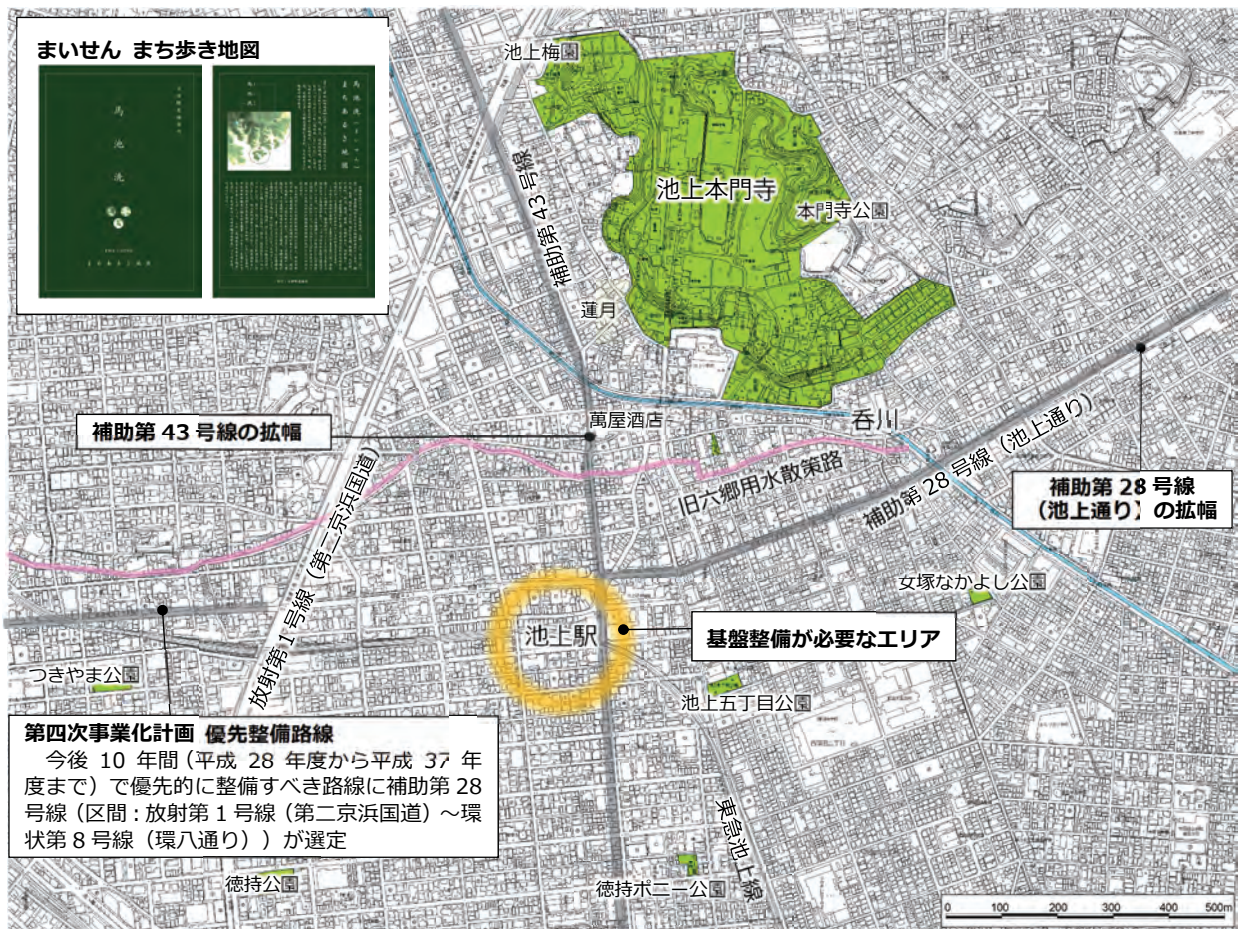
- ⑨池上駅周辺（東急池上線）
- ⑩大岡山駅周辺（東急大井町線）
- ⑪雑色駅周辺（京浜急行本線）

洗足池駅周辺・西馬込駅周辺はプロジェクト⑤で描いています。

平和島駅周辺はプロジェクト①大森駅周辺で描いています。

⑨ 池上駅周辺 – 現状と課題 –

項目	内容
資源	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな自然環境 池上本門寺及び文化財 全国から参詣者を集める御会式 バス路線網の起点 親水空間としての呑川沿道 池上本門寺周辺に寺社仏閣が集積 歴史的な街並みと建造物
対応すべき課題	<ul style="list-style-type: none"> 道路の拡幅整備にあわせた歩行者空間や自転車走行空間の確保 駅周辺の基盤整備 安全な駅機能の実現（構内踏切の解消） 生活環境を確保するための、建物の高さ制限や敷地規模、敷地内緑化などの地区まちづくりルールの策定 観光資源としての可能性を高める、歩いて楽しめる空間づくり 歴史を感じられる街並みづくりと地域のまちづくり拠点の形成 呑川緑道の整備による潤いのある水と緑のネットワークの形成
動向	<ul style="list-style-type: none"> 池上地区まちづくり協議会（平成 26 年） 池上駅舎改築計画 補助第 28 号線（池上通り）が第四次事業化計画 優先整備路線として選定
区の施策等	<p>【継続中の施策等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎まいせん（馬込・池上・洗足池）の連携による観光振興 ◎公共施設適正配置（図書館等）の検討 ◎駅周辺基盤整備の検討 ◎池上本門寺通り商店会（旧参道）の景観整備



⑨ 池上駅周辺 – まちの将来像 –

まちの将来像

歴史・文化・自然を大切にし、にぎわいあふれ、
区民や来街者が快適に過ごせるまち

まちづくりの方向性（例示）

- 池上駅周辺の交通基盤（道路、駅前広場など）の整備。
- 交通結節機能の強化。
- 地域資源のネットワーク化による区外からの観光利用を促進。
- 観光バス等の駐車スペースの検討。
- 池上本門寺の魅力を生かす景観整備（寺町の雰囲気を感じられる参道の再整備・多摩産材を活用したストリートファニチャーなど）や、観光資源（池上梅園、松濤園、寺院等）・公共施設・駅・商店街などのネットワーク化による、回遊性向上とにぎわいの創出。
- 呑川緑道の整備等による、地域資源を結ぶ散策ルートの形成。
- コミュニティサイクルによる観光資源間の回遊性向上。

まちの将来イメージ



機能強化が
なされた池上駅

交通広場や道路の整備などにより
交通結節機能が向上した駅前空間

歴史的な風情が感じられる参道空間

駅舎のイメージ



高幡不動駅（橋上駅舎化）



池上本門寺通り商店会（旧参道）
景観整備イメージ

※本ページに記載の内容は、将来のイメージを示すものであり、今後変更の可能性があります。

⑩ 大岡山駅周辺 – 現状と課題 –

項目	内容
資源	<ul style="list-style-type: none"> ・水と緑が豊かな自然環境 ・東京工業大学 ・良好な住宅地 ・東急目黒線、東急大井町線の乗換ができる拠点駅
対応すべき課題	<ul style="list-style-type: none"> ・東京工業大学や商店街と連携したまちづくり ・観光拠点と公共交通との連携促進
動向	<ul style="list-style-type: none"> ・大岡山地区まちづくり協議会（平成 23 年）
区の施策等	<p>【完了した施策等】</p> <p>◎大岡山駅周辺開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅前広場の整備 ・地下自転車駐車場の整備 ・東急線地下化による駅ビルの建設 ・東急病院の駅上部への移転



駅前広場、地下自転車駐車場の整備



東急線地下化による駅ビル建設（東急病院）



花街道



⑩ 大岡山駅周辺 - まちの将来像 -

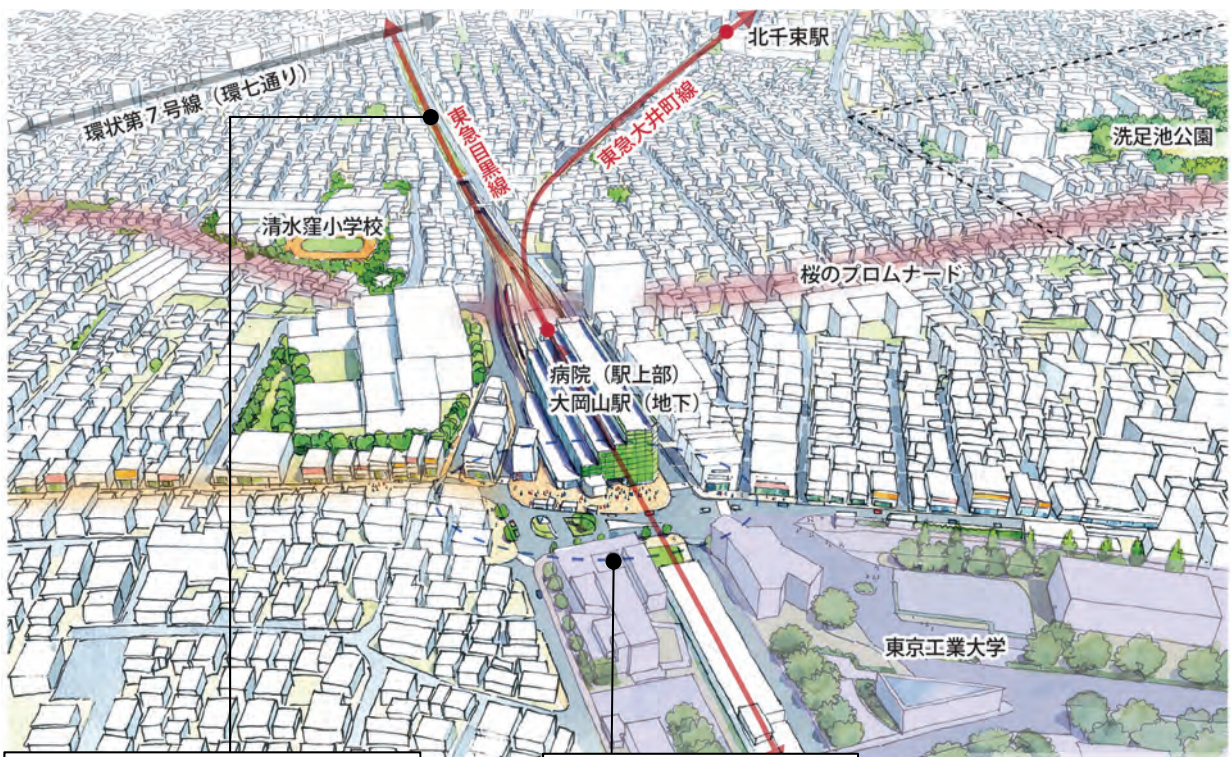
まちの将来像

学術とにぎわいが共存し、緑豊かな住環境が保たれたまち

まちづくりの方向性（例示）

- 東京工業大学や商店街等との連携による、産学官民まちづくりプロジェクトの推進。
- 駅周辺への機能集約による商店街等の活性化。
- 清水窪小学校のおおたサイエンススクールの充実。
- 住民の健康イベント等、ソフトな施策の推進。
- 桜のプロムナードと環状第7号線（環七通り）から東京工業大学、緑ヶ丘駅に至る快適な散策路による回遊性の向上。

まちの将来イメージ



うるおいや親しみのある遊歩道



遊歩道のイメージ

ゆとりや、にぎわいのある駅前空間

洗足風致地区

※本ページに記載の内容は、将来のイメージを示すものであり、今後変更の可能性がります。

⑪ 雑色駅周辺 – 現状と課題 –

項目	内容
資源	<ul style="list-style-type: none"> ・駅の東西両側に長く伸びた活発な商店街（雑色商店街・水門通り商店街） ・六郷地域力推進センターが立地
対応すべき課題	<ul style="list-style-type: none"> ・放射第 19 号線（第一京浜国道）の拡幅と、補助第 42 号線整備による安全な歩行者空間の確保 ・魅力ある地域のまちづくり拠点の形成 ・土地が細分化されているため、駅前にふさわしい土地としての有効利用が必要
動向	<ul style="list-style-type: none"> ・雑色駅周辺まちづくり研究会（平成 15 年発足） ・京浜急行線連続立体交差事業の事業区間全線高架化（平成 24 年） ・六郷地域力推進センター整備（平成 26 年） ・暫定駅前広場の整備（平成 29 年）
区の施策等	<p>【完了した施策等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎踏切解消による交通渋滞の緩和 ◎連続立体交差事業によるまちの東西分断の解消 <p>【継続中の施策等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎連続立体交差事業を契機とした駅前広場及び駅へ連絡する道路の整備 ◎高架下利用による自転車駐車場の整備



⑪ 雑色駅周辺 - まちの将来像 -

まちの将来像

親しみやにぎわいのある安全・安心なまち

まちづくりの方向性（例示）

- 放射第 19 号線（第一京浜国道）及び補助第 42 号線の拡幅整備。
- 京浜急行線連続立体交差事業を契機とした、駅周辺の再開発及び駅前広場の整備。
- 自転車駐車場の整備。
- 安全で快適な歩行者空間の整備。
- 新しいものと馴染みのものが融合した、来街者も楽しめる雑色駅前通り商店街の形成。
- 駅前広場におけるまちの案内板等の設置、歩行者の商店街への誘導。
- 駅周辺再開発とあわせたソフトなまちづくりの取組の推進。
- 駅前再開発と、六郷地域力推進センターや教育施設の駅周辺への集約による、生活環境の向上及び地域まちづくりの推進。
- 工業集積の維持・強化に向けた土地利用及び地域の特性に見合った工業の配置、住環境との調和。

まちの将来イメージ



※本ページに記載の内容は、将来のイメージを示すものであり、今後変更の可能性がります。

4-4. スポーツ健康都市づくり

スポーツ健康都市づくり

大田区は、スポーツを通じて区民が豊かで健康的な生活を営み、まちがにぎわいと活力を増していくことを願い、平成 24 年に「スポーツ健康都市宣言」を行いました。区民が日常的にスポーツに親しむことで健康の維持・増進を図れるように、地域力を活かして、区民が地域で自主的にスポーツを楽しみ、健康につなげる仕組みを構築し、広げることが重要です。そのために、区民が身近な地域で気軽に継続してスポーツに参加できる環境を整備するとともに、スポーツ活動の機会や場所の確保・充実に積極的に取り組みます。

「新スポーツ健康ゾーン」を構成する、総合体育館をはじめとする特色あるスポーツ施設を有機的に連携させることで、ゾーン全体を活性化するための施策を展開していきます。

また、体育館や武道場などの整備について検討していきます。

こうした取組によって、スポーツ健康都市宣言にふさわしい、スポーツを通じて健康で豊かに暮らせるまちをつくります。

現状と課題

子どもの体力向上、成人の健康保持、高齢者の健康及び体力の維持など、健康づくりのためにスポーツをしようという区民意識が高まりつつある中で、障がいの有無、年齢、性別、国籍に関わらず、個々の実情に即したスポーツの推進が求められています。

また、区民のライフスタイルの多様化や少子高齢化の進行などを背景に、区民ニーズが大きく変化しているなか、区の持つ地域力を最大限に活かし、区民・地域と行政の連携・協働により、スポーツをツールとして地域を活性化していくことが重要となります。

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催は、区民の多様なスポーツへの参加意欲の醸成や、国際交流を育む絶好の機会です。世界共通の文化であるスポーツを通じた国際交流により、諸外国との相互理解を促進し、「国際都市おおた」を実現するとともに、我が国のゲートウェイである羽田空港に面する優位性を活かして国内外からの来訪者に対し、大田区の魅力と「おもてなしの心」を積極的に発信していくことが望まれます。

将来像

スポーツを通じて区民が豊かで健康的な生活を営み、まちがにぎわいと活力あふれる「スポーツ健康都市」

取組の方向性

1. 「する」スポーツ

スポーツを「する」ことでみんなが「楽しさ」や「喜び」を得られ、生活を豊かにします。継続的にスポーツを「する」ことができる環境づくりに取り組み、心身の健康増進や生きがいに満ちた生き方を実現できるようにします。

2. 「みる」スポーツ

区内にはトップアスリートが行うスポーツを観戦できる場があります。スポーツ観戦を通じて、感動を共有するなど、スポーツへの関心・理解を深めるとともに、スポーツ参加の契機となることを目的に「みる」スポーツを推進します。

3. 「支える」スポーツ

スポーツを「支える」とは、指導者や審判等による支援はもちろんのこと、サポーターやボランティアなど様々な形があります。スポーツを「支える」ことで、多くの人々が交わり共感し合うことにより、地域の絆を強めていきます。

将来イメージ

<スポーツ施設の配置方針図>



※本ページに記載の内容は、今後変更の可能性あります。

4-5. 観光エリアの形成・連携

観光エリアの形成・連携

「知る人ぞ知る魅力」を大切にできる世界とつながる生活（イキイキ）観光都市として、これまでの観光まちづくり活動を継承しつつ独自の産業と都市文化を創造し、大田区の観光を世界に発信します。

羽田空港の国際化とさらなる拡張、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会開催などの機会を捉え、国際都市として来訪者誘致を促進します。

また、蒲田や大森などの中心拠点を起点に、臨海部や馬込（西馬込）・池上・洗足池など観光資源間の回遊性を高め、区の魅力を磨きます。

<区全体>

<重点地区>

馬込（西馬込）・池上・洗足池 など

現状と課題

大田区は、日本の空の玄関口である羽田空港に面するとともに、池上本門寺や馬込文士村などの歴史・文化的な環境、多摩川や臨海部の水環境、身近で特徴的な公園・レクリエーション資源などが豊かな地域です。過年度の区の調査（平成 26 年度観光統計・マーケティング調査報告書）によると「交通の利便性がよいまち」「ものづくりのまち」「東京湾や多摩川に囲まれた水のまち」というイメージが、区民のみならず地域外から見たイメージとして強く、観光都市としてのイメージは希薄でした。

羽田空港跡地及び臨海部におけるまちづくりが進展する中、羽田空港の利用者等が区内での観光、買物や食事、身近な散策等を楽しめるような環境整備が課題となっています。

○区全体

将来像

「知る人ぞ知る魅力」を大切にしながら世界とつながる「生活観光都市」

取組の方向性

1. 空港
羽田空港を起点とし、大田区内に羽田空港利用者を誘客する仕組みをつくり
ます。
2. 水辺
多摩川、運河、臨海部等、大田区の水辺のにぎわいと魅力を創出し、水辺空
間の活用を図ります。
3. 回遊
大田区の観光コンテンツを活用し、地域の魅力を発信していくとともに、区
内の回遊性を高めます。

将来イメージ
＜観光まちづくり方針図＞



※本ページに記載の内容は、今後変更の可能性あります。

目標1 羽田空港に面する地の利を活かし、国際都市としての発展を目指す

●拠点機能を活かした国内外との交流促進

(1) 日本の魅力発信の先導

外国人を含む来訪客を大田区に誘導する拠点として、京急蒲田駅構内に「大田区観光情報センター」を設置しました。

日本文化体験などを含んだ魅力ある観光情報を発信することで、来訪者が区内を周遊することを推進します。

(2) 憩いとにぎわいの国際交流の促進

国際都市として、区内各地で特色あふれる国際交流を促進します。特に、今後整備が進む空港跡地や、海辺の親水性や緑地の開放性など、憩いとにぎわいの空間を創出します。

●国際交流拠点としての魅力を高める環境整備

(1) 日本の玄関口にふさわしい来訪者受け入れ環境の整備

多くの来訪者を迎えるため、交通結節機能のさらなる向上に努めます。

大田区内主要駅と区施設等に公衆無線環境を整備するなど、訪日外国人の快適空間を作り出し、受け入れ態勢の整備を進めてきました。

また、特に舟運ルートや船着場の活用に向けては、国・東京都・近隣自治体等との連携のもと、整備を進めます。

(2) 特区制度等の活用による都市機能の向上

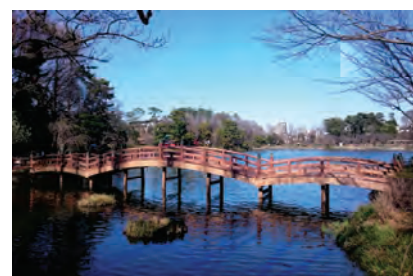
国家戦略特区等の制度を活用した規制の緩和、スピーディーな事業展開により、魅力ある国際交流拠点の形成に向けた環境整備を進めます。



大森ふるさとの浜辺公園



(仮称) 勝海舟記念館 (旧清明文庫)



洗足池公園

目標2 区内各地域の魅力を活かした都市観光への取組

●国際交流拠点としての魅力を高める環境整備

(1) 大森・蒲田などの都市観光の魅力発信

大田区には商店街や飲食店が各所に存在します。また、区内各地域には、歴史的建造物（(仮称) 勝海舟記念館（旧清明文庫））や、ゆかりのある偉人の物語、史跡や銭湯、黒湯温泉、芸術・文化などの地域資源も数多くあります。

これらの魅力を発信し、都市型観光の魅力を経験する仕掛けづくりを更に進めます。

(2) 水と緑のまち大田区を楽しむ仕組みづくり

大田区は、美しい水辺の景観や緑の豊かな自然環境が残っています。また、入江や干潟を持つ公園や飛行機を間近に見られる公園など、大田区の特徴を活かした公園があります。これらを活かし、水と緑を楽しむための演出や観光コースづくりに取り組めます。

(3) 世界に誇る「モノづくり」等大田の産業をみせる仕組みづくり

「おたオープンファクトリー」をはじめ、地域産業の魅力を観光資源としてみせる仕組みづくりを更に進めます。



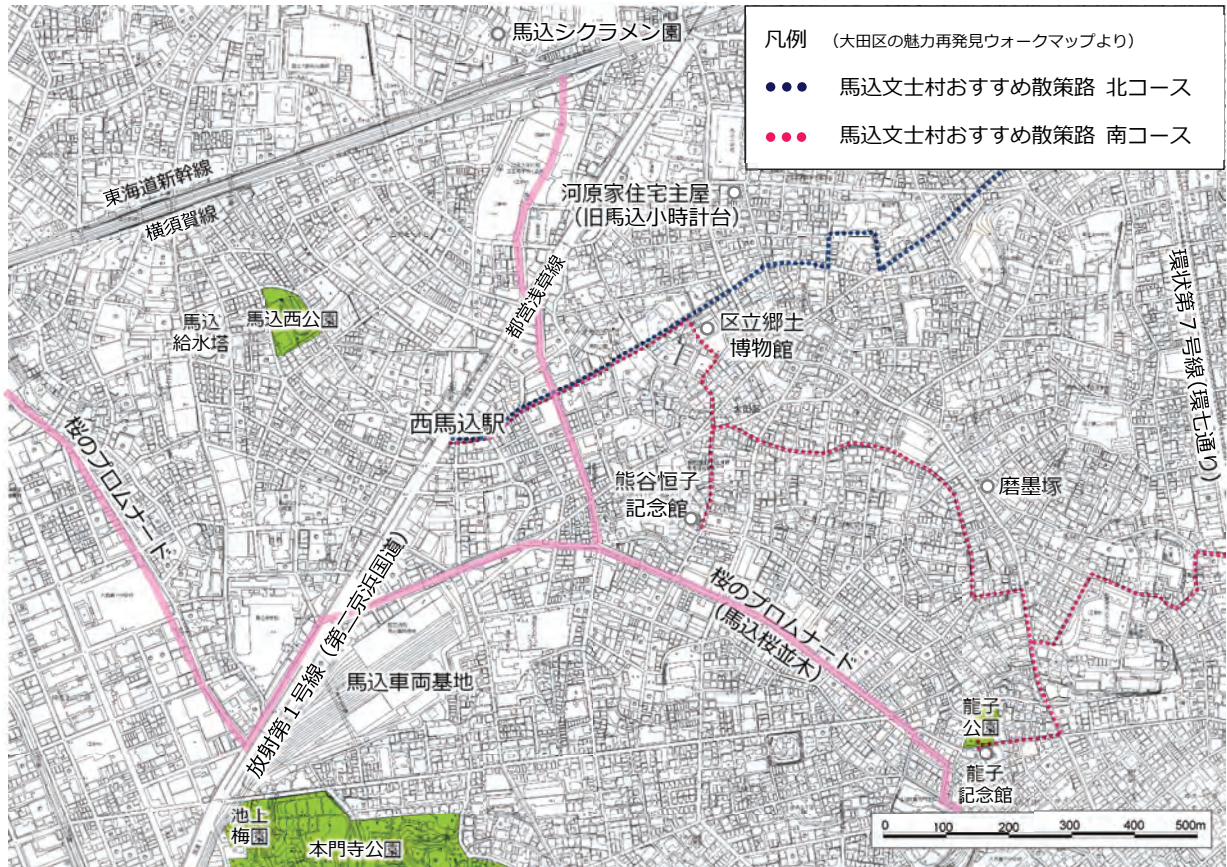
大田区観光情報センター



池上本門寺

○ まいせん（馬込・池上・洗足池）西馬込駅周辺－現状と課題－

項目	内容
資源	<ul style="list-style-type: none"> 馬込文士村、豊かな観光資源 閑静な居住地 さくら祭り 様々な車両を見ることが出来る馬込車両基地 桜のプロムナード
対応すべき課題	<ul style="list-style-type: none"> 本門寺、池上梅園、洗足池、桜のプロムナード（馬込桜並木）等の回遊性の向上・資源のネットワーク化 馬込文士村との連携強化 放射第1号線（第二京浜国道）の歩道部分の拡幅による安全な歩行者空間の確保 タクシー乗り場整備の検討
動向	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設適正配置の検討
区の施策等	<p>【継続中の施策等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎まいせん（馬込・池上・洗足池）の連携による観光振興 ◎馬込文士村への誘導・PRの強化



まいせん まち歩き地図

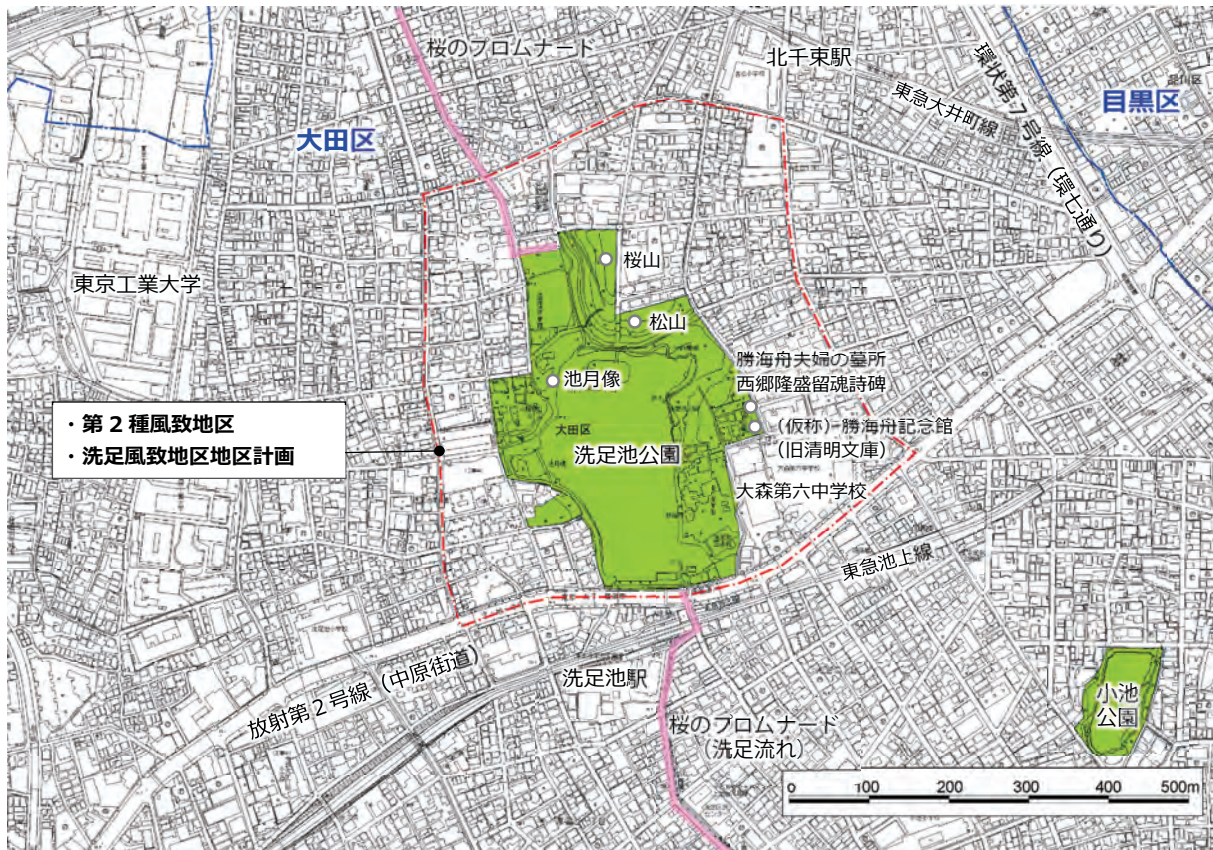


桜のプロムナード（馬込桜並木）



○ まいせん（馬込・池上・洗足池）洗足池駅周辺－現状と課題－

項目	内容
資源	<ul style="list-style-type: none"> 水と緑が豊かな自然環境 歴史的建造物が立地 洗足池の資源（湧水・洗足風致協会、春宵の響き、ほたるのゆうべ、大森第六中学校生徒らによる蛍の放流） 桜のプロムナード 小池公園の湧水
対応すべき課題	<ul style="list-style-type: none"> 集客が見込める公園施設の整備 公園や駅周辺施設等への利用者を増やすためのイベント開催 駅周辺と洗足池公園の一体的な再整備 駅から洗足池公園の景観改善 洗足池と小池との連携
動向	<ul style="list-style-type: none"> 「大田区景観計画」における景観形成重点地区（区として重点的に景観づくりを進める地区）指定の検討 眺望を遮っていた歩道橋の撤去
区の施策等	<p>【継続中の施策等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎まいせん（馬込・池上・洗足池）の連携による観光振興 ◎洗足池公園の整備拡充、（仮称）勝海舟記念館（旧清明文庫）の整備



○ まいせん（馬込・池上・洗足池）

まちの将来像

歴史・文化・自然の回遊が楽しめる、
区民や来街者を惹きつけるまち

まちづくりの方向性（例示）

- 観光バス等の駐車スペースの検討。
- ネットワークのハブとなる西馬込駅周辺整備の検討。
- コミュニティサイクルによる観光拠点間の回遊性向上。
- 洗足流れ・桜のプロムナード等の整備による、まいせん（馬込・池上・洗足池）の連携強化。
- 呑川緑道等の整備による、地域資源を結ぶ散策ルートの形成。
- 歴史文化を活かした展示施設としての（仮称）勝海舟記念館（旧清明文庫）の整備。
- 公園・歴史資源・駅周辺と連携したイベントなどによる地域の魅力の発信。

洗足池駅前（歩道橋撤去）



洗足流れ



呑川緑道



洗足池公園



池上本門寺



桜のプロムナード



馬込文士村大桜まつり



新馬込橋

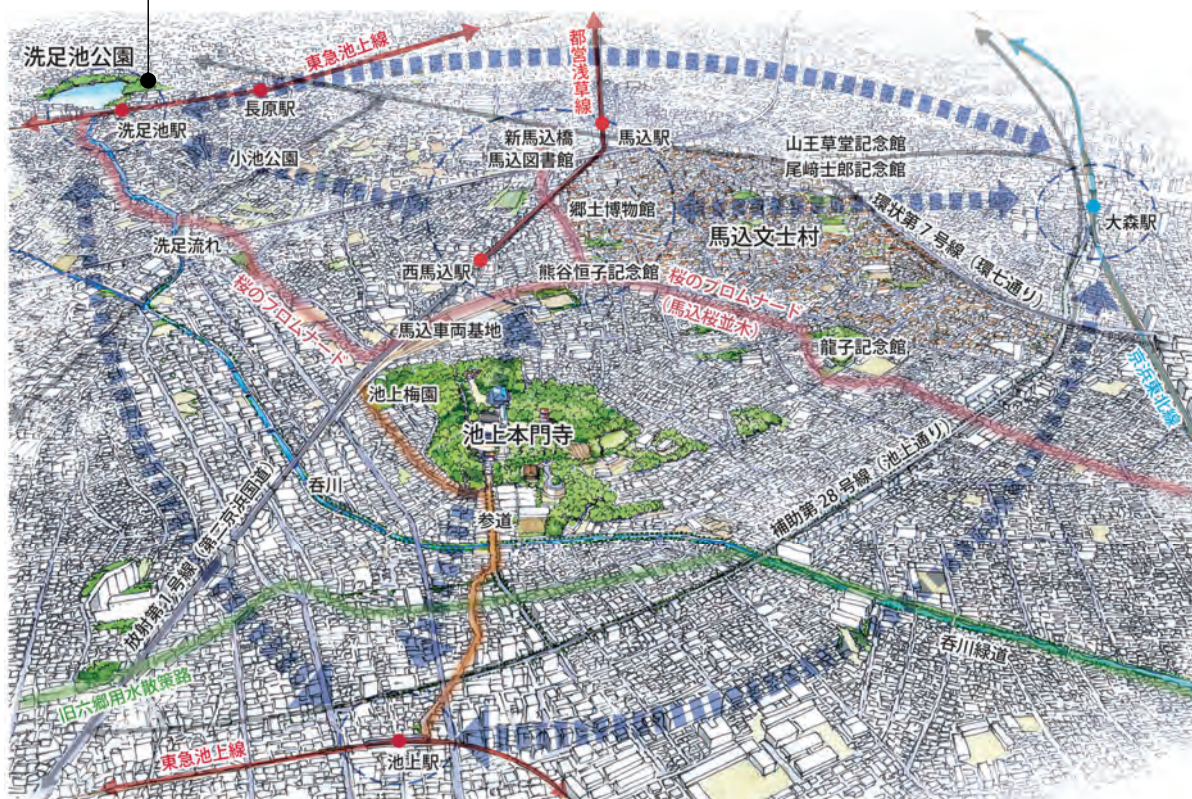


まちの将来イメージ

(仮称)勝海舟記念館(旧清明文庫)の整備などにより、自然と歴史文化の拠点となる洗足池公園

充実した交通ネットワーク

- ・鉄道
- ・バス
- ・コミュニティサイクル など



歴史や文化を感じる街並み

- ・池上本門寺周辺
- ・馬込文士村 など

自然豊かな憩いの場

- ・洗足池公園
- ・小池公園
- ・本門寺公園
- ・池上梅園 など

回遊を楽しめる散策路

- ・桜のプロムナード
- ・馬込桜並木
- ・呑川緑道
- ・洗足流れ など

にぎわいあふれる商店街

あずまや (池上梅園)



山王草堂記念館



尾崎士郎記念館



※本ページに記載の内容は、将来のイメージを示すものであり、今後変更の可能性がります。

4-6. 防災まちづくり

防災まちづくり

巨大地震や自然災害の脅威などに対し、地域特性に応じた安全・安心なまちづくりを進めます。

ソフト・ハード両面の防災まちづくり手法を総合的に駆使し、区民が住み続けながら、災害から生命と財産を守るまちを実現します。

現状と課題

住宅の密集した市街地や住宅と工場が混在した市街地には狭あい道路も多く、災害に対して脆弱な市街地構造を有します。このため都市防災について緊急かつ長期的視点から、安心して生活できるまちづくりを行っていくことが課題となっています。

密集市街地以外でも崖地や過去の浸水履歴地など、震災や水害等の自然災害の被害が予測される地域を中心に防災対策を行い、まちの安全性を高めることが求められています。多摩川沿いに広がる低地部は、水害をはじめとした災害に対する脆弱な市街地となっています。

また、台地部は急傾斜を多く持つ地形で構成されており、崖地の安全対策が課題です。地域に暮らす人が安心して生活できるようにするためには、ハード整備ばかりでなく、いざというときに地域住民で助け合える関係づくりを進めることが求められています。

将来像

首都直下型地震や豪雨による水害、土砂災害の発生などの自然災害に対し、安全で安心して暮らせるまち

取組の方向性

首都直下地震による建物倒壊や延焼火災を防ぐため、耐震化・不燃化に加え、災害後の復旧・復興を見据えた防災・減災対策を進めます。また、巨大地震に加え、水害、土砂災害の発生など様々なリスクに対し、復興対策の手順や進め方を事前に検討し災害に強い市街地を整備する「事前復興」による防災まちづくりにも取組みます。加えて、地域主体の防災・防犯まちづくりを進めます。

<現在の防災まちづくりの取組>



大森中地区（西糀谷・東蒲田・大森中）

- 防災街区整備地区計画
- 都市防災不燃化促進事業
- 不燃化特区



地区計画による建替え物件（不燃化助成、壁面後退奨励金を活用）

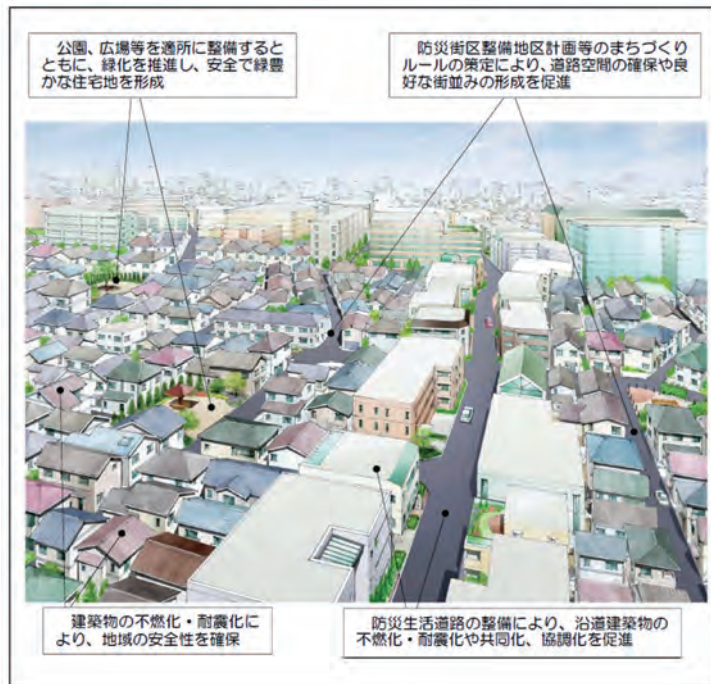
羽田二・三・六丁目地区

- 住宅市街地総合整備事業（密集事業）
- 都市防災不燃化促進事業（予定）
- 不燃化特区



重点整備路線整備イメージ

<「事前復興」による防災まちづくりのイメージ>



出典：東京都都市整備局「防災都市づくり推進計画（改定）」

※本ページに記載の内容は、今後変更の可能性があります。

目標1 建築物の耐震化促進

住宅、マンション、緊急輸送道路沿道建築物などの耐震化を促進し、倒れないまちづくりを進めます。また、災害時の復旧・復興の際に重要な幹線道路の交通ネットワークを建物倒壊から守ります。

- ・住宅、マンションの耐震診断・改修助成
- ・特定緊急輸送道路沿道建築物耐震化助成



区立施設（耐震補強）

目標2 木造密集市街地の整備促進

大森中地域、羽田地域をはじめ、木造住宅が密集する市街地の防災性を高めるため、建物の不燃化、延焼遮断帯の形成や防災拠点へのアクセス向上、無電柱化などを推進し、燃えない・燃え広がらないまちづくりを進めます。

- ・新たな防火規制、沿道地区計画
- ・助成（不燃化特区、都市防災不燃化促進事業）
- ・整備（密集事業）
- ・地域主体の防災・防犯まちづくり



建替えの促進による防災性の向上のイメージ

目標3 橋梁の耐震性の向上

緊急道路障害物除去路線や鉄道をまたぐ橋梁等の計画的な架替え、耐震補強を進め、重要路線の交通ネットワークを確保します。

- ・防災上重要な優先対策橋梁の架替え・耐震補強（緊急道路障害物除去路線や鉄道を跨ぐ橋梁など）



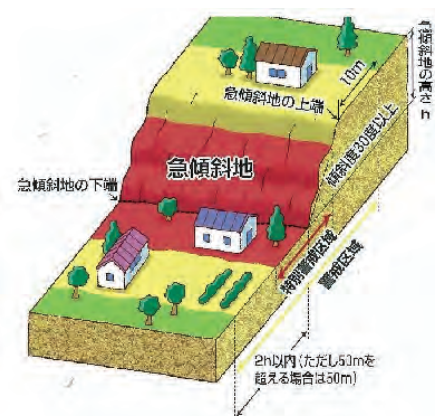
新馬込橋（平成26年度竣工）

目標4 総合治水対策、土砂災害の防止

道路・公園・建物などからの雨水の流出を抑制し、下水道や河川に流入する雨水の量を軽減する総合的な治水対策に取り組めます。

また、土砂災害警戒区域をはじめとするがけの整備を進め、土砂災害防止を図ります。高潮水害や津波による浸水被害を防ぐため、河川堤防や海岸保全施設の整備を進めます。

- ・多摩川沿いの総合的な治水対策
- ・開発事業者に対する雨水流出抑制の指導
- ・雨水浸透柵等設置助成
- ・斜面地の実態を踏まえた、がけ等整備工事助成



土砂災害警戒区域<土砂災害のおそれがある区域>

4-7. みどりあふれる低炭素まちづくり

みどりあふれる低炭素まちづくり

大田区が目指す環境像「環境と生活・産業の好循環を礎とした持続可能で快適な都市」を目指します。

大田区の多様なみどり※により、生活にゆとりや潤いを与えるとともに、景観に配慮したまちづくり、地球温暖化への対応から求められる低炭素まちづくりなどを推進します。

現状と課題

区内のみどりは、質的にも量的にもまだ十分とは言えず、今後も地域全体でみどりの確保が必要な状況にあります。みどりのまちづくりを推進する上では、環境保全や景観形成等の視点だけでなく、地域コミュニティの醸成やまちの魅力向上を図ることも重要な観点となっています。

区内外に誇れるみどり豊かなまちを目指すため、みどりの拠点の保全や水の環境軸・緑の環境軸の形成によって水と緑のネットワークの構築が必要です。

また、エネルギー効率が高く環境への負荷が少ない低炭素型のまちに発展させるため、低炭素型の中心拠点住宅市街地の形成、交通ネットワークの構築などを推進する必要があります。

※「みどり」の定義

みどりとは、樹木、樹林、草地、草花などの「植物の緑」だけでなく、河川や海、池沼などの「水辺空間」、さらには公園や広場、道路、学校などの「公共空間」、家々の玄関先や庭、工場事業所などの「民間の緑の空間」、そして、そこに息づくさまざまな生き物、まちなかの歴史や文化を醸し出す資源など、都市の環境や暮らし、文化などを支える幅広いものです。

大田区緑の基本計画「グリーンプランおおた」より

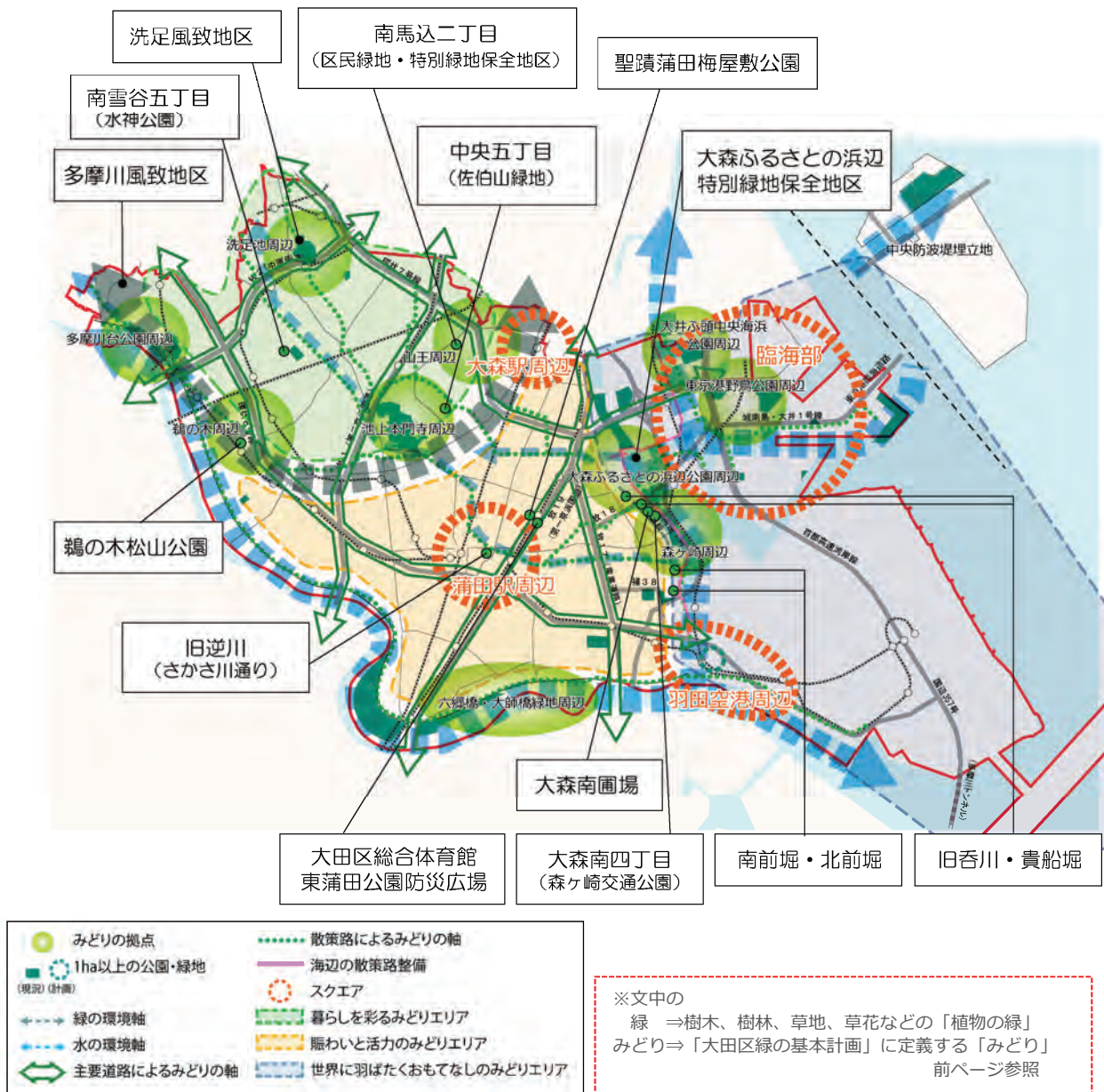
将来像

環境にやさしい低炭素社会や自然共生社会の構築によって次世代に引き継がれる持続可能なみどりあふれるまち

取組の方向性

行政や企業だけが取組むのではなく、区民等一人ひとりが環境問題、みどりなどに対する意識を高め、生活様式を変革し取組を推進します。多様な主体との連携・協働を通じて、快適で安全な暮らしの実現を次世代にわたって持続させます。また、多摩川沿いの豊かな自然環境、にぎわい、居住環境が調和した魅力ある拠点のネットワーク形成を進め、新しいビジネスとライフスタイルを創出します。

将来イメージ 〈みどりの配置方針図〉



※本ページに記載の内容は、今後変更の可能性があります。

目標 1 低炭素社会の構築

区民等、事業者及び区が連携を図りながら、省エネルギー型の行動様式への転換を図ります。

- | | |
|-------------------|--|
| (1) 環境にやさしいまちづくり | ①中心拠点のまちづくり
(緑化の推進、再生可能エネルギー、分散型エネルギーの活用、省エネ建物の整備推進等) |
| (2) 交通ネットワークの構築 | ①空港臨海部における交通ネットワークの検討
②新空港線「蒲蒲線」の整備推進
③自転車等利用総合対策の推進 |
| (3) ヒートアイランド対策の推進 | ①呑川緑道における風の道のまちづくり
②緑化の推進 |



東京港野鳥公園



多摩川下流部

目標 2 自然共生社会の構築

生物多様性の普及・啓発、水と緑のネットワークの構築を図り、大田区における「自然共生社会の構築」を目指します。

- | | |
|---------------------|---|
| (1) 緑の環境軸の形成 | ①臨海部におけるみどりの拠点形成
②緑の骨格づくり |
| (2) 水の環境軸の形成 | ①水辺環境のネットワークづくり
②呑川緑道軸構想
③多摩川沿線の自治体間連携 |
| (3) 身近な緑の確保 | ①貴重な緑の保全
②公園・緑地の整備
③道路空間の緑化推進
④公共施設の緑化推進 |
| (4) 歴史と文化の街並みづくり | ①歴史と文化と自然の散歩道づくり |
| (5) エコロジカルネットワークの形成 | ①生き物の育成・生息空間づくり |



紅葉通り
(旧同潤会の住宅分譲地)



呑川緑道の整備

目標 3 快適で持続可能な地域づくり

まちの美化や景観の形成とともに、多様な主体が参加できるネットワークづくり、学習・情報発信・活動のための基盤づくりを進めます。

- | | |
|---------------------|------------------------|
| (1) 景観・美観に配慮したまちづくり | ①景観計画の推進
②地域美化活動の支援 |
| (2) 環境学習・環境教育の推進 | ①環境学習の推進
②環境保全意識の啓発 |



自然観察会の様子

4-8. 中央防波堤埋立地の将来的な利活用

中央防波堤埋立地

世界に冠たる羽田空港の至近に位置し、東京港の機能強化に向けたコンテナふ頭の整備や人々の憩いの場となる水辺空間等の整備が進められている中央防波堤埋立地は、首都圏の更なる発展に向け、重要な役割を担っています。区は、中央防波堤埋立地のポテンシャルを最大限に活かすため、羽田空港と中央防波堤埋立地を含む大田区臨海部の機能が一体的に活用されるまちづくりを、関係機関と連携しながら進めます。

現状と課題

城南島と臨海トンネルで結ばれた中央防波堤埋立地は、内側埋立地、外側埋立地、新海面処分場からなる、約 989 ヘクタール（埋立完了後）の広大な土地で、その広さは大田区の面積の約 6 分の 1 に相当します。エリアの一部には、東京 2020 オリンピック・パラリンピックの競技会場が整備されます。

しかし、中央防波堤埋立地の帰属先は、未だに決定していません。本ビジョンでは、中央防波堤埋立地を含む臨海部を、スクエアの一角として位置付けています（39 ページ参照）。帰属問題の早期解決を図り、中央防波堤埋立地がもつポテンシャルを最大限に引き出し、活用していくことが求められています。

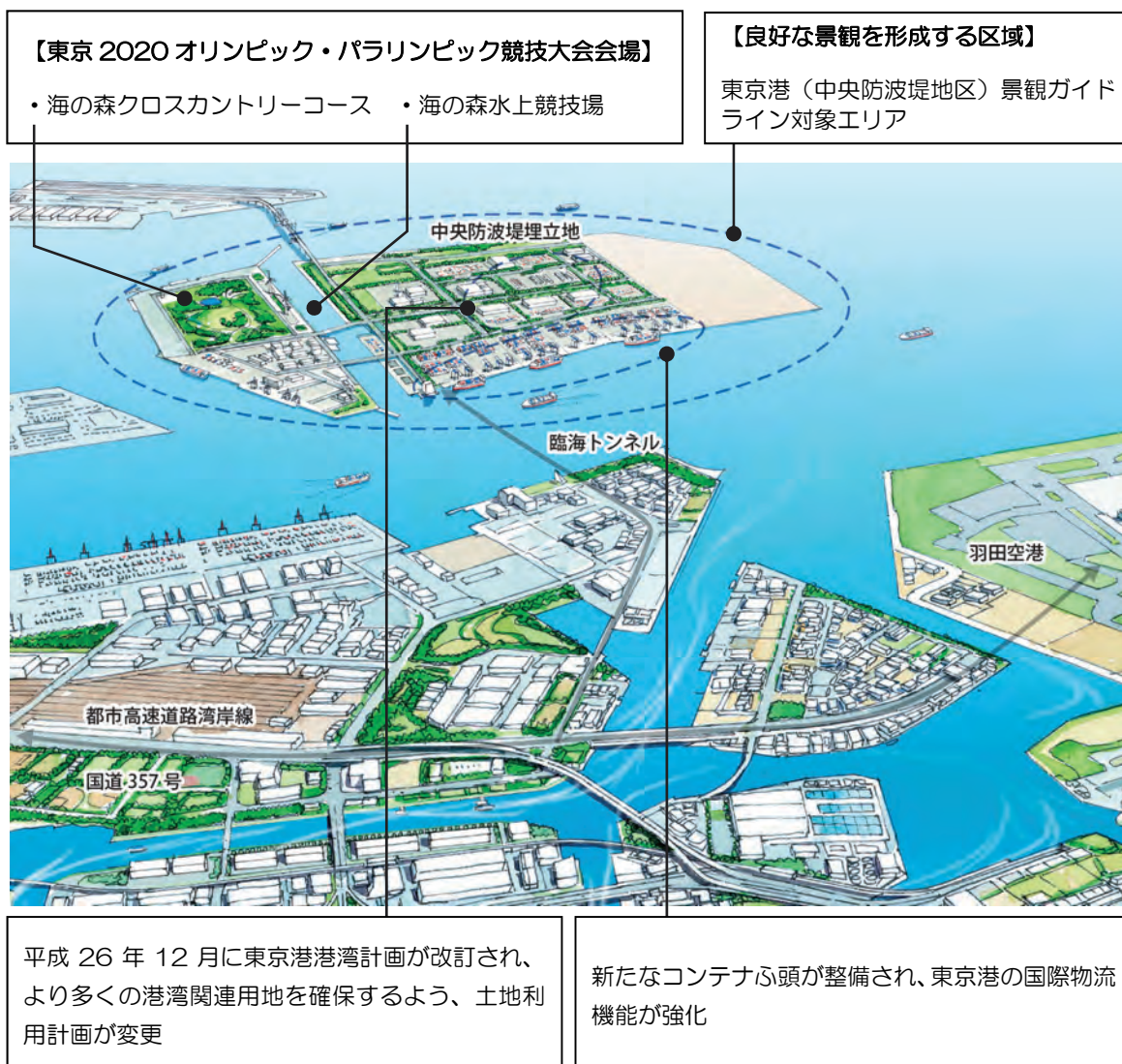
将来像

中央防波堤埋立地のポテンシャルを最大限に活かした空港臨海部の輝く未来の創出

取組の方向性

1. 中央防波堤埋立地付近の海面が、かつて「大田区民の生産と生活の場」であった歴史的沿革などに基づき、中央防波堤埋立地の大田区への全島帰属に向けた取組を積極的に展開します。
2. 今後の東京港の施設整備計画や空間利用計画、環境施策等については、東京都の港湾計画に示されています。さらに発展が期待される羽田空港と東京港の可能性を十分に発揮させるためには、そのバックヤードとなる羽田空港周辺や大田区の臨海部のまちづくりを総合的に進める必要があります。区では、帰属問題の早期解決を図り、東京都をはじめ関係機関と緊密に連携しながら、大田区の空港臨海部と連続した魅力溢れる空間の創出を目指していきます。

将来イメージ



※本ページに記載の内容は、東京都の港湾計画を踏まえ将来のイメージを示すものであり、今後変更の可能性があります。

4-9. 公共施設の適正配置

公共施設の適正配置

人口構成の変化や区民ニーズの多様化・高度化に対応し、効果的・効率的な施設マネジメントによる、区民サービスの維持・向上や、地域ごとの将来のまちづくりを見据えた施設配置を目指します。

現状と課題

大田区では公共施設の老朽化が進んでおり、60%以上が築 30 年以上経過、今後 20 年で多くの施設が更新時期を迎えます。

一方で、社会情勢の変化として少子高齢化の進行、区民ニーズの多様化・複雑化が進行しています。

そこで、人口構成の変化や社会保障関係費の増加など、財政状況を取り巻く様々な環境が変化する中であっても、区は将来にわたり安定的な公共施設の整備、区民サービスの提供をするため、平成 28 年 3 月に「大田区公共施設適正配置方針」を策定しました。

将来像

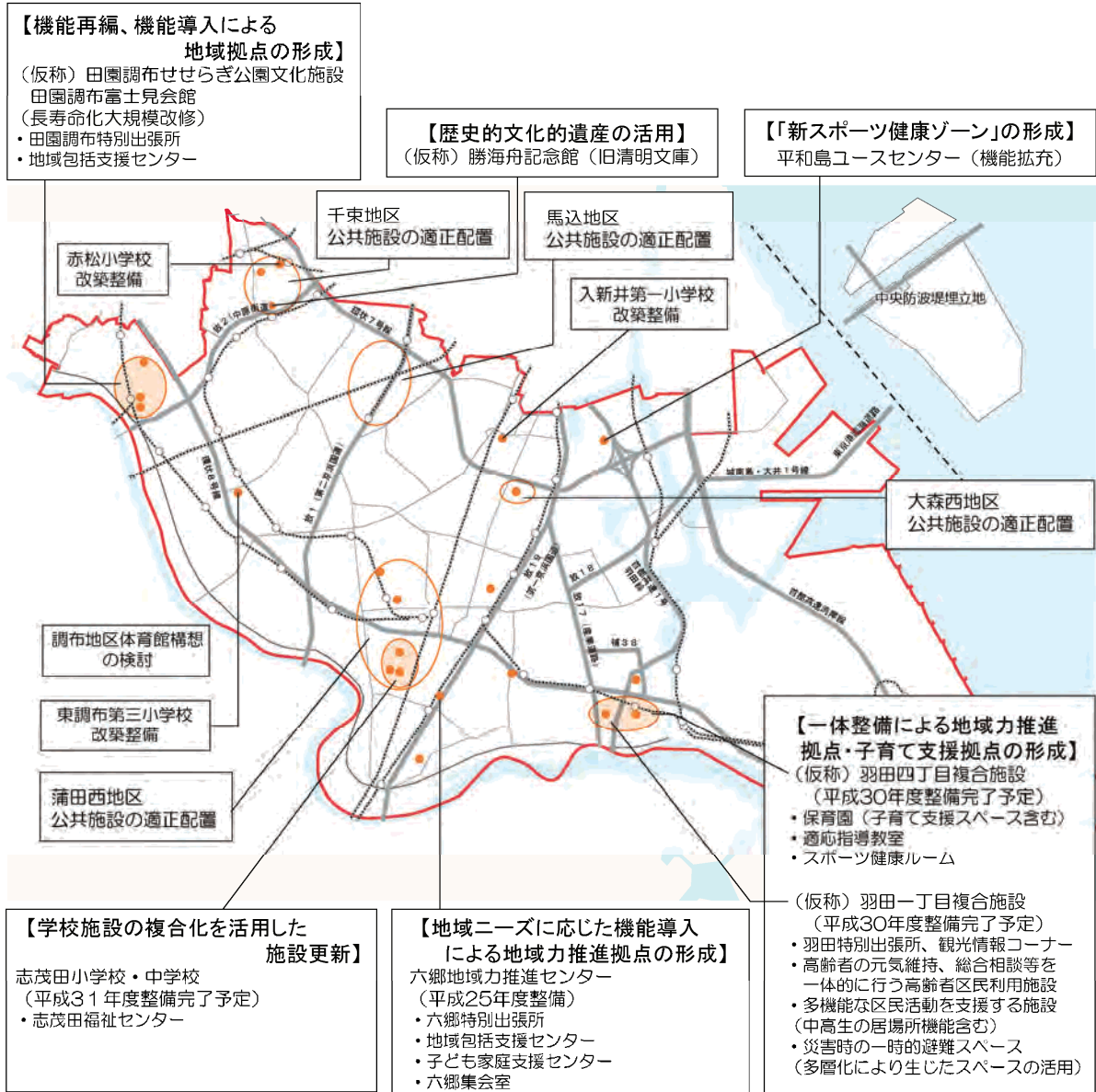
効果的・効率的な施設マネジメントによる区民サービスの維持・向上の実現

取組の方向性

1. 地域ごとの将来のまちづくりを見据えた、施設の適正配置の実現
 - ① 地域のニーズに応じた機能導入による施設の複合化
2. 施設重視から機能重視への転換による、施設の集約及び有効活用
 - ① 施設の多機能化
 - ② 利用状況及び配置バランスを踏まえた見直し
 - ③ 機能に応じた施設の集約、再編
3. 学校施設の複合化・多機能化による、地域コミュニティの活動拠点づくり
 - ① 地域活動の場、子どもの居場所機能の充実
 - ② 建替え、長寿命化改修の併用による、効果的・効率的な施設整備
4. 適切な維持管理、長寿命化による財政負担の平準化及びライフサイクルコストの削減
 - ① 保全施設の選択、優先順位づけ、財政計画との連動
 - ② 計画的な修繕計画に基づく維持管理、建替え、長寿命化改修の併用
 - ③ 未利用地、跡地の有効活用や売却による新たな財源確保
5. 公民連携手法の検討（民間事業者との連携、協働）、推進体制の構築等
 - ① 公民連携手法の検討
 - ② 庁内の推進組織及び体制整備、施設データの一元化

将来イメージ

<公共施設の適正配置の取組>



※本ページに記載の内容は、今後変更の可能性があります。なお、学校改築は公共施設適正配置方針に基づき複合化を視野に入れ検討を進めます。

第5章 ビジョンの実現に向けて

○地域力の結集・発揮による都市づくり

社会状況が変化しライフスタイルが多様化する現代において、多くの区民に受け入れられる、魅力ある都市づくりを進めていくためには、地域における様々な主体が持つ力（＝地域力）を結集することが重要です。そのため、多方面からの共感を得られるよう、大田区の将来像を可能な限り具体的かつ視覚的に示した「おおた都市づくりビジョン」を策定いたしました。

今後は都市づくりの担い手となる多様な主体（区民、事業者、行政など）との対話や「おおた都市づくりビジョン」で示した将来像の実現に必要な「地域力・人・アイデア・技術・場所・資金」等の結集を促すため、以下の4点を意識しながら「おおた都市づくりビジョン」を活用していきます。

- ・都市の将来像を区民と共有し、地域力を生かした魅力ある都市づくりを推進する
- ・「魅力ある大田区」を示し、多方面から、まちづくりの意見を頂くとともに、都市づくりへの参画を促進する
- ・様々な分野の施策と連携し、総合的・一体的な都市づくりを推進する
- ・国や東京都、隣接区市などと都市づくりの方向性を共有し、広域連携を推進する

（1）重点プロジェクトの推進に向けた方策

「おおた都市づくりビジョン」で設定した重点プロジェクトを推進するため、具体的な方策について以下に提示します。

○シンポジウムや意見交換会の開催

「おおた都市づくりビジョン」を活用しながら、シンポジウムや意見交換会などの機会を通じて対話を進め、地域の想いを集めていきます。

○まちづくり計画の発展・深度化及び策定

重点プロジェクトに示す重点地区のうち、既存のまちづくり計画が策定されている地区及びテーマについては、その発展・深度化を図ります。

一方、まちづくり計画が策定されていない重点地区においては、まちづくり気運の醸成を適切に捉えたうえで、地域の想いを踏まえた、新たなまちづくり計画の策定を目指します。

○協働体制の充実

まちづくり計画の発展・深度化及び策定やその運用などにおいては、多様な主体間での協働体制を強化し、的確な役割分担や円滑な合意形成を図りながら進めていきます。

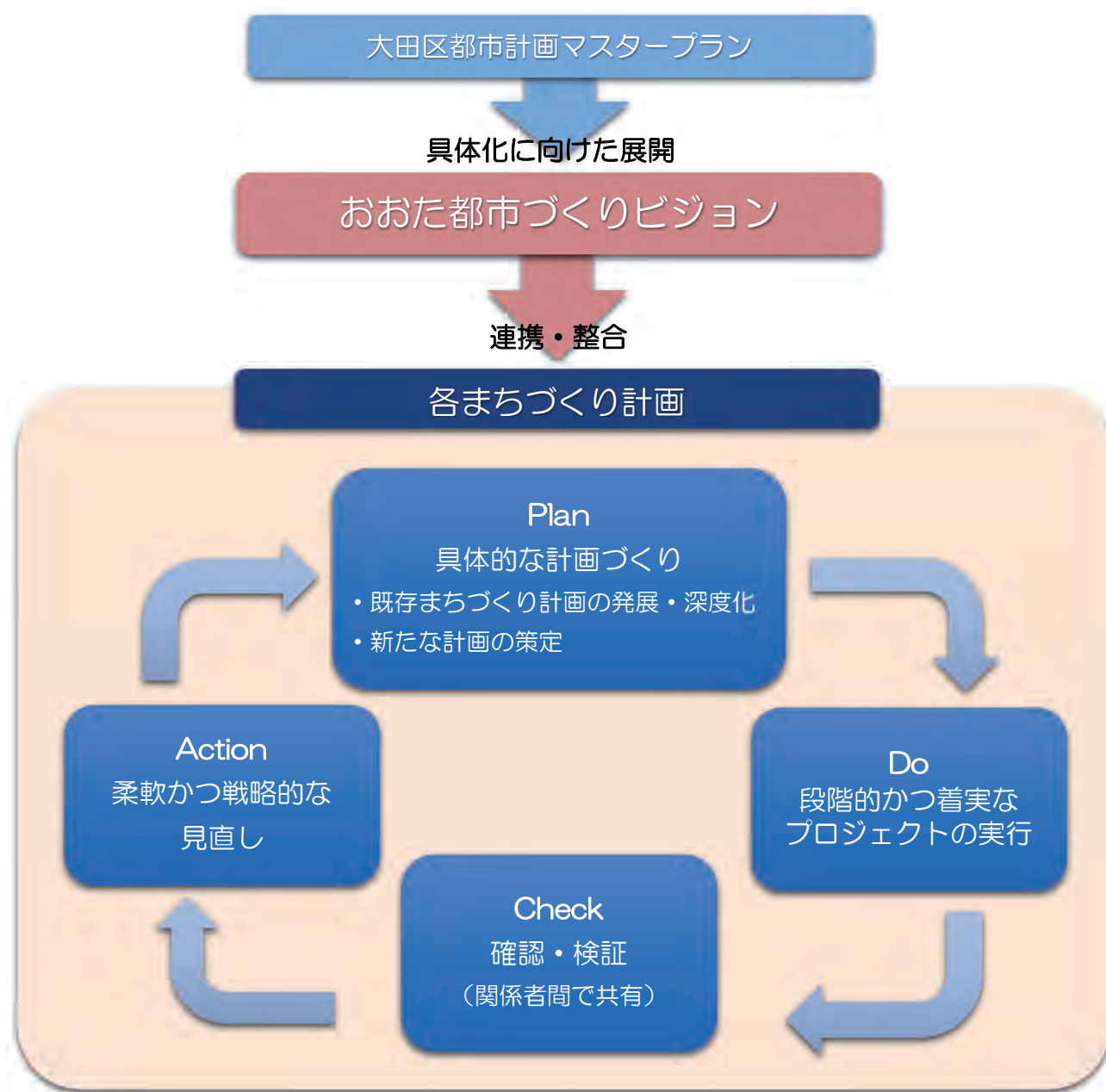
（2）重点プロジェクトの実行・支援

区が実施主体となる重点プロジェクトについて、実施計画や予算編成等を通じて適正に進行管理し、段階的かつ着実な推進に努めます。また、重点プロジェクトを進めるうえで多様な主体との連携・協働や地域力が必要となるものについては、公共的な意義などを踏まえながら、適切に支援していきます。

(3) まちづくり計画の確認及び見直し

まちづくり計画を段階的かつ着実に実行する過程において、その目標や進捗状況等について、確認・検証することとします。

また、まちづくり計画の推進及び一層の展開を図るため、その確認・検証結果を関係者間で共有するとともに、社会状況の変化などに対応するよう、柔軟かつ戦略的に適宜まちづくり計画の見直しを行っていきます。



○策定経緯

(1) 検討体制 : おおた都市づくりビジョン策定検討会 委員名簿

	氏名	選出区分	組織
会長	岸井 隆幸 <small>きしい たかゆき</small>	学識経験者	日本大学理工学部教授
副会長	村木 美貴 <small>むらき みき</small>	学識経験者	千葉大学大学院 工学研究科教授
委員	野原 卓 <small>のほう たく</small>	学識経験者	横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院 准教授
委員	深川 幹祐 <small>ふかがわ みきひろ</small>	大田区議会議員	都市整備委員長
委員	玉川 英俊 <small>たまがわ ひでとし</small>	大田区議会議員	都市整備副委員長
委員	黒澤 明 <small>くろさわ あきら</small>	区職員	まちづくり推進部長
委員	町田 達彦 <small>まちだ たつひこ</small>	区職員	都市開発担当部長
委員	荒井 昭二 <small>あらい しょうじ</small>	区職員	都市基盤整備部長

(敬称略)

(2) 検討経緯

年月日	事 項
平成 28 年 6 月 6 日	庁内検討委員会準備会 ・検討体制、検討スケジュールについて
平成 28 年 6 月 27 日	第 1 回策定検討会 ・都市づくりに関わる動向及び現況について ・都市づくりの視点について
平成 28 年 8 月 9 日	学識調整勉強会（策定検討会の学識委員を交えた勉強会） ・マスタープラン策定後の動向について ・重点プロジェクトの設定について
平成 28 年 9 月 1 日	第 1 回策定庁内検討委員会 ・マスタープラン策定後の動向について ・重点プロジェクトの設定について
平成 28 年 10 月 7 日	第 2 回策定検討会 ・重点地区の設定について ・重点地区の課題と将来像について
平成 28 年 11 月 25 日	第 2 回策定庁内検討委員会 ・おおた都市づくりビジョンの内容について
平成 28 年 12 月 9 日	第 3 回策定検討会 ・おおた都市づくりビジョン（素案）について
平成 29 年 1 月 16 日 ～2 月 5 日	パブリックコメントの実施
平成 29 年 2 月 8 日	第 3 回策定庁内検討委員会 ・パブリックコメントについて ・おおた都市づくりビジョン（案）について
平成 29 年 2 月 14 日	第 4 回策定検討会 ・パブリックコメントについて ・おおた都市づくりビジョン（案）について
平成 29 年 3 月 31 日	おおた都市づくりビジョン策定

○用語集

< ア 行 >

◆アジアヘッドクォーター特区

進出する外国企業に対し、税制優遇をはじめ、規制緩和や財政・金融支援等の措置を講ずる特区。国際戦略総合特区の一つとして平成 23 年に国の指定を受けた東京のエリア。

◆医工連携事業

高度なものづくり技術を有する企業の医療機器分野への新規参入や、医療機関との連携・共同事業を促進し、医療機器の開発・実用化を目指す事業。

◆イノベーション

技術の革新にとどまらず、これまでとは違った新たな考え方、仕組みを取り入れて、新たな価値を生み出し、社会的に大きな変化を起こすこと。

◆インキュベーション

起業家や新しい企業に対し、行政などが経営技術・金銭・人材・施設などを提供し、育成すること。

◆雨水浸透枳

底面及び側面に多くの穴が開いている枳で、降った雨水を地面へと浸透させる設備。

◆駅まちマネジメント

駅の関係者が一堂に会して課題の共有と調整を図る場（駅まち会議）を設置し、PDCA サイクルを実施しながら駅に係る課題を解決すること。

◆エコロジカル・ネットワーク

生物が生息する様々な空間（農地、緑地、水辺、河川、海等）がつながり、生物の移動が容易であるような状態の生息地のネットワークのこと。

◆延焼遮断帯

地震に伴う市街地火災の延焼を阻止する機能を果たす道路、河川、鉄道、公園等の都市施設及びこれらと近接する耐火建築物等により構成される帯状の不燃空間。

◆オープンファクトリー

モノづくりのまちの様々な工場で、加工の様子などモノをつくりだしていく現場を公開し、来場者に体験してもらう取組。

< カ 行 >

◆風の道

風を誘導する風の通り道をつくることで、ヒートアイランド現象に代表される都市の気温上昇を緩和する都市づくりの考え方や手法。

◆観光資源

文化財、名所・旧跡、祭りなど地域における魅力を感じられる要素や、観光やレジャーに使われる施設のこと。

◆狭あい道路

幅員が4mに満たない道路。

◆グランドデザイン

総合的・長期的視点でまちの将来像を掲げ、これを実現させるまちづくりの方針に基づいた取組を示したもの。

◆クールジャパン

日本の文化やコンテンツ産業が国外で評価されていることを背景に、文化的な外交や輸出政策を推進する取組。

◆景観計画

地域特性を反映したきめ細かな景観形成の方針や景観法に基づく届出制度による建築物等への誘導の仕組みをはじめ、良好な景観形成の実現に向けた様々な取組をまとめた計画。

◆減災

あらかじめ災害の発生を想定した上で、その被害を低減させていこうとする事前対策。

◆公共施設適正配置

公共施設が老朽化する中、将来を見据えて計画的に公共施設を適正に配置すること。

◆交通政策審議会

国土交通省設置法に基づき国土交通省内に設置された審議会のひとつで、交通政策の重要事項を調査審議する機関。

◆交通結節機能（交通結節点）

交通機関の乗り換え・乗り継ぎが行われる機能や場所。

◆コミュニティサイクル

歩道上等に複数の自転車貸出拠点（無人の駐輪施設）を設置し、利用者がどの貸出拠点からも貸出や返却できる新しい交通手段。

◆国際戦略総合特区

日本の経済をけん引することが期待される産業の国際競争力の強化のため、国際レベルでの競争優位性を持ちうる地域を選定し、産業の拠点形成に資する取組に対して施策を集中的に推進し、支援を行う特区。

◆国家戦略道路占用事業

国家戦略特別区域法上の国家戦略道路占用事業を実施する各地域団体が、それぞれの公道を活用したイベントの開催時におけるカフェ、ベンチ等の設置等により、都市観光の推進等を図る事業。

◆国家戦略特区

国家戦略特別区域法で地域振興と国際競争力向上を目的に規定された経済特区。

< サ 行 >

◆再生可能エネルギー

風力、太陽エネルギー、水力、バイオマス（植物や動物が生成・排出する有機物から得られる生物資源）、波力等の再生が可能なエネルギー

◆市街地再開発事業

都市再開発法に基づき、細分化された土地を統合し、建築物と公共施設とを一体的に整備することにより、木造住宅密集地域や住宅、店舗及び工場等が混在して環境の悪化した市街地における土地の合理的かつ健全な高度利用と都市機能の更新を図ることを目的とする事業。

◆事前復興

復興時の課題解決に要する負担軽減や復興まちづくりに関する合意形成の円滑化を図ること。具体的には、復興計画の検討に必要な条件整理や復興の将来像・目標像の検討、訓練の実施による復興業務を迅速に進められる人材育成や体制づくり等の取組が挙げられる。

◆住宅市街地総合整備事業

既成市街地において、快適な居住環境の創出、都市機能の更新、美しい市街地景観の形成、密集市街地の整備改善及び街なか居住の推進等を図るため、住宅や公共施設の整備等を総合的に行う事業。

◆舟運

河川や運河において、水上バスなどの観光・レクリエーションとして旅客を運ぶこと。

◆首都圏広域地方計画

国土形成計画は、国土形成計画法に基づき、概ね10ヶ年間ににおける国土づくりの方向性を示す「全国計画」と、複数の都府県にまたがる広域ブロック毎に国と都府県等が、相互に連携・協力して策定する「広域地方計画」の2つの計画から構成される。首都圏広域地方計画は、首都圏についての広域地方計画として、国土形成の方針及び目標と広域的見地から必要とされる主要な施策を定めるもの。

◆生物多様性

生物種の多さと、それらによって成り立っている生態系の豊かさやバランスが保たれている状態。

< タ 行 >

◆大都市戦略

都市の国際競争力強化、高齢者の急増といった大都市が直面する課題等を踏まえ、今後10年程度を見通し国土交通省が策定した大都市政策。

◆地球温暖化

人間の活動により二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの濃度が増加し、地表面の温度が上昇すること。

◆地区計画

都市計画法に基づき、地区レベルの視点から、道路、公園等の配置・規模や建築物の用途・形態等について地区の特性に応じたきめ細かな規制を行う制度。

◆低炭素社会

二酸化炭素の排出が少ない社会のこと。

◆未利用地

適正な利用が図られるべき土地であるにもかかわらず、長期間にわたり利用されていない土地のこと。

◆東京港港湾計画

港湾管理者である東京都が、港湾法に基づき東京港の今後の施設整備計画や空間利用計画、環境施策などを長期的な視点で定める基本計画。

◆特定緊急輸送道路

東京における緊急輸送道路沿道建築物の耐震化を推進する条例に基づき、緊急輸送道路のうち特に沿道建築物の耐震化を図る必要がある道路として指定した道路。

◆特定都市再生緊急整備地域（都市再生緊急整備地域）

都市再生緊急整備地域は都市再生特別措置法の政令により定められ、都市開発事業などにより緊急かつ重点的に市街地整備を推進し都市再生の拠点となるべき地域のこと。その中で、都市の国際競争力強化の観点から特に重要な地域については特定都市再生緊急整備地域として指定される。

◆都市機能

交通・輸送網、商業、福祉、医療、教育、行政サービスなど、都市における活動に必要な機能。

◆都市基盤

道路網、鉄道、河川・運河、上下水道、エネルギー供給施設などの生活・産業基盤や、学校、病院、公園などの公共施設。

◆都市計画区域の整備、開発及び保全の方針

都市計画区域マスタープランとも呼ばれ、都市計画法第6条の2に基づき都道府県が広域の見地から都市計画の基本的な方針を定めたもの。

◆都市計画公園

都市計画法における都市施設のひとつとして都市計画決定された公園。

◆都市計画道路

都市の健全な発展と秩序ある整備をはかるため、都市計画法にもとづいて建設計画が決定された道路。

◆都市防災不燃化促進事業

大規模な地震等に伴い発生する火災から都市住民の生命、身体及び財産を保護するため、不燃化促進区域内における耐火建築物の建築に対して助成金を交付することにより、不燃化の促進を図る事業。

◆土砂災害警戒区域

急傾斜地の崩壊等が発生した場合に住民等の生命又は身体に危害が生ずるおそれがあると認められる土地の区域で、土砂災害を防止するために警戒避難体制を特に整備すべき土地の区域として知事が指定したもの。

◆土地区画整理事業

土地区画整理法に基づき、道路・公園等の公共施設の整備改善及び宅地の利用の増進を図るために行う土地の区画形質の変更や公共施設の整備に関する事業。基本的仕組みは、土地所有者が土地の一部を道路・公園等の公共施設用地として出し合い（減歩）、残りは宅地としての形を整えて交付を受ける（換地）もの。

< ハ 行 >

◆バリアフリー

障害者・高齢者などの生活弱者のために、生活に障害となる物理的な障壁を取り除き、生活しやすくすること。

◆ヒートアイランド

都市部の気温がその周辺に比べて高温を示す現象。

◆風致地区

都市内外の自然美を維持保存するための地区。風致地区においては、建設物の建築や樹木の伐採などに一定の制限が加えられる。

◆不燃化特区

木造住宅密集地域のうち、特に重点的・集中的に改善を図る地区を指定し、都と区が連携して不燃化を推進して「燃え広がらない・燃えない」まちづくりを進める制度。

◆防災街区整備地区計画

密集市街地における防災街区の整備の促進に関する法律に基づく地区計画制度。地区の防災機能の確保の観点から主要な道路等の公共施設を地区防災施設として位置付け、これに沿って建築物の耐火構造化を促進すること等によって、道路と建築物が一体となって延焼防止機能や避難機能を確保することを目的としている。

◆ポテンシャル

まだ表面には表れていない能力、潜在的な発展可能性のこと。

◆ボトルネック

物事を処理する上で妨げとなる場所のこと。交通では、車線数が減少する場所や料金所など、交通渋滞を引き起こす要因となるような場所をいう。

< マ 行 >

◆緑の基本計画

都市緑地法に基づき、緑地の保全や緑化の推進に関して、その将来像、目標、施策などを自治体が定める基本計画。

< ヤ 行 >

◆湧水

地下水が地表に自然に出てきたもののこと。

◆ユニバーサルデザイン

「すべての人のためのデザイン」を意味し、年齢や障害の有無などにかかわらず、できるだけ多くの人が利用可能であるようなデザインにすること。

< ラ 行 >

◆ライフサイクルコスト

製品や構造物などの費用を、調達・製造～使用～廃棄の段階を総合して考えたもの。

◆リニア中央新幹線

超電導磁気浮上式リニアモーターカーにより東京都と大阪市とを約1時間で結ぶ新幹線の整備計画路線。2027年に東京－名古屋間、2045年に東京－大阪間で開業する予定。

◆リノベーション

建築・不動産（公共空間も含む。）の遊休ストックを改修等によって改善するのみならず、新しいライフスタイルの提示、新産業や雇用の創出、コミュニティの再生、エリアへの波及効果等の新たな価値を同時に組み込むこと。

◆連続立体交差事業

市街地において、踏切が連続している鉄道の一定区間を高架化又は地下化することにより、多数の踏切の除去と道路と鉄道との立体交差化を一挙に実現し、踏切事故の解消、道路交通の円滑化、市街地の一体的発展を図る事業。

おおた都市づくりビジョン

平成 29 年 3 月発行

発 行

大田区まちづくり推進部都市計画課

〒144-8621 大田区蒲田五丁目 13 番 14 号

電話 : 03-5744-1111 (代表)



OTA's VISION FOR URBAN DESIGN
～ Looking towards the future vision of the city in the 2030s ～

大田区まちづくり推進部

平成 29 年 3 月発行

〒144-8621 東京都大田区蒲田五丁目 13 番 14 号

☎ 03-5744-1111 (代表)